

平成 30 年度第 3 回つくば市未来構想等審議会

日時 平成 30 年 12 月 6 日 (木)
午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分
場所 庁議室

次 第

- 1 開会
- 2 報告
 - (1) 第 2 回審議会の開催報告
 - (2) 市民ワークショップの開催状況
- 3 議事
 - (1) 人口の動向分析・将来推計の実施状況について
 - (2) 市民、中・高・大学生意識調査の実施状況について
 - (3) 未来像策定のプロセスとプレゼンテーション実施について
 - (4) つくば市が目指す都市・まちの姿について《意見交換》
 - (5) 関係人口に関する調査の実施について
- 4 閉会

配付資料

報告 1	第 2 回つくば市未来構想等審議会 委員意見と対応方針	…P3
報告 2	市民ワークショップニュースレター	…P11
資料 1－1	つくば市の人口動向分析	…P13
資料 1－2	2030 年の社会変化と将来人口	…P31
資料 2－1	市民・中学生・高校生・大学生アンケート調査の実施概要	…P41
資料 2－2	市民アンケート調査の様式	…P43
資料 2－3	高校生・大学生アンケート調査の様式	…P51
資料 2－4	中学生アンケート調査の様式	…P59
資料 3－1	個別施策の主要課題の抽出・整理と類型化	…P63
資料 3－2	未来像抽出のプロセス（時点修正）と戦略	…P79
資料 3－3	未来構想改定の骨子と 2030 年の未来の方向性	…P83
資料 3－4	未来像提案のためのプレゼンテーション実施方法	…P85
資料 4	つくば市が目指す都市・まちの姿について《意見交換》	…P89
資料 5	関係人口に関する調査の実施方針	…P93

平成 30 年度 第 2 回つくば市未来構想等審議会 主な意見と対応方針

日時 : 平成 30 年 10 月 23 日 (火) 14:00~16:00

場所 : つくば市役所 5 階 庁議室

出席者 : つくば市未来構想等審議会委員 23 名 事務局 9 名

1 報告内容について

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他
1	中嶋(信)委員	今後、労働人口が減っていくなか、市内の外国人労働者はどの程度になると推計しているのか。 学校では 1 クラスに 3 名くらいは外国の方がいる状況であり、例えば、これが 3 割程度に増えると言葉の問題が生じる懸念がある。	■今後の人口推計の中で、生産年齢人口についても推計し、改めて御報告させていただく予定であるが、外国人労働者数については国の制度や各企業の状況による影響が大きく、これまで推計を行っていないこともあり、推計可能かどうか対応を検討したい。(一部会議後回答)
2	小玉委員	今後つくば市の外国人の在住がどのくらいになると予測されているか。これにより外国人に対する日本語教育が課題になると思われる。	■今後のつくば市の外国人の人口推移については、これまで推計を行っていないこともあり、推計可能かどうか対応を検討したい。
3	中井委員	市民 WS には何人くらいの申し込みがあったか。また、どれくらいの年齢層の方が WS に参加するのか。	■募集人数を 30 人としたところ、37 人の応募があった。年齢層も、幅広く参加される予定である。
4	永井委員	P21-22 に記載されている、「2030 年の日本や世界の未来予測」の中に、文化・芸術の分野が記載されていない。文化・芸術の分野はつくば市の重要なポイントであると思うので検討していただきたい。	■御指摘の通り、文化、芸術についても加えることがよいと思うので今後、項目として追加することを検討する。
5	北本委員	P21-22 に記載されている未来予測について、予測される先端技術は書かれているが、これにより何が起こるのか考えを深める必要がある。	□現在予測される未来については分野別にまとめているため、今後はいくつかの仮定を設けてシナリオを用意するなどの対応がある。(委員長)

2 職員ワーキングチーム等における未来像抽出のプロセスについて

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他
6	宇津野委員	職員ワーキングで作成された SWOT 分析や未来構想の課題抽出に対してそれをフォローするような上司の意見も吸い上げて反映して預けるとよい。	■ 今回の策定体制として、職員ワーキングチームの上に部長級の庁内検討委員会があり、審議会に出る前に確認を取りながら進めているため、御指摘の点も十分に留意して進める。
7	林委員	資料 5 の STEP1 に記載のある中長期課題の成果については、審議会を確認できるか。	■ 現在、課題の整理及び類型化を行っており、次回の審議会でも提示させて頂く。
8	小玉委員	今回の未来構想はバックキャストを活用し、到達目標を設定して今後の方針を検討する方法をとるとのことだが、前回の未来構想で作成した基本構想、戦略プランのような階層的な構造があるか。また、職員ワーキングで前回と違うような議論があるのかイメージはどのようなものか。	■ バックキャスト、フォアキャスト、両方の視点からつくば市の未来構想を策定することを想定している。つくば市全域のことを把握し、つくば市民の抱える課題を把握することは必要であると認識している。今回も基本構想と戦略プランの二つに分けることを想定している。 ■ 未来構想の原案はワーキングチームで作成し、その後審議会でも意見をいただくことを考えている。
9	北本委員	SWOT 分析で出た戦略は相互に関連があると思う。未来像を掲げるときに、重点を置く政策を検討し、未来像につなげていただきたい。	■ 職員ワーキングチーム STEP1 で抽出した意見を基に、現在つくば市全域を対象とした SWOT 分析を行っている。この作業を経て、中長期的な課題とその解決策を検討する。

3 審議会委員と職員ワーキングチームとの意見交換会の実施について 特になし

4 市民、高校生・大学生意識調査の実施概要及び設問内容について

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他
10	横田委員	大学生を対象とするアンケートについて、学年ごとに考え方が変わってくるため、学年別に分析すると違いが見えると思われる。また、昨年度行われた筑波大学内の WEB アンケートの回収率が、約 22%であった。回収率を上げるために、調査の周知方法について検討する必要がある。また、P44 問 2-5 に記載されている設問について、少子化対策に期待する政策の内容が、自然増減に関する内容が多く、社会増減に関する内容が少ないように思える。	■大学側とのやり取りの関係上、学年別に調査することが難しい。分析の段階で学年別に仕分ける作業を行うことを検討する。アンケートの周知方法については、大学内や宿舎にアンケートの案内を掲示することや、メーリングリストを活用して回答率をあげることを検討している。現在のつくば市の人口増加の理由として、TX 沿線の住宅開発が主な理由であるとみられる。日本全体の人口が減っていく中で、周辺自治体からの流入を期待するような、小さくなるパイを奪い合うのではなく、今後は自然増加を目指した施策に重きを置いている。
11	大島委員	P51-52 について、筑波学院大学は在席している学生の人数が少ないが、頻繁に Web アンケートを実施しているため回収率は期待できるが、職種・業種の違いについては分からない学生もいると思うので、設問の仕方は再検討することがよい。	■御指摘いただいた内容について、大学生が回答する際に難しいと思われる表現は、再度検討することとする。
12	山海委員	P43 について、問 2-2、問 2-3 は 3 つまで回答を選べる形式としているが、回答者本人が、どれを軸にして回答するかにより回答内容があいまいになる懸念がある。 また、人口増加策については、今後は自然増加を目指した取り組みに主眼が置かれるようであればそのような記載を設問にした方がよい。	■選択方式は、単一回答とするか、複数回答とするか、再度検討することとする。
13	門脇委員	現段階のつくば市の人口推計によると、2036 年をピークに人口減少となる。人口が減らないためにどうしたらいいかということを織り込み済みで考えるのかどうかコンセンサスを得る必要があると思う。	■つくば市人口ビジョンの内容を説明に用いている。市民の方が具体的にどのように考えているか伺えればと考えて、このように記載している。

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他
14	中嶋(信)委員	高校生は学力に差があるため、小学校6年生が読んでわかる文言を設問に取り入れることを検討していただきたい。	■ アンケートの設問を分かりやすい文言に修正することや、ルビを振るなどの工夫を行うこととする。
15	広瀬委員	3点ほどお願いがある。 1 つは、アンケートの文言について、給与水準、福利厚生等、高校生が理解しづらい文言は、修正したほうが良いと思う。 2 つ目に、特別支援学校でのアンケート実施については、保護者の協力を得たとしても、就職や結婚等、デリケートな質問があるため、回答を得るのが厳しいように思える。障がいを持った人たちでも容易に答えられるよう設問を用意して欲しい。 最後に、つくば市に通っている高校生は、必ずしもつくば市に在住しているとは限らない。そのため、つくば市に在住している回答者を得るという点では、中学三年生を対象としたアンケートの実施を検討するべきではないか。	■ 高校生を対象としたアンケートの内容が、応えづらいという御意見について、対象者を含め、アンケート内容を再度検討したいと思う。なお、アンケートの実施時期は受験を控える11月であるため、高校受験、大学受験生の負担を減らすために高校二年生を対象に実施することを想定している。 ■ 中学生を対象とするアンケートは、予算や期間の制約があるが、実施について教育局等と協議を行いたい。
16	山海委員	中学生は自分の将来について考える時期であり、この時期の子供に、意見を求めるということは、とても良い取り組みのように思える。	■ 中学生を対象とするアンケートは、予算や期間の制約があるが、実施について教育局等と協議を行いたい。
17	中嶋(修)委員	中学2年生にアンケートを取るの賛成で、教育長も参加していることから、各学校の協力は得られると思う。(会議開催後意見)	
18	小玉委員	社会的な人口増減以外に誘導人口があるがWebなどで意見を聞いていく必要がある。また、2年ほど前に外国人を対象にしたアンケート調査があったが、その内容についても未来構想の参考に活用できるとよい。	■ 御指摘の調査についても参考にしたいと思う。なお、現在3つのアンケートを並行して検討しているが、このほかに関係人口を調査するアンケートを予定している。内容がある程度固まり次第御提示する。外国人を対象にしたアンケートについても参考にしたいと思う。

グレー地
は会議開
催後の意
見

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他
19	生田目委員	特別支援学校や体が不自由な方へアンケート調査することは良いことだが、この内容では厳しいように思える。実施そのものについて再検討する必要がある。 また、未来構想の内容についてグローバル化の内容についてはもう少し厚くすることがよい。	■アンケート対象については再度検討する。問 2-3 について、現在科学技術に関する回答項目が多いため、内容を再検討する。
20	永井委員	P49 高校生向けアンケートの参考資料について、内容が難しいように思える。もう少し柔らかい表現にできるとよい。つくば市の情勢は厳しさを増しているという内容の他にもう少し表現を検討したほうが良いと思われる。	■アンケートの内容と併せて案内文についても再度検討することとする。
21	西委員	P47 バックキャストの方法で未来構想を検討するため、2030年のつくばに求める内容に関する問を先にもってきて、過去の満足度を後に聞く方がすっきりすると思われる。	□バックキャストの方法で未来構想を作るという観点から、設問の順番を右に現在の満足度、左に今後の重要度とする。(毛塚副市長)
22	森委員	2030年のつくばに求める内容について自由に記述できる設問を設けると良いと思われる。	■まだ余白があるため、未来像に対する記述の設問を加える点について検討したいと思う。

5 人口の将来推計の実施方針について

No.	発言者	質問内容	回答 ■事務局 □その他
23	山口委員	つくば市の2030年の人口推計を数値化することで、つくば市の未来について検討することがよいと思うので、作業の優先順位として先に人口推計をした方が良く考える。	■次回の会議では人口推計の結果についてお見せしたい。また、未来構想の検討方法についても、御指摘の点に留意したいと思う。
24	山口委員	未来に対し、夢がある話の他に、現実的な話を想像しなければならない。学園都市のインフラの維持に関する事等検討しなければならないことが他にもあると思う。	□インフラの更新について、未来構想でも扱っていく必要がある。公共施設のマネジメントについては、今後40年間で8,000億円という試算が出ている。現在つくば市の年間の一般会計は850億円である。非常に重く負担がかかってく

No.	発言者	質問内容	回答 ■事務局 □その他
			る。これらの大きな課題についても未来構想で検討していきたいと思う。(毛塚副市長)

6 つくば市が今後力を入れるべき分野<意見交換>

No.	発言者	質問内容	回答 ■事務局 □その他
25	桜井委員	研究学園都市は、つくば市の強みであり維持していかないといけない。若い人にもこれが財産であるというという認識を持ってもらうことが大切である。そのためには、今後は、研究所と行政が緊密にやり取りし、色々な分野で進歩しているもの住民に還元し、人口の自然増につながる取り組みができるとうい。	<input type="checkbox"/> 自然環境やそれ以外の魅力を含めて、つくばの良い面というのをレガシーという形で残していきたい。(毛塚副市長)
26	中嶋(修)委員	未来構想の中に、研究学園都市の財産の維持管理、発展させる内容を入れるべきと考えられる。(会議開催後意見)	
27	東郷委員	観光業に携わっているが、つくば市で働いている人の半数以上が他都市から来ている。そのため、他の地域に住んでいる人たちからも意見を吸い上げることがよいと思う。	<input type="checkbox"/> 様々な市町村のランキングや、県が行っている各市町村の住民向けのアンケートなど、このアンケートに限らず参考にできる情報は非常に多くあると思われるので活用する。周辺自治体へのアンケートについて、予算の面など課題があるとは思われるが技術的な面を含めて検討したいと思う。(毛塚副市長)
28	高谷委員	元々つくばに生まれ育った人間としては、みんながずっと住み続けられるつくばというものはどういったものかということを中心に考えられるとうい。次の世代までずっと住み続けられるようなまちにしていくことが重要である。	<input type="checkbox"/> つくば市では立地適正化計画を策定しており、中心部のみならず周辺部の核を意識しながらまちの発展のあり方や、SDGsの理念も盛り込みながら検討したいと思う。(毛塚副市長)

No.	発言者	質問内容	回答 ■事務局 □その他
29	神谷委員	子供、学生の目線でほしい施設等をアンケートで抽出できるとよい。また、P47 に記載されているアンケートについて、回答者が内容について理解できない設問があると思われるため、「わからない」という選択肢を追加することがよい。	□設問について回答者が理解できないものもあると思われるため、「わからない」という回答項目を追加する点について了承した。どんな施設がほしいという点で高校生が応えやすい内容と思われるため、内容について検討する。(毛塚副市長)
30	中井委員	アンケートの設問について、性別に関する選択肢は男・女だけでなくその他、無回答などの選択肢を設ける配慮が必要なように思う。	□選択肢については対応させていただく。(毛塚副市長)
31	飯野委員	職員ワーキングチームについて若手職員に計画に参加してもらうことは大きな意義がある。若手職員にとっては研修の場としても活用してもらい、自分たちの仕事をするうえでの土台づくりとして、十分活躍してもらいながら未来構想をつくってもらいたい。	—

7 その他

No.	発言者	質問内容	回答 ■事務局 □その他
32	山口委員	目指す未来像について、庁内WGでも議論が進められ、早ければ年明けぐらい審議会にも事務局案が示されることかと思うが、事務局案が示される前のたたき台がない状態で、委員間で未来像について話し合うべきだと要望したい。なにがしかの案が一度でも示されると、案についての是非が論の中心になってしまうため、委員の顔ぶれを拝見すると、目指す未来像を事務局案で固めてしまうのは惜しいと思う。(会議開催後意見)	■御指摘のスケジュールで未来像の策定を進めていく予定であるが、事務局案の是非を審議していただくだけで終わることのないよう、ワーキングチームと委員間で、あわせて委員同士で意見交換が行えるように調整を行いたい。



つくば市未来構想等改定のための 市民ワークショップ ニュースレター

報告 2

第 1 回

つくば市のいいところ
残念なところ
今後起きそうなこと

発行日：平成 30 年 11 月

編集・発行：つくば市 政策イノベーション部 企画経営課

◆つくば市未来構想等改定のための市民 WS を開催しました！

つくば市では、まちづくりの総合的な指針である未来構想の改定にあたり、市民の皆様が考えるつくば市の強みや弱み、今後の未来像などについて意見交換を行うワークショップを開催しました。

第 1 回は、32 名の参加者を 5 つのグループに分けて実施し、幅広い年代の皆様からご意見を頂きましたので、概要をご紹介します。



日 時：平成 30 年 10 月 28 日（日） 10:00～12:40
会議場所：つくば市役所 2 階 会議室 202
参加者：32 名（事務局含まず）

◆主な意見交換内容

1. グループ討議で出された意見（各グループで共通していた意見や主な意見の紹介）



第 1 回のワークショップでは、3 つのテーマ（①つくば市の市勢・特性の強み、弱み、②つくば市が今後直面する可能性のある課題、③今後、直面する可能性のある機会や脅威）について意見交換しました。

各グループでの主な意見は以下の通りです。

テーマ 1：つくば市の強み（いいところ）や弱み（残念なところ）

●強み（いいところ）

首都圏へのアクセスが良好、TX沿線における人口増加、研究所・先端科学技術の集積、教育レベルが高い、恵まれた自然環境がある、子どもが多い、多様な人材が住んでいる、土地や道路が広い、など

●弱み（残念なところ）

郊外部の過疎化の進行、地域間格差の拡大、地域のコミュニティが弱い、世代間交流が無い、施設の老朽化、公共交通が不便、自動車中心の移動手段、高校が少ない、図書館が少ない、など



テーマ 2：つくば市が今後直面する可能性のある課題

●少子高齢化社会に関する課題

高齢者が増える、移動困難者が増える、介護が不足する、農業の後継者不足、地域のつながりの希薄化している、など

●地域格差の拡大、まちづくりの衰退や施設老朽化に関する課題

郊外部の過疎化が進行する、インフラ・施設の老朽化、空き家の増加、公務員宿舎の跡地活用、など

●つくば市のPR・ブランディングに関する課題

観光誘客が弱い、都心勤務地にとってのベッドタウン化している、つくば市らしさの欠如している、など



テーマ 3：つくば市に訪れる機会や脅威

●機会（近い未来に生じる良い事象や市内で期待されている事業）

自動運転技術の活用、つくばエクスプレスの活用、ITを活用した農業振興、AI技術の活用、グローバル化

●脅威（放っておくとおびやかされること）

本格的な高齢化社会の到来、世代間交流の消滅、インフラの老朽化、研究所の持続的な立地

◆お問合せ◆つくば市役所 政策イノベーション部 企画経営課

〒305-8555 茨城県つくば市研究学園一丁目 1 番地 1 TEL 029-883-1111

*未来構想に関する質問・意見等は、企画経営課のメールアドレスまで pln010@city.tsukuba.lg.jp（※には@を入れてください）

3. 各グループの主な意見（総括）と特徴



A班

高齢者が活躍できる社会の実現と多世代交流

- ・ 高齢化により元気な高齢者、働ける高齢者が活躍できる環境づくりが必要になる。生涯現役で働ける社会づくりの取り組みが大切。
- ・ 筑波大等にいる若い世代とその他の世代間の交流を広げることが重要。

D班

豊かな自然環境と教育を活かしたまちづくり等を議論

- ・ つくば市の自然環境や研究学園都市としての強みを活かし、教育に注力したまちづくりが大切。
- ・ 市民同士のつながりや雇用創出によるつながりなど交流づくりが大切。

B班

新技術の活用、自然環境、地域コミュニティ強化

- ・ つくば市の弱みである車に頼る生活行動を自動運転技術の導入により解決できないか
- ・ 市民活動やコミュニティの強化によりまちなかの活性化を図ることが必要。

E班

つくばらしさを活かした未来像について議論

- ・ 先端科学技術の集積以外にもつくばらしさを追求し未来像を合意していくことが大切。
- ・ 東京への良好なアクセスや子供が多いなどの特徴を活かした魅力あるまちづくりを推進することが必要。

C班

地域格差解決と既存ストックを活かしたまちづくり

- ・ つくば駅周辺が栄えている一方、周辺市街地を含めてインフラの老朽化に課題がある
- ・ 休耕地や研究機関の利活用等、既存のストックを活かしたまちづくりを



4. ふりかえり：ワークショップの後、皆様からたくさんのご意見を頂きました！！



○：参加してよかったと思うこと

●色々な人の意見を聞くことができた

- ・ 様々な年代の方々のご意見を伺うことができとても参考になった。
- ・ 自分では考えていなかった意見が聞けた。
- ・ 色々な立場の人の意見が聞けたこと。

●よい意見交換ができた

- ・ 意見交換が活発に行われた。
- ・ 思ったよりも話しやすかった。

●つくば市に必要なことを考える良い機会になった

- ・ 未来のつくば市を考える良いきっかけとなった。
- ・ つくば市のことを考える機会を得たことに感謝。
- ・ 地域の問題について色々な意見を出すことができた（ブレインストーミングできた）。

□：十分に話せなかったこと

●学校・教育について

- ・ 学校のマンモス化や高校の誘致について。
- ・ 教育と福祉をつなげることで良い社会にできるのではないかと。

●個別意見の深堀が必要

- ・ それぞれの方の意見を深堀して聞くことが出来なくて残念。
- ・ みなさんの話をもう少し長く聞けたら良かった。

●その他

- ・ つながりをどうするかもう少し話したかった。
- ・ 移動するには、つくば市は広すぎるので、高齢者障害者にとって便利な場所に住んでもらい、介護人材の移動の負担を減らせると良い。

?：質問や今後の進め方などに対するご意見

☆：その他ご自由にご記入下さい

●意見交換の時間について

- ・ 全体的に時間が足りなかった。
- ・ 参加者間の話し合いが出来る時間がほしい。
- ・ ワークショップのタイムマネジメントが明確になると進めやすい。

●意見交換の方法について

- ・ 様々な意見が出たので、興味あるカテゴリーごとに分かれて話を進める機会があればいい。
- ・ 参加者での話し合いは適宜メンバーをシャッフルしてほしい。

●未来構想について

- ・ 今回のワークショップを通じて市民の未来像をぜひ未来構想に入れてほしい。
- ・ 従来の総合計画の出来なかった部分をつくばらしさでカバーしてほしい。

●その他

- ・ 国の研究機関との連携についてどこまで進んでいるのか知りたい。
- ・ 最初のアイスブレイクとしての「スイス国籍の人数」はグループの緊張をほぐすのによかった。

第2回ワークショップの予定 皆様の御参加をお待ちしております！



日時：平成30年12月2日（日）10:00～12:00

場所：つくば市役所会議室202 内容：つくば市の未来に実現してほしいこと、今必要なこと

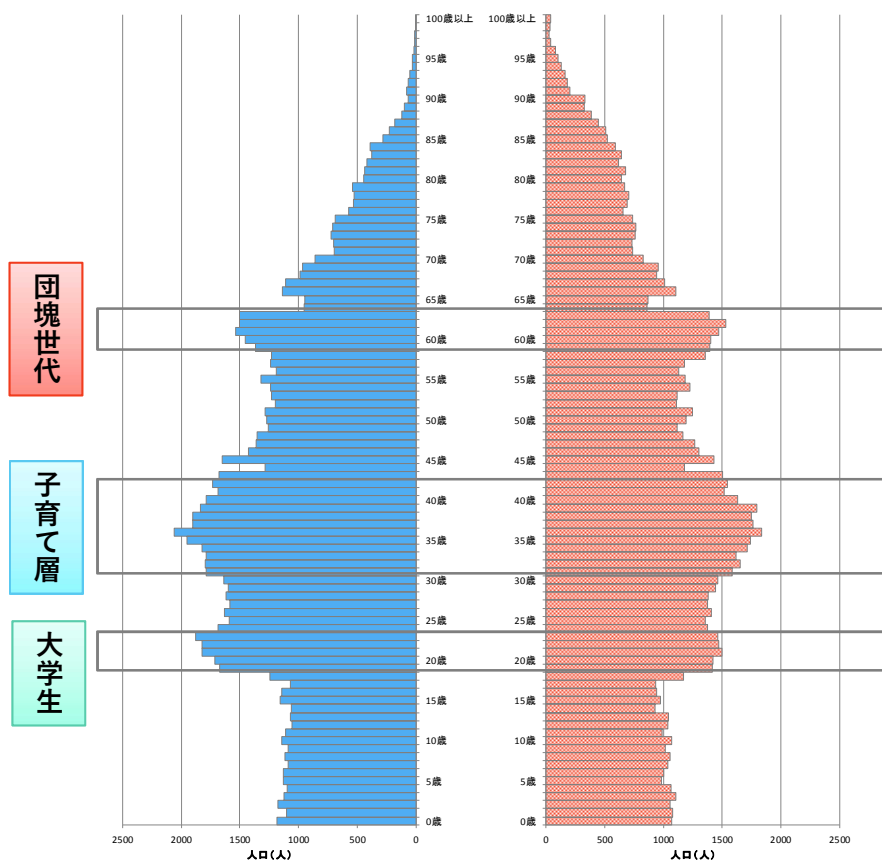
つくば市の人口動向分析

- 過去から現在までの人口等の動向
- まち・ひと・しごと創生人口ビジョン
(2015年作成) との比較

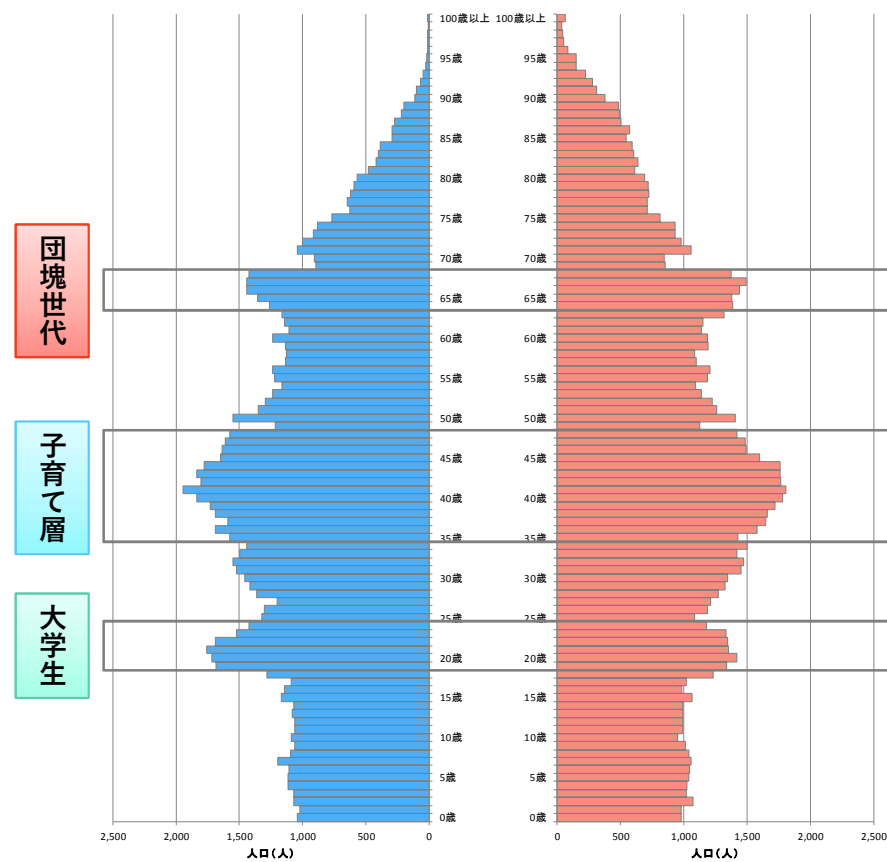
1.1 人口の現状分析

① つくば市の人口と人口年齢構造 【国勢調査】

- 5年前と比較して、ピラミッドが全体的に上の年齢階層に推移しているが、大学入学相当の18歳頃に人口が転入し、大学卒業相当の23歳頃に人口が転出する傾向が続いていることが分かる。



つくば市人口年齢構造(2010年)



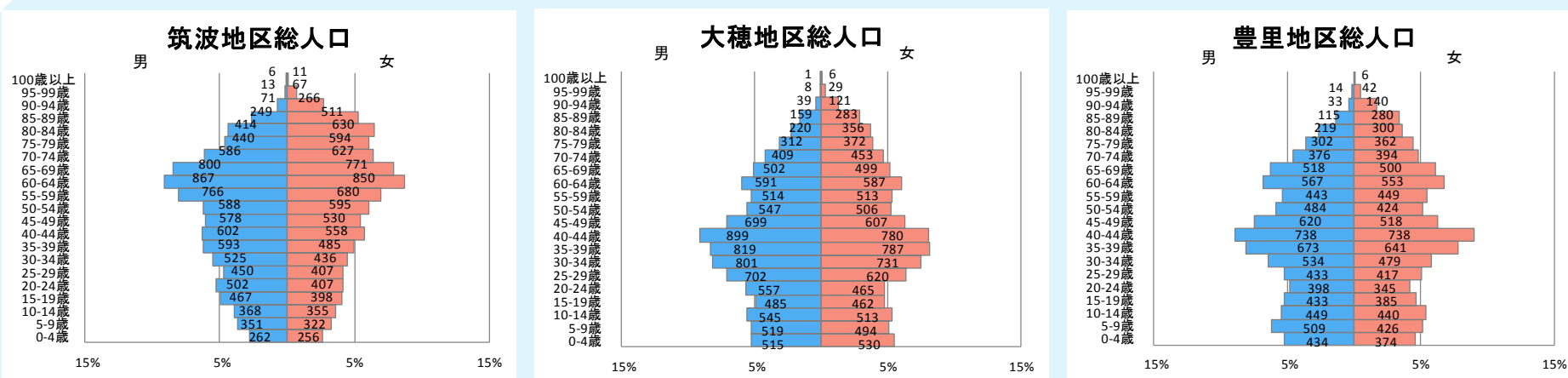
つくば市人口年齢構造(2015年)

1.1 人口の現状分析

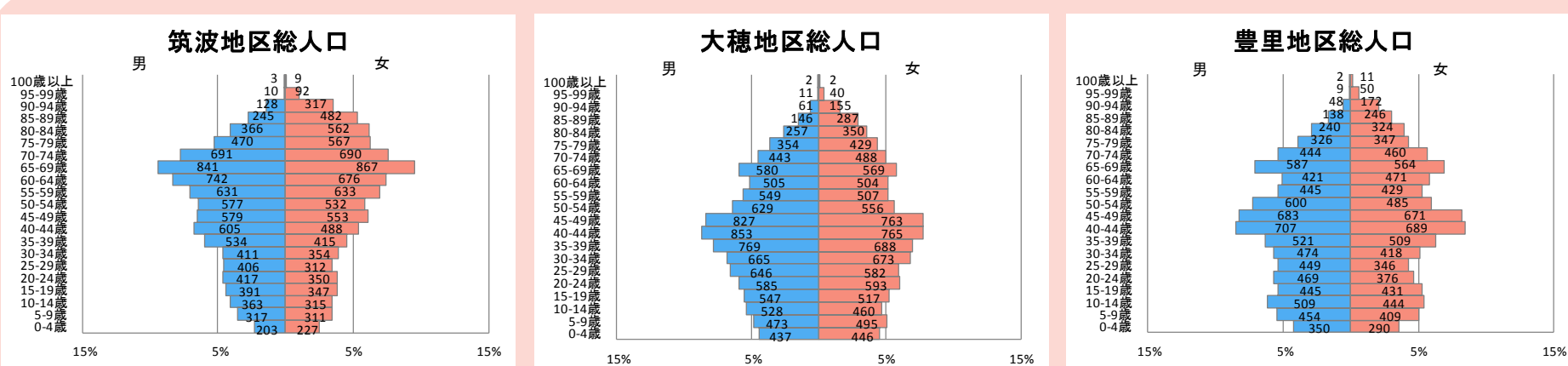
② 地区別人口構成 【地区別人口ピラミッド-1 住民基本台帳】

- 筑波、大穂、豊里地区はピラミッドが全体的に上の年齢階層に推移していることが分かる。

地区別・5歳階級人口 2014年10月1日



地区別・5歳階級人口 2018年10月1日

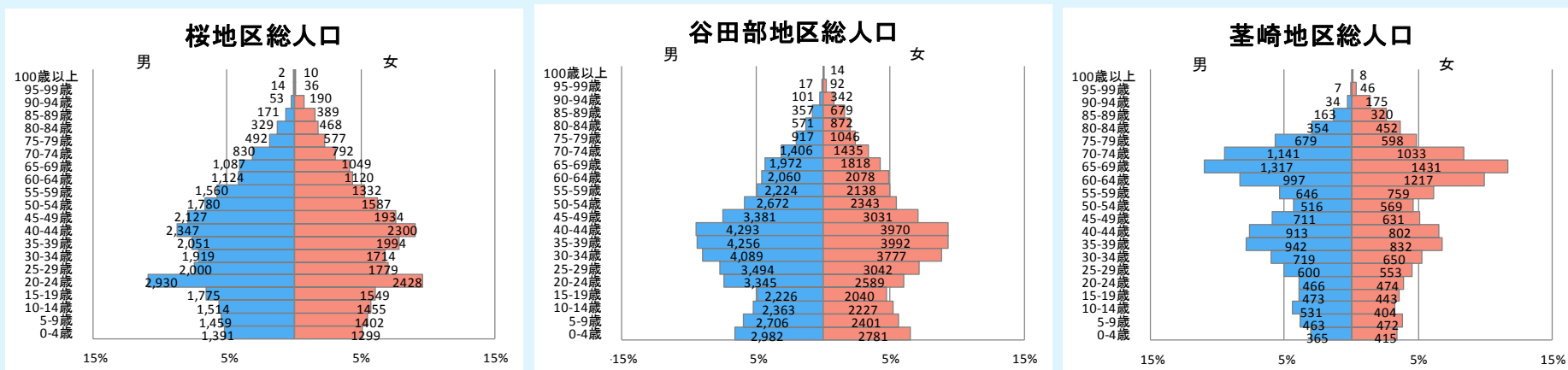


1.1 人口の現状分析

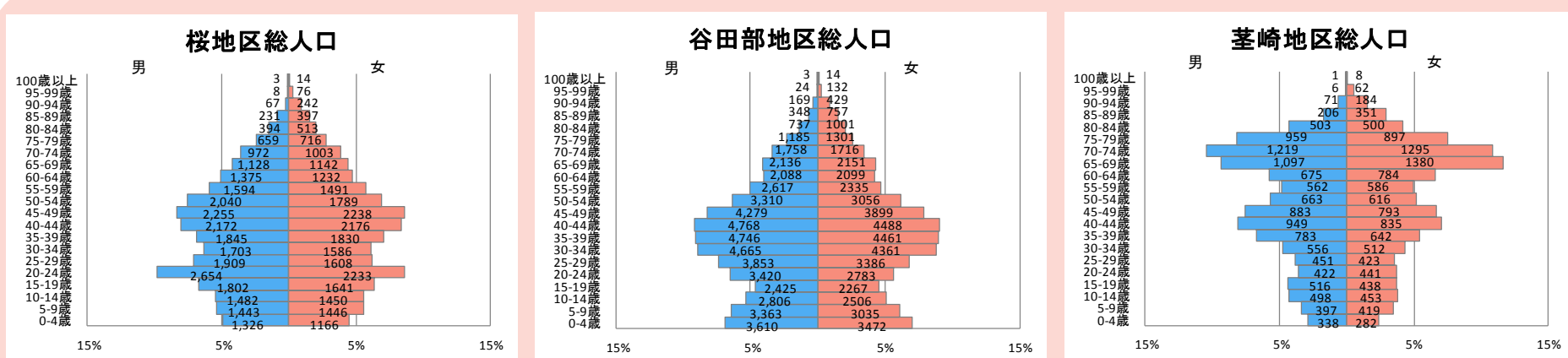
② 地区別人口構成 【地区別人口ピラミッド-2 住民基本台帳】

- ・ 荃崎地区もピラミッドが全体的に上の年齢階層に推移していることが分かる。
- ・ 桜地区、谷田部地区も同様の傾向を示しつつも、大学入学相当の18歳頃に人口が転入し、大学卒業相当の23歳頃に人口が転出する傾向があることが分かる。

地区別・5歳階級人口 2014年10月1日



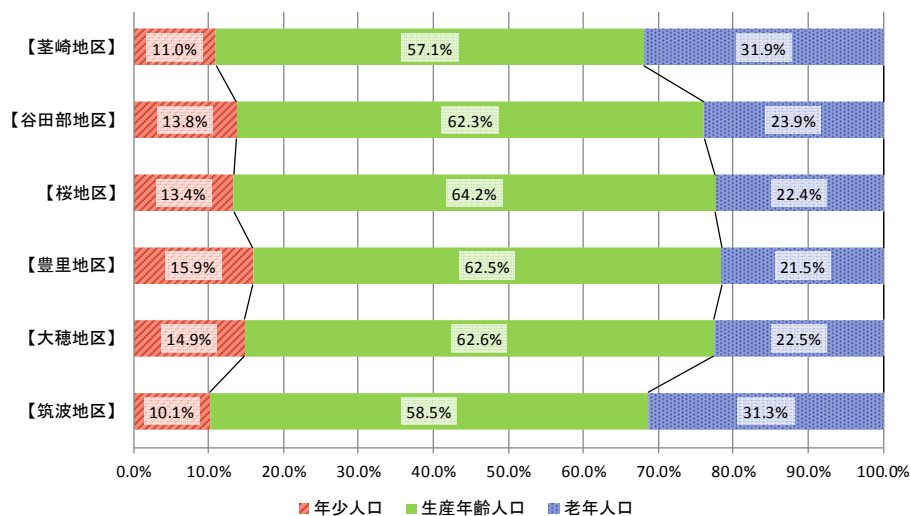
地区別・5歳階級人口 2018年10月1日



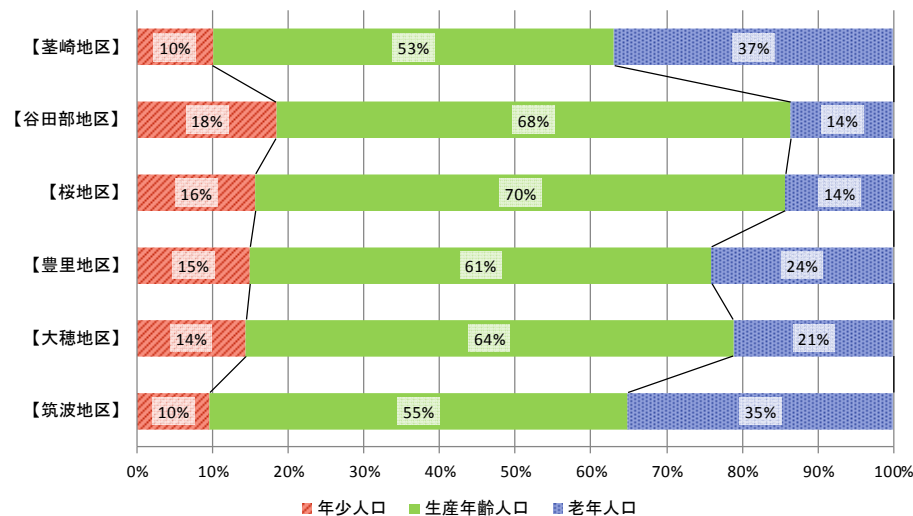
1.1 人口の現状分析

② 地区別人口構成 【地区別年齢構成 住民基本台帳】

- 谷田部地区、桜地区において年少人口の割合が高くなっている。研究学園地区やTX沿線地区における住宅供給等が影響していると考えられる。
- その他の地区も年少人口に大きな変化はないが、生産年齢人口が老年人口に推移して行っていることが分かる。



地区別年齢構成(2014.10.1現在)



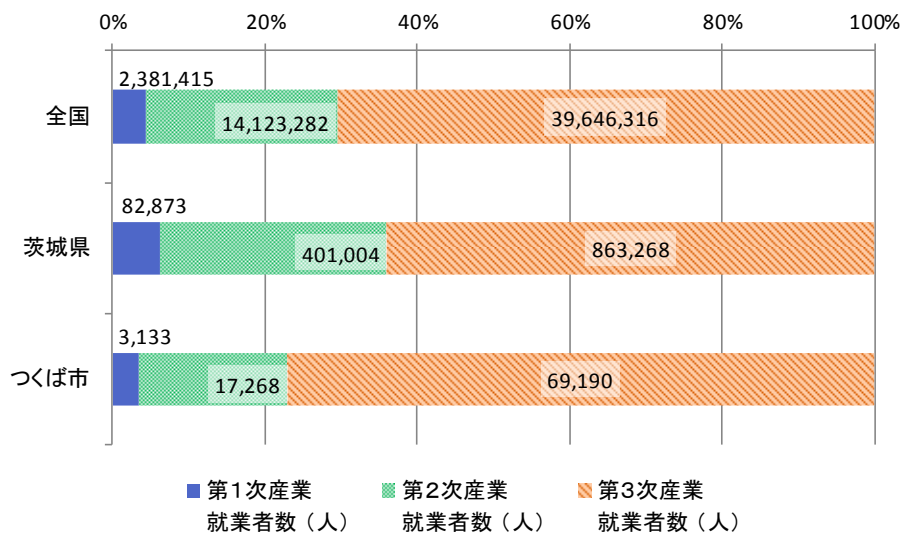
地区別年齢構成(2018.10.1現在)

1.1 人口の現状分析

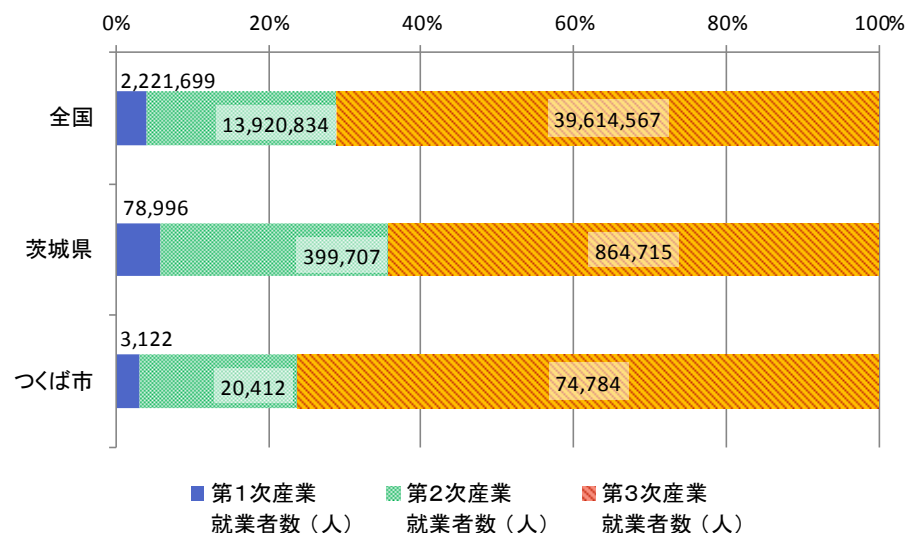
③雇用・就労等の状況

【産業別就業者構成比 国勢調査】

- 産業別のシェアは2010年時点と大きな変化はないが、第2次産業、第3次産業の就業者数が増加。
- 全国、茨城県では1次産業が縮小する中、つくば市は同程度を維持しており、同じく第2次産業では増加している。



産業別就業者構成比(2010)

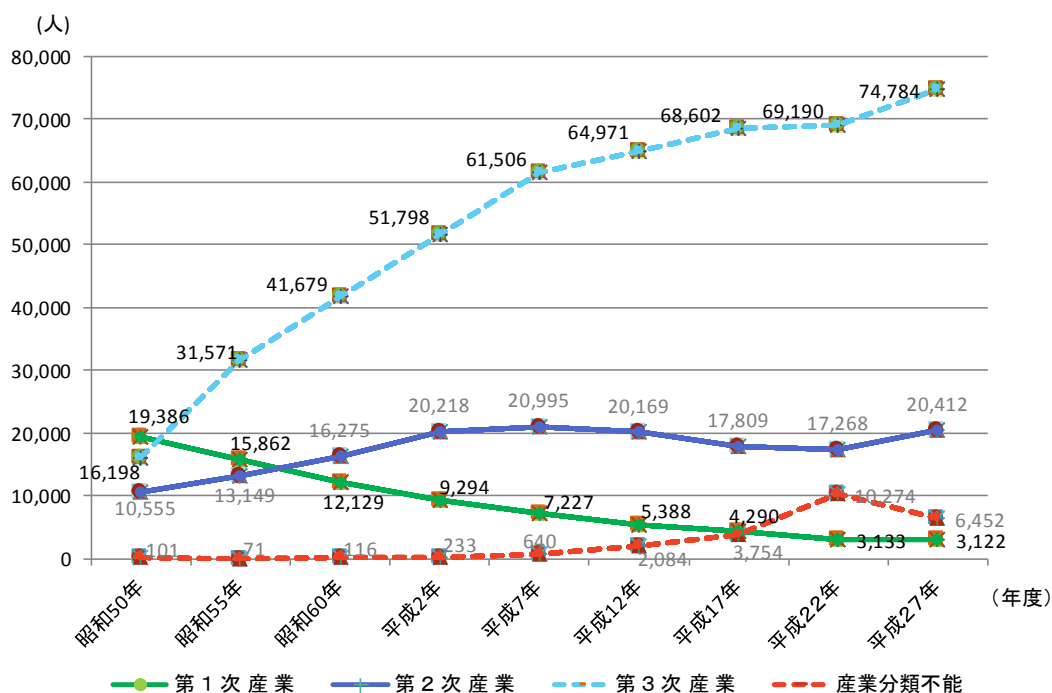


産業別就業者構成比(2015)

1.1 人口の現状分析

③雇用・就労等の状況 【産業3部門就業者の推移 国勢調査】

- 時系列では、第3次産業では横ばい傾向が増加に、第2次産業では減少傾向が増加にそれぞれ転じている。
- 第1次産業についても減少幅がなだらかになり横ばいとなっている。



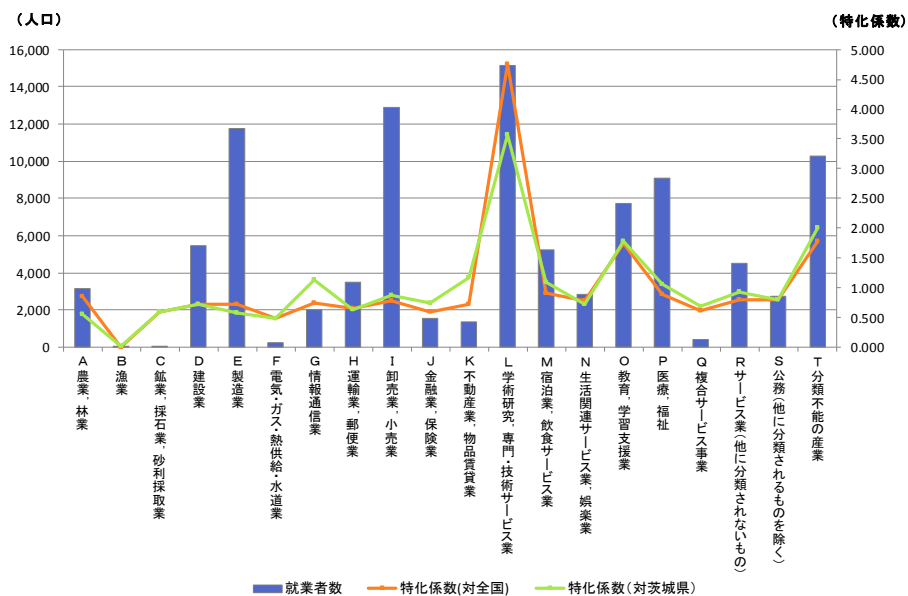
産業3部門別就業者の推移(更新版)

1.1 人口の現状分析

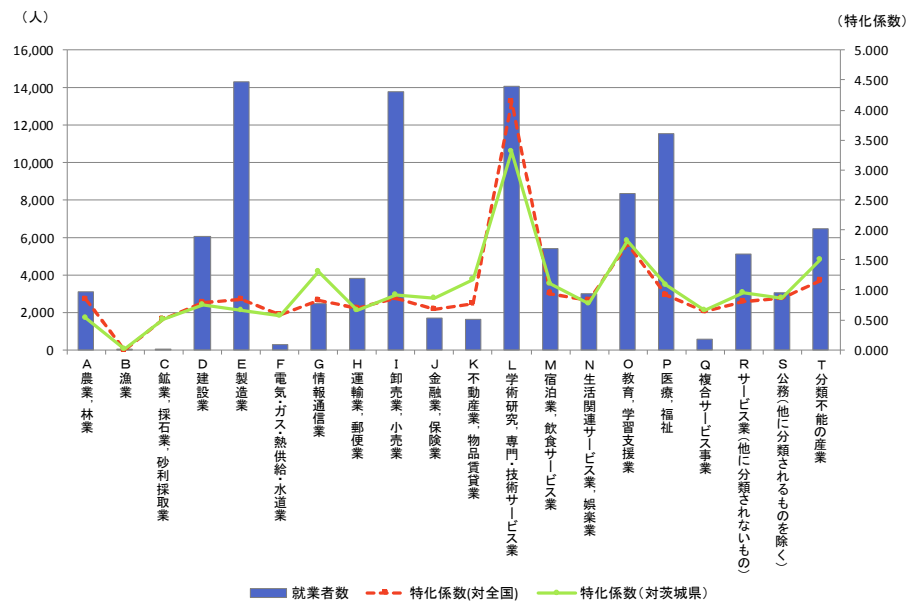
③雇用・就労等の状況

【就業者数と特化係数 国勢調査】

- 学術研究、専門・技術サービス業の特化係数が特に高く、次いで教育、学習支援、情報通信業が高い傾向は2010年時点と同様である。
- 就業者数では、前回よりも製造業および医療・福祉の就業者数が増加しているが、前述の学術研究等サービス業の就業者数は減少している。



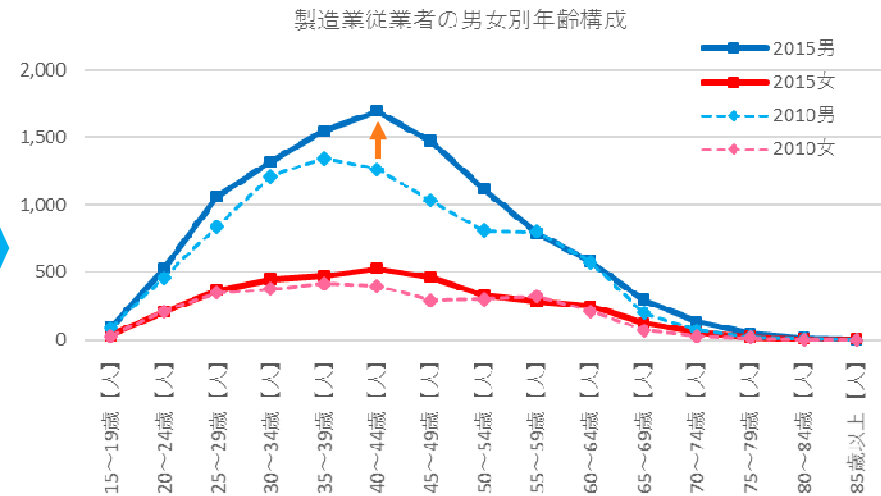
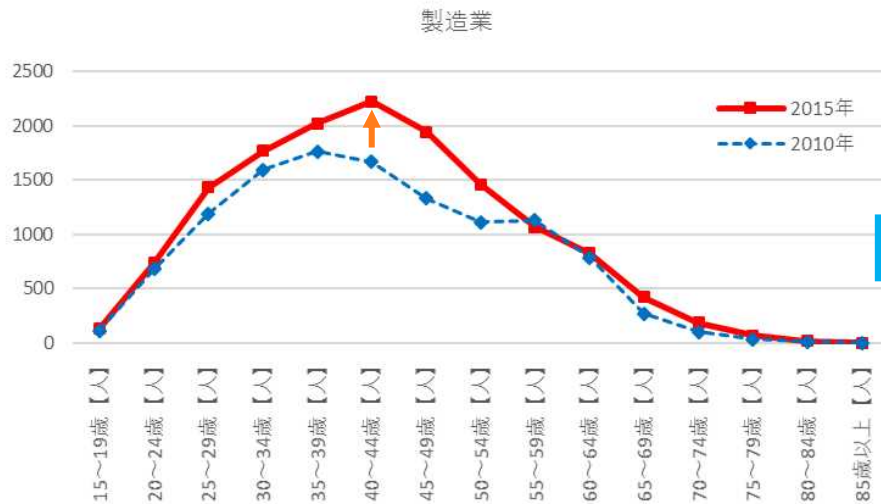
就業数と特化係数(2010)



就業数と特化係数(2015)

【参考】産業別従業者年齢構成【国勢調査】

- 製造業については、40歳代・50歳代の増加がみられており、特に、40歳代・男性の増加が顕著である。
- 20歳代・30歳代も微増しており、県南地域における産業誘致が影響していることが推察され、つくば市は、事業所数、従業者数、製造品出荷額のいずれで対前年比の増加率が県内5位以内に入っている。）



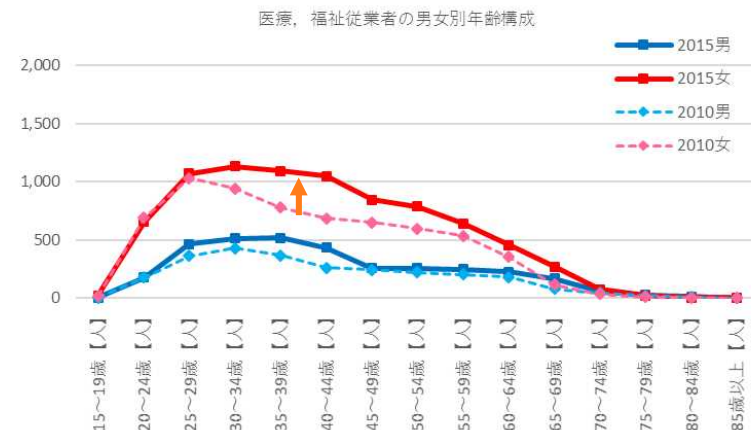
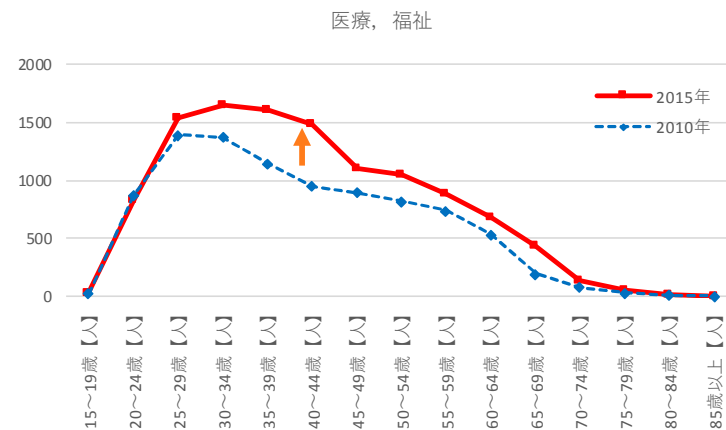
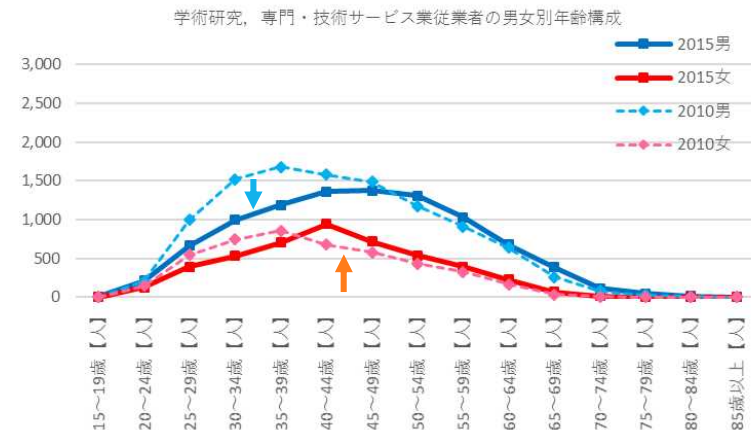
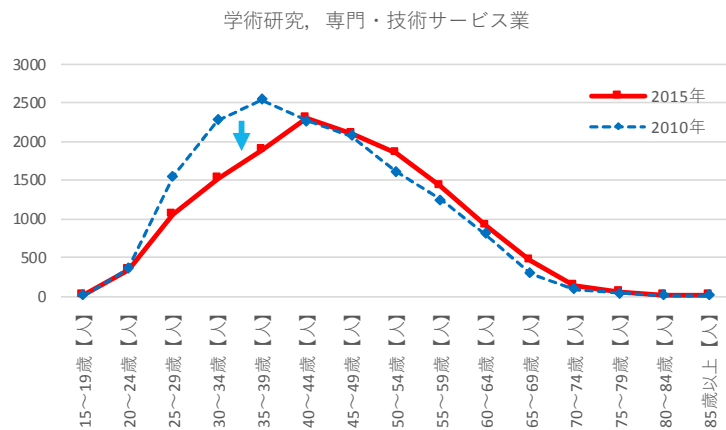
【参考】産業別従業者年齢構成【平成28年経済センサス】

- 事業所数は、前年比118%と県内で最も高い結果となっており、土浦市とともに県内上位5位に含まれている。
- 従業者数、製造品出荷額の同様に前年比で上位5位に含まれ、つくば市を含む県南地域の増加率が高く、特に製造品出荷額については、牛久市・守谷市などの県南他都市と一体となって増加傾向にある。

市町村別	事業所数(単位:所, %)				従業者数(単位:人, %)				製造品出荷額等(単位:万円, %)			
	平成26年	平成27年	構成比	前年比	平成26年	平成27年	構成比	前年比	平成26年	平成27年	構成比	前年比
県計	5,485	5,836	100.0	106.4	259,595	261,726	100.0	100.8	1,140,849,671	1,203,760,457	100.0	105.5
市計	4,855	5,179	88.7	106.7	234,701	237,537	90.8	101.2	1,061,230,595	1,107,558,653	92.0	104.4
町村計	630	657	11.3	104.3	24,894	24,189	9.2	97.2	79,619,076	96,201,804	8.0	120.8
水戸市	227	231	4.0	101.8	6,284	6,170	2.4	98.2	12,966,171	13,902,842	1.2	107.2
日立市	380	367	6.3	96.6	23,821	25,178	9.6	105.7	99,381,857	123,734,148	10.3	124.5
土浦市	157	183	3.1	116.6	13,814	13,912	5.3	100.7	60,662,491	77,845,806	6.5	128.3
古河市	359	403	6.9	112.3	15,931	15,869	6.1	99.6	71,298,153	71,065,069	5.9	99.7
石岡市	152	156	2.7	102.6	5,517	5,262	2.0	95.4	25,329,922	21,586,768	1.8	85.2
結城市	183	201	3.4	109.8	6,955	6,505	2.5	93.5	21,993,394	22,171,077	1.8	100.8
龍ヶ崎市	107	114	2.0	106.5	6,702	6,192	2.4	92.4	25,490,329	24,036,027	2.0	94.3
下妻市	146	172	2.9	117.8	5,370	5,272	2.0	98.2	17,276,685	15,730,342	1.3	91.0
常総市	247	270	4.6	109.3	11,676	11,992	4.6	102.7	42,355,641	39,845,990	3.3	94.1
常陸太田市	109	111	1.9	101.8	2,082	2,020	0.8	97.0	4,039,624	4,288,205	0.4	106.2
高萩市	59	62	1.1	105.1	3,179	3,180	1.2	100.0	11,505,980	12,532,410	1.0	108.9
北茨城市	142	149	2.6	104.9	6,589	6,615	2.5	100.4	25,336,924	22,531,770	1.9	88.9
笠間市	179	195	3.3	108.9	6,372	6,300	2.4	98.9	14,982,029	14,681,586	1.2	98.0
取手市	56	61	1.0	108.9	7,537	8,466	3.2	112.3	27,123,908	29,283,171	2.4	108.0
牛久市	60	67	1.1	111.7	3,793	4,170	1.6	109.9	12,187,749	24,178,070	2.0	198.4
つくば市	155	183	3.1	118.1	8,287	9,158	3.5	110.5	27,470,693	33,726,019	2.8	122.8
ひたちなか市	213	223	3.8	104.7	19,255	20,265	7.7	105.2	88,012,713	87,346,290	7.3	99.2
鹿嶋市	79	72	1.2	91.1	7,160	7,554	2.9	105.5	82,334,887	72,779,115	6.0	88.4
潮来市	56	56	1.0	100.0	1,852	1,260	0.5	68.0	5,659,684	4,279,884	0.4	75.6
守谷市	72	76	1.3	105.6	3,688	3,629	1.4	98.4	26,294,847	29,660,526	2.5	112.8
常陸大宮市	110	114	2.0	103.6	4,443	4,255	1.6	95.8	10,141,661	9,218,060	0.8	90.9
那珂市	71	82	1.4	115.5	2,288	2,399	0.9	104.9	5,079,690	4,903,232	0.4	96.5
筑西市	325	338	5.8	104.0	13,402	13,829	5.3	103.2	62,894,122	54,884,152	4.6	87.3
坂東市	215	249	4.3	115.8	7,788	7,891	3.0	101.3	29,652,227	31,522,155	2.6	106.3
稲敷市	140	140	2.4	100.0	4,482	4,017	1.5	89.6	15,753,998	14,235,986	1.2	90.4
かすみがうら市	88	93	1.6	105.7	4,432	3,894	1.5	87.9	19,899,638	16,413,105	1.4	82.5
桜川市	183	212	3.6	115.8	4,297	4,345	1.7	101.1	11,213,742	11,521,816	1.0	102.7
神栖市	198	201	3.4	101.5	12,627	12,945	4.9	102.5	149,646,203	159,571,161	13.3	106.6
行方市	102	109	1.9	106.9	3,030	2,920	1.1	96.4	5,109,507	4,639,743	0.4	90.8
鉾田市	75	71	1.2	94.7	1,628	1,575	0.6	96.7	5,486,922	6,050,429	0.5	110.3
つくばみらい市	82	84	1.4	102.4	3,794	3,979	1.5	104.9	26,125,673	29,365,401	2.4	112.4
小美玉市	128	134	2.3	104.7	6,626	6,519	2.5	98.4	18,523,531	20,028,298	1.7	108.1

【参考】産業別従業者年齢構成【国勢調査】

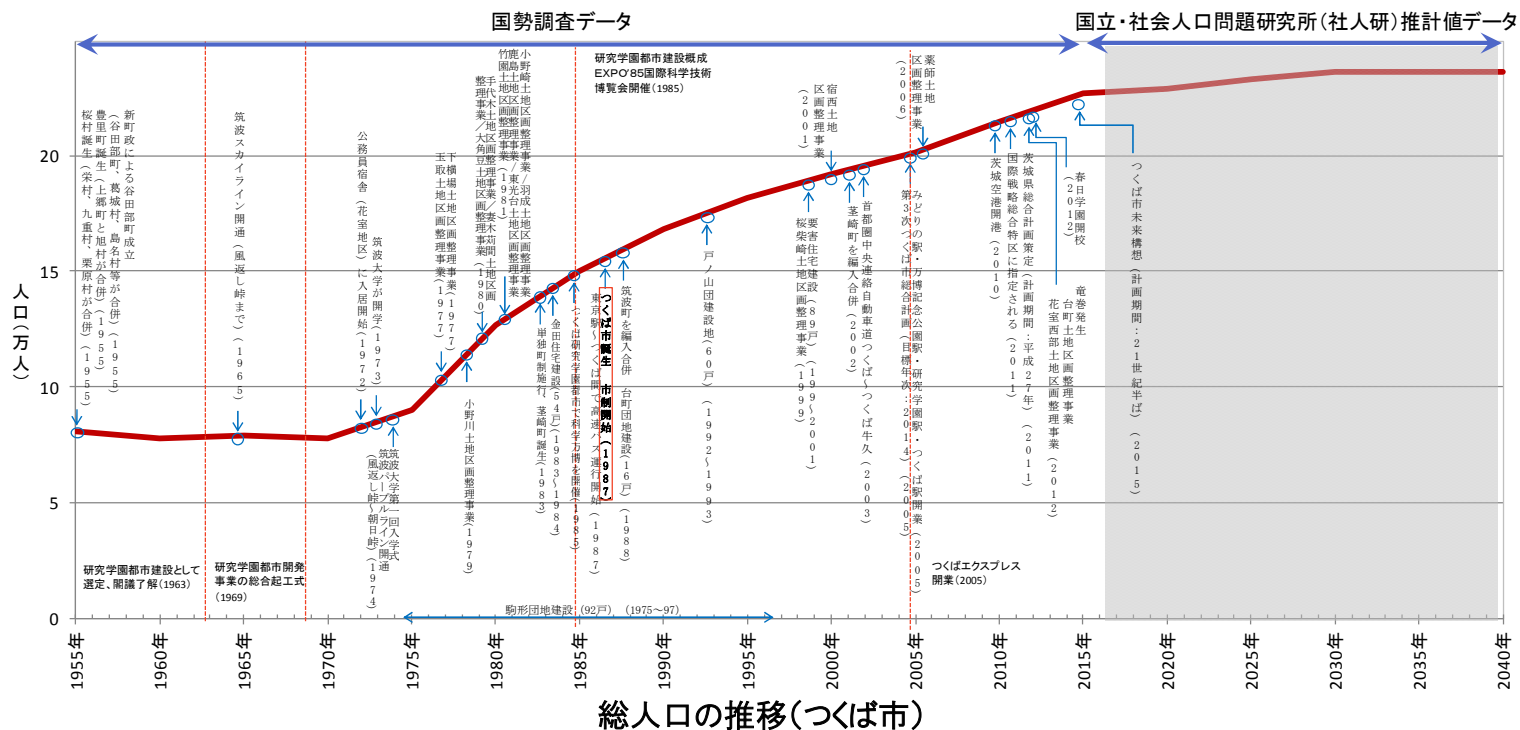
- 学術研究、専門・技術サービス業は、20歳代、30歳代で減少し、特に男性の減少が顕著であるが、40歳代においては女性が増加傾向にある。
- 医療、福祉については、高齢者への対応ニーズの高まりなどを背景として、各世代で増加傾向にあるが、特に女性従業者の増加が顕著である。



1.2 人口動向

① 総人口の推移 【国勢調査・社人研推計データ】

- 総人口は1955(昭和30)年以降、一定水準を維持していたが、1963(昭和38)年に筑波研究学園都市建設の閣議了解のち、1969(昭和44)年に研究学園都市開発事業の総合起工式が行われて以降、1970年代の高度経済成長や公務員宿舎への入居と相まって人口が増加している。
- 1980(昭和50)年の研究学園都市の概成以降も区画整理・住宅地開発が進み、人口の増加が続いていたが、1995(平成7)年以降には緩やかに人口が増加している。
- 2005(平成17)年のTX開業後に再び人口の増加傾向が強まり、2018(平成30)年以降も緩やかに人口が増加していくものと推計されている。

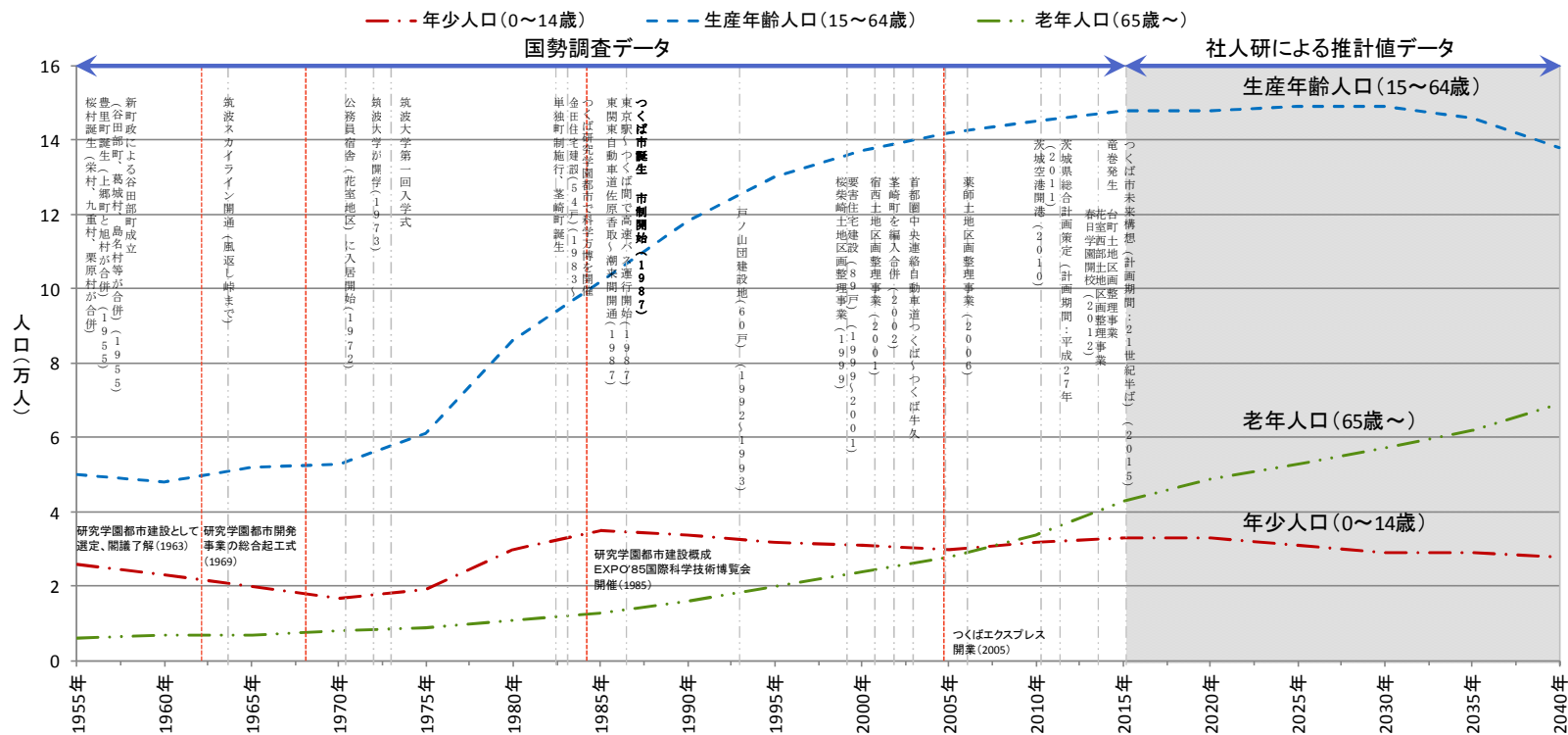


1.2 人口動向

② 年齢3区分別人口の推移

【国勢調査・社人研推計データ】

- 生産年齢人口は2015(平成27)年頃まで増加し、その後15万人程度を維持し、2035(平成47)年以降徐々に減少していく。
- 年少人口は2020(平成32)年以降は緩やかに減少していく。
- 老年人口は増加基調が今後も継続していく。



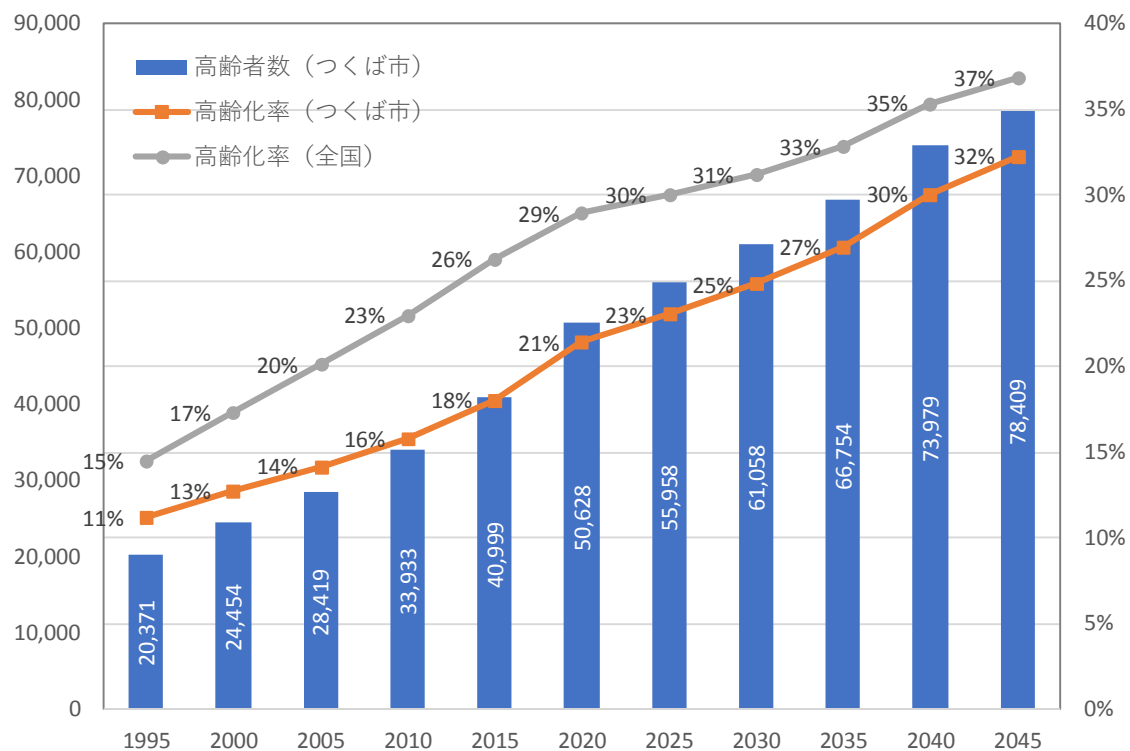
年齢3区分別人口の推移(つくば市)

② 年齢3区分別人口の推移

【国勢調査・社人研推計データ】

【参考】

- 高齡者(老年人口)数の推移を全国と比較したものが下図であり、市内の高齡者数は、2015年以降も増加の一途をたどる。日本全体の高齡化率と比較すると、高齡化率は現在(2015年)の18%から2035年時点で27%まで増加すると推算されている。



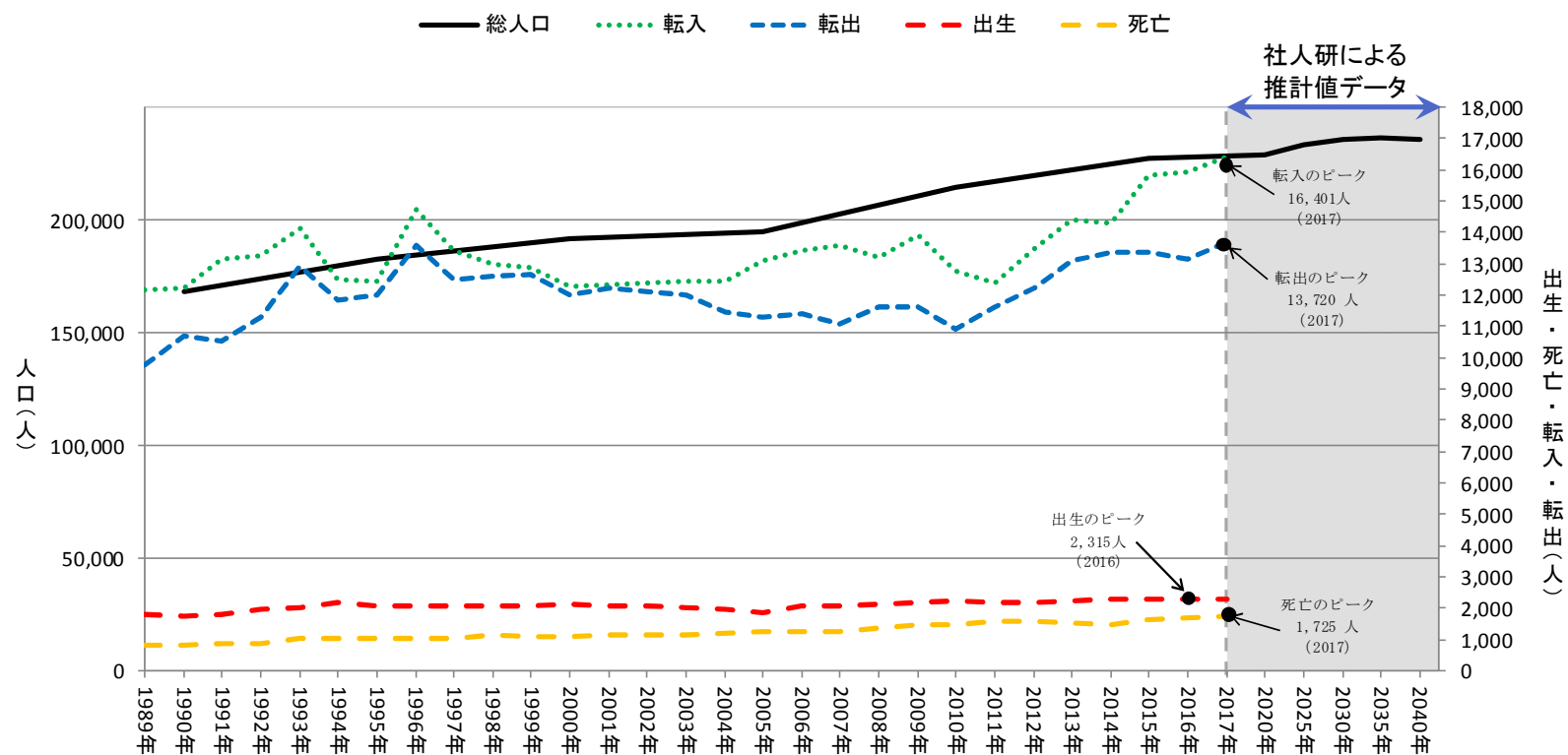
参考図 市内の高齡者推移(日本全体と比較)

1.2 人口動向

③ 出生・死亡、転入・転出の推移

【国勢調査・社人研推計データ】

- ・ 転入・転出の人口社会移動は、前回人口ビジョン策定時(2015(平成27)年)時点で1996年のピークから更新した後増加を続け、既往最大の量となっている。
- ・ 出生・死亡の人口自然増減は、団塊世代を始めとした老年人口層の世代人口が多いことにより当面増加、出生のピークは前回ピーク値を更新している。

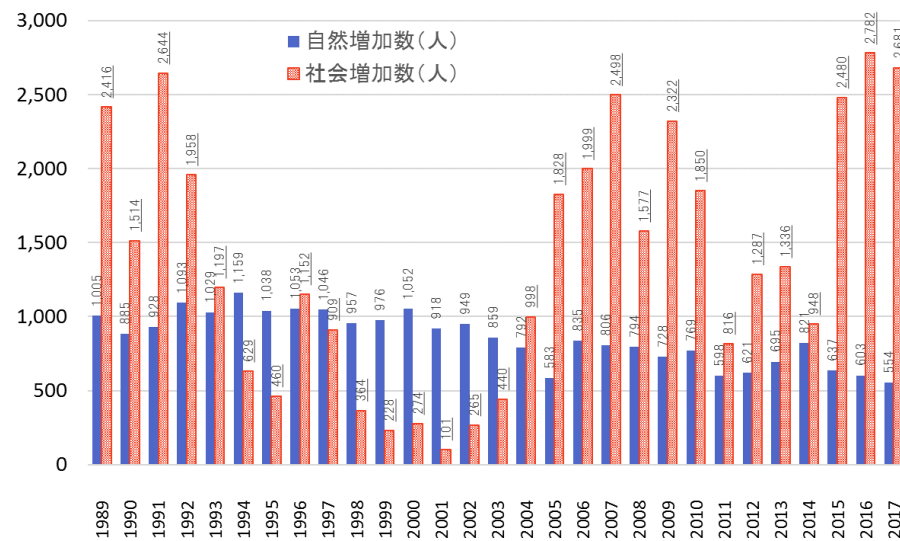
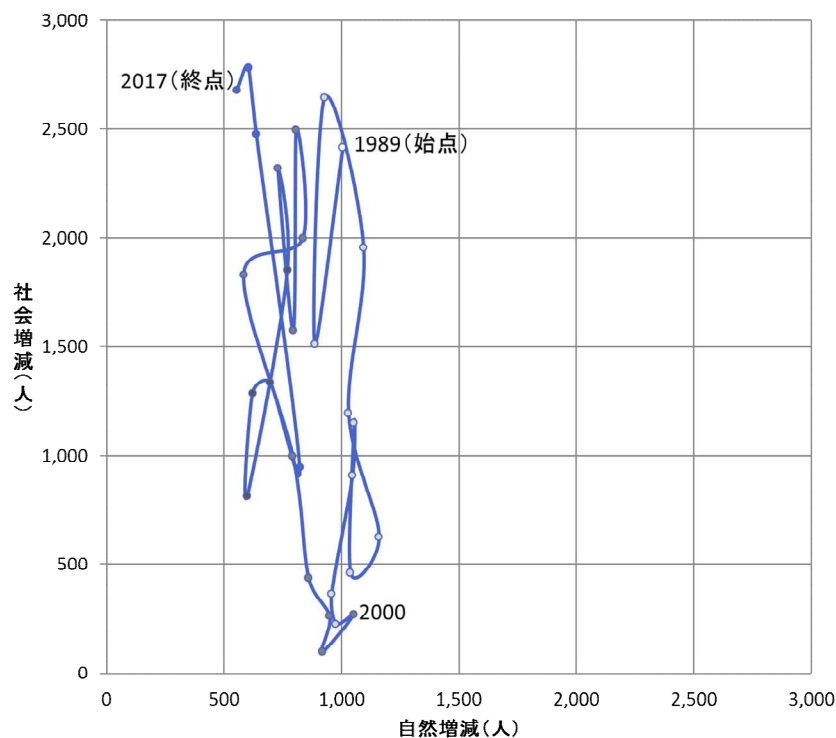


出生・死亡、転入・転出の推移(つば市)

1.2 人口動向

④ 自然増減と社会増減の影響 【つくば市】

- 2017(平成29)年時点において、自然増よりも社会増の方が大きい傾向が強まっている。
- 自然増は年々減少し、約30年間で半減している。

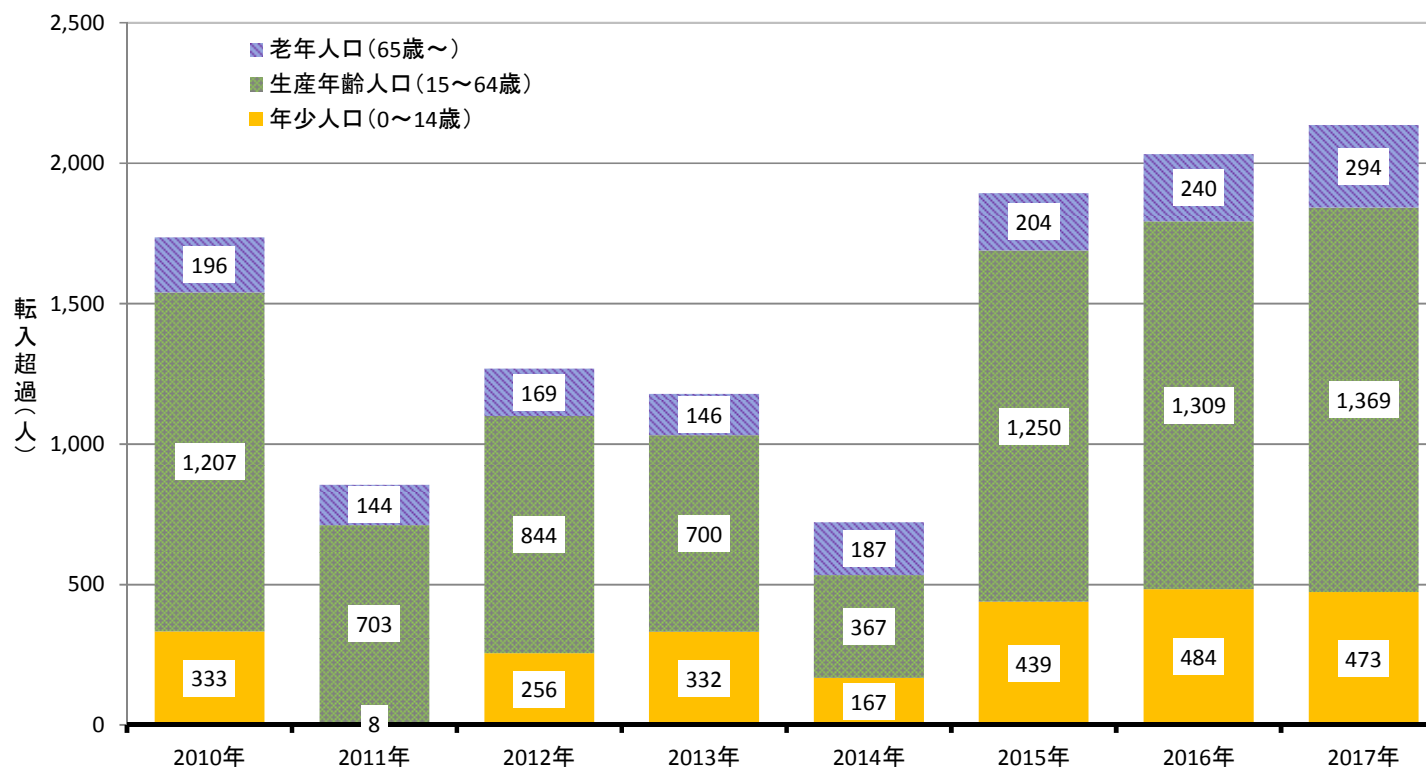


自然増減と社会増減の影響(つくば市)

1.2 人口動向

⑤ 年齢階級別の人口移動の状況 【つくば市、人口移動報告】

- 転入超過の特性には2つある。第1に、時系列で転入超過量は増加傾向にあることと、第2に転入者のシェアは生産年齢人口(大学生等含む)が多くを占めていることである。
- 2015年以降の年少人口と生産年齢人口の転入超過量の推移が同様に横ばいであることから、親とセットで転入しているファミリー層が多いことが推察される。



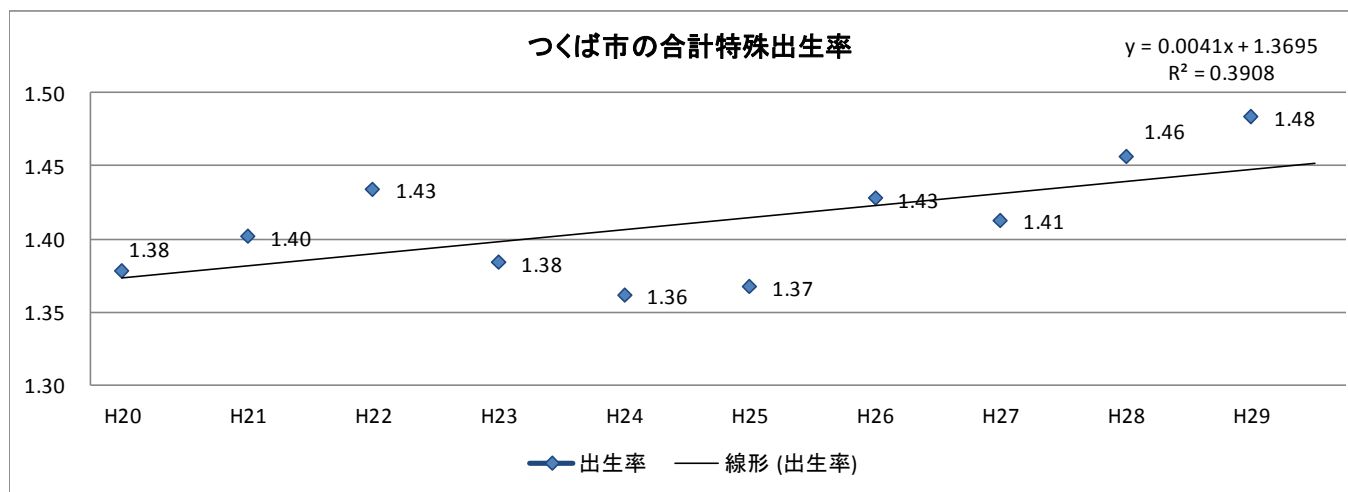
年齢階級別の人口移動の状況(つくば市)

1.2 人口動向

⑥ 合計特殊出生率

- 国や茨城県の数字とほぼ同程度であり、国の近年の回復傾向と同様に、つくば市でも出生率の向上が見られる。
- 生産年齢人口の転入超過が継続していることから、転入してきたファミリー層がつくば市内で出産していることが推察される。

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
出産人数	2,060	2,097	2,147	2,057	2,161	2,154	2,223	2,195	2,267	2,304
出産可能な女性の総人数	47,102	47,438	47,904	48,042	51,107	51,388	51,484	52,288	53,139	53,408
出生率	1.38	1.40	1.43	1.38	1.36	1.37	1.43	1.41	1.46	1.48
(参考)全国	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43	1.42	1.45	1.44	
(参考)茨城県	1.37	1.37	1.44	1.39	1.41	1.42	1.43	1.48	1.47	



つくば市の合計特殊出生率

2030年の社会変化と将来人口

～2030年の日本や世界、そしてつくば～

2030年の社会（現在の行政運営に近いもの）

I IT／各種ロボットによる生活サポート

- ITや機械化により子育てや家事サポート等により限られた労働力の生産性を向上するとともに少子化対策（出生数増加）が図られる。同時に、各種ロボットにより**高齢者の生活をサポート**し、高齢者も社会で活躍する。

II 必要な時に介助が受けられるまち

- ICTを活用した医療情報ネットワークが充実し、地域包括ケアシステムが機能し始めて**在宅医療・訪問介護が主流**になる。
- 福祉機器の充実及び高度化と相まって**介護度の維持改善**が図られている。

III 活用不可欠なICT（情報通信技術）

- 顔認証等による**行政手続きの円滑化・セキュリティ強化**。自宅に居ながらして物が届く・サービスを受けられる

IV 環境に配慮したスマートシティの形成

- エネルギー効率の良い**スマート・ウェルネス、サステナブルシティ**が形成される
- 街全体に活気があり、高齢者や障がい者にとっても安全で便利な移動や生活ができる環境（エネルギー）に配慮した**スマートシティ**を確立

V 災害・事故のない安全・安心社会の構築

- **危険予知**インフラの整備（大型災害、ゲリラ豪雨の予測）や犯罪防止が図られる。

VI まちの空間利用

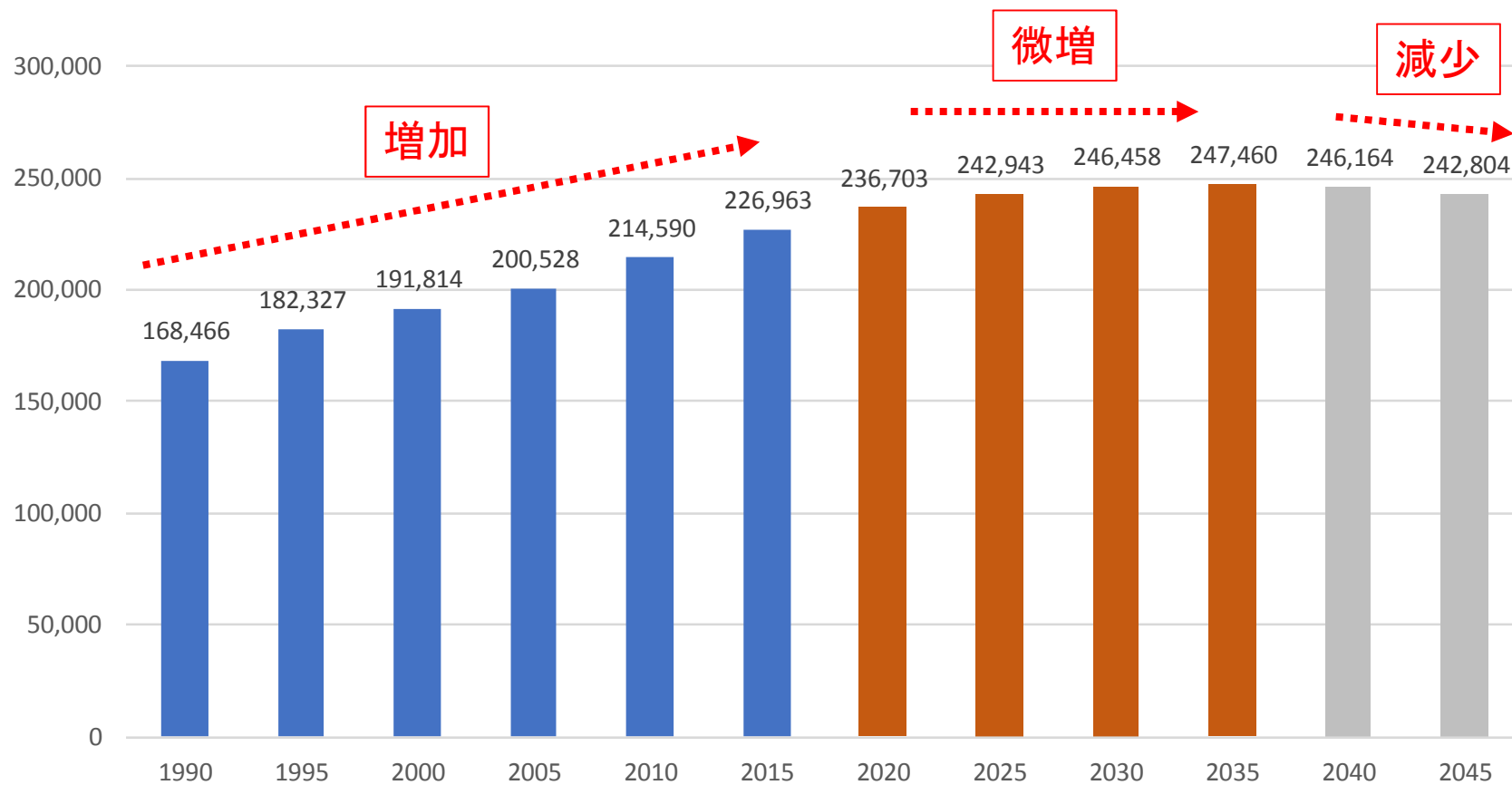
- 空き家情報がシステム化され住み替えの**中古住宅市場**が形成
- 買い手のない案件は産官連携のエリアマネジメントによりコミュニティ施設として活用されたり、解体撤去して新規の高齢者施設等の用地や公園・市民農園として活用

VII 文化芸術の活性化

- 地域に根付いた伝統芸能の継承・発展が図られるとともに、メディア芸術など、科学と芸術が融合する新たな文化芸術が充実する。
- すべての人にとって文化芸術が身近にある環境づくりが図られ、文化芸術の新しい価値が創造される。

社人研推計値による将来人口予測

- 総人口は、つくばエクスプレスの開通もあり当面増加傾向にあるが2030年頃から横ばいで推移。

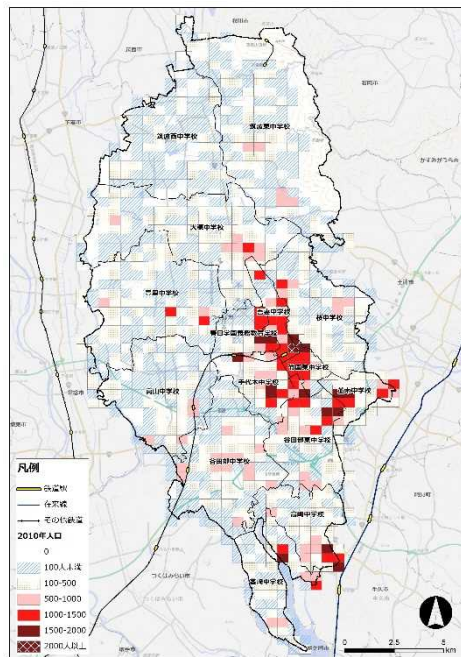


出典：社人研推計値（基準年：2015年国勢調査）

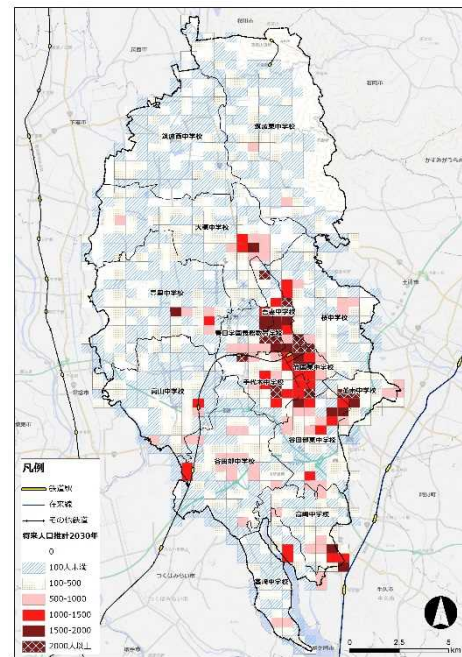
3

将来人口の地域的な分布（増加地域と減少地域の二極化）

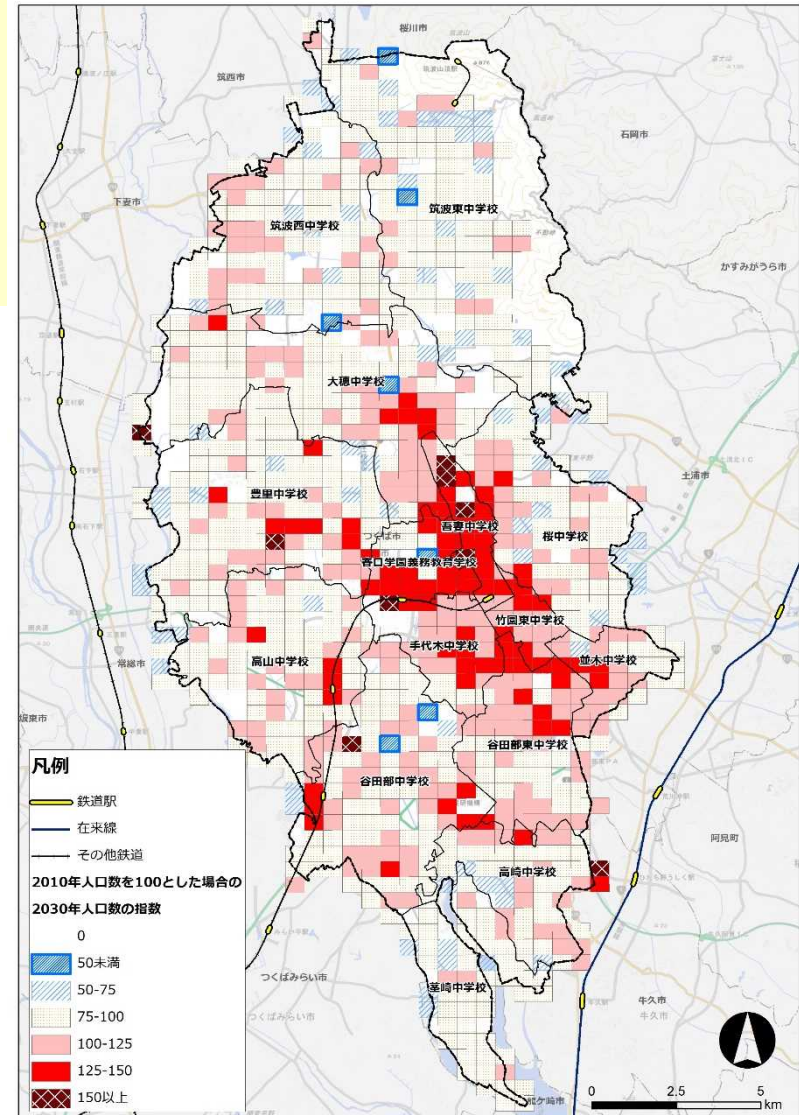
- つくば駅を始めとしたTX沿線の鉄道駅で人口増加傾向
- 行政界縁辺や郊外部において人口減少傾向にあり、地域社会の持続可能な維持が懸念される。
- 空き家・空き地(耕作放棄地含む)の増加により景観や防犯上の問題が顕在化するとともに、人口密度の低下により、民間商業施設の撤退等が懸念される。



2010年総人口



将来人口推計
2030年総人口

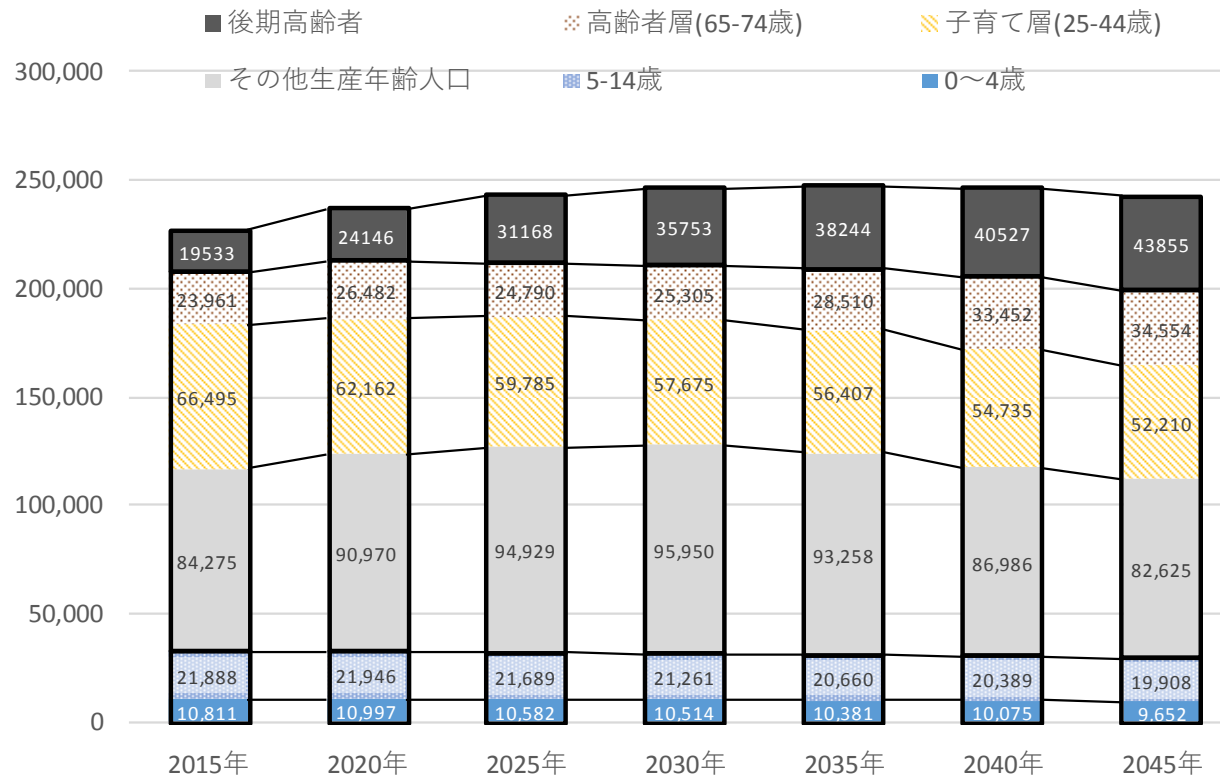


2010年-2030年人口増減割合

出典：国土数値情報、社人研推計値を国土政策局編集

生産年齢人口の年代別推移

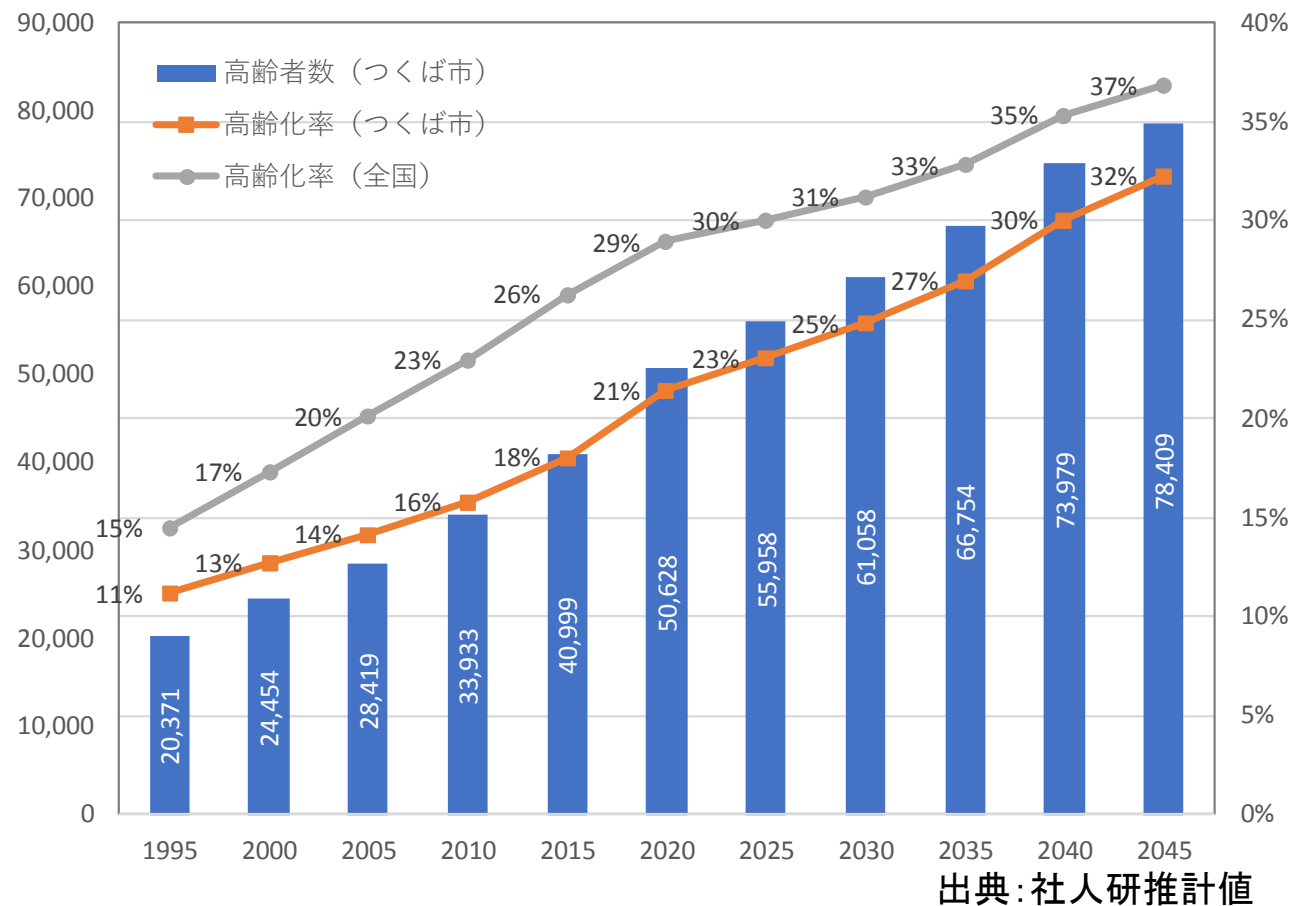
- 0～4歳の人口（新たに生まれた出生人口）、5～14歳人口は将来にわたり維持されるため、教育施設の維持の必要性は引き続き高いことが推察される。
- 子育て層は徐々に減少傾向にあり、高齢者層は増加傾向にあるため、地域で一体となった子育て環境の創出が必要となる。
- 2040年には後期高齢者数が現在の2倍近くとなり、高齢者のニーズに対応したまちづくりが不可欠となる。



出典：社人研推計値

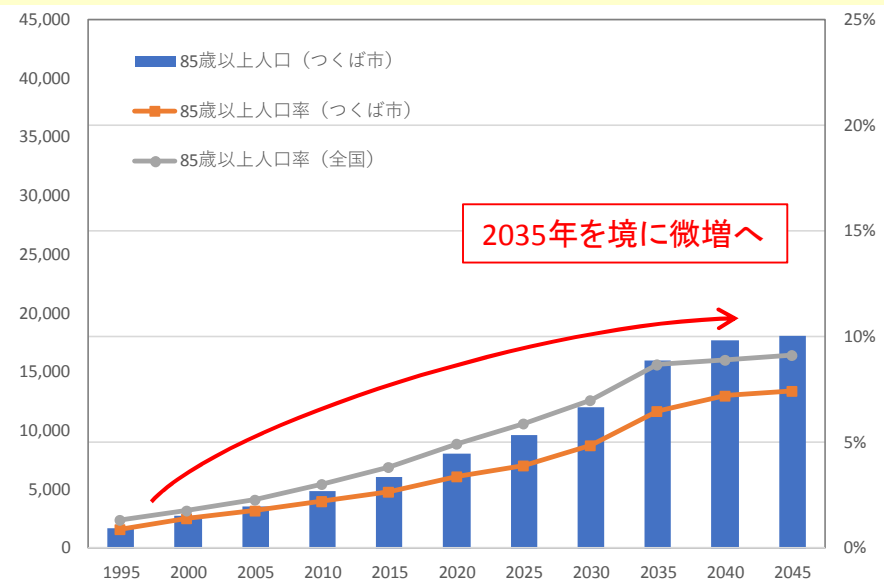
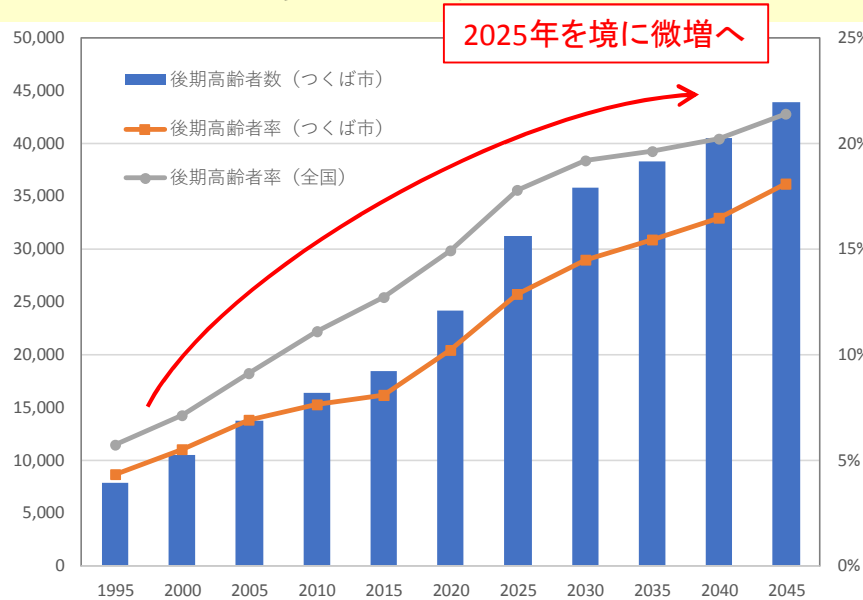
市内の高齢者数の推移

- 市内の高齢者数は、2015年以降も増加の一途をたどり高齢化率も増加傾向にある。
- 日本全体の高齢化率と比較すると、高齢化率は現在(2015年)の18%から2030年時点で25%、2045年時点で32%まで増加すると推算されており、高齢化社会への一層の備えが必要となる。



後期高齢者数と85歳以上人口の推移

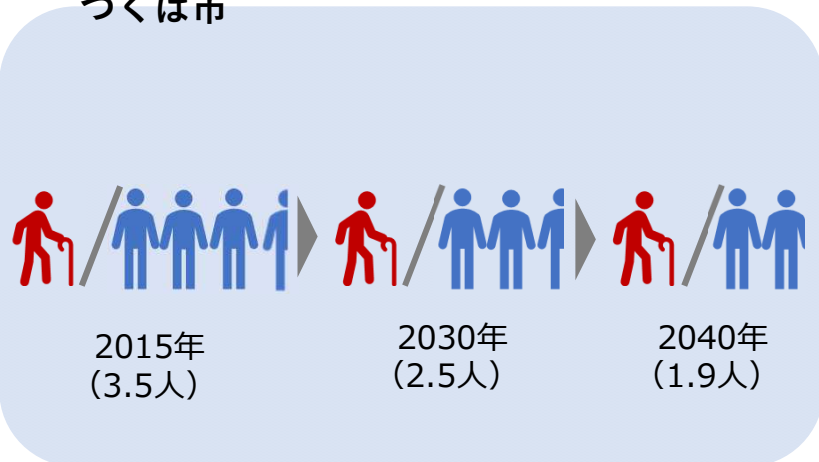
- つくば市は全国平均より後期高齢者率が低いですが、約10～15年遅れで追いかけている状態である。
- 75歳以上の後期高齢者数も増加傾向にあるが、いわゆる団塊の世代が後期高齢者となる2025～2030年頃から微増に転じる。
- 一方、85歳以上人口は将来的に増加し、団塊の世代が85歳以上となる2035年頃までその伸び率は拡大傾向にあり、その後微増に転じる。
- 74歳までの健康で元気な高齢者が増加している中、社会における活躍の場を創出することが重要となる。



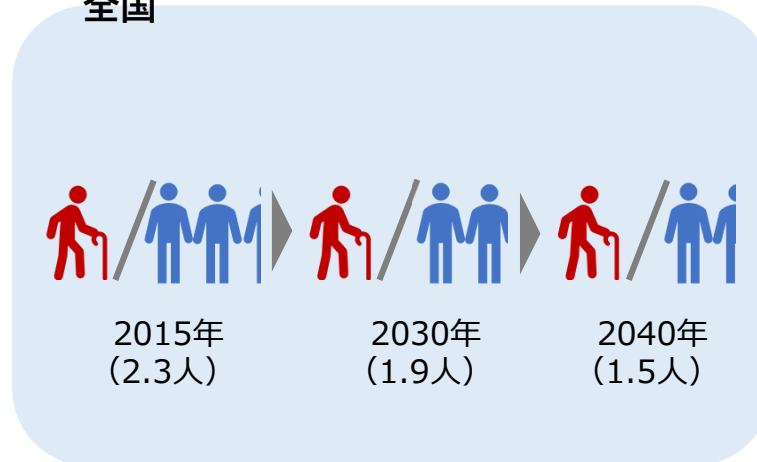
老年人口（高齢者）の概念を65歳以上から75歳以上に変えた場合

15-64歳と65歳以上の割合（15-64歳人口 ÷ 65歳以上人口）

つくば市

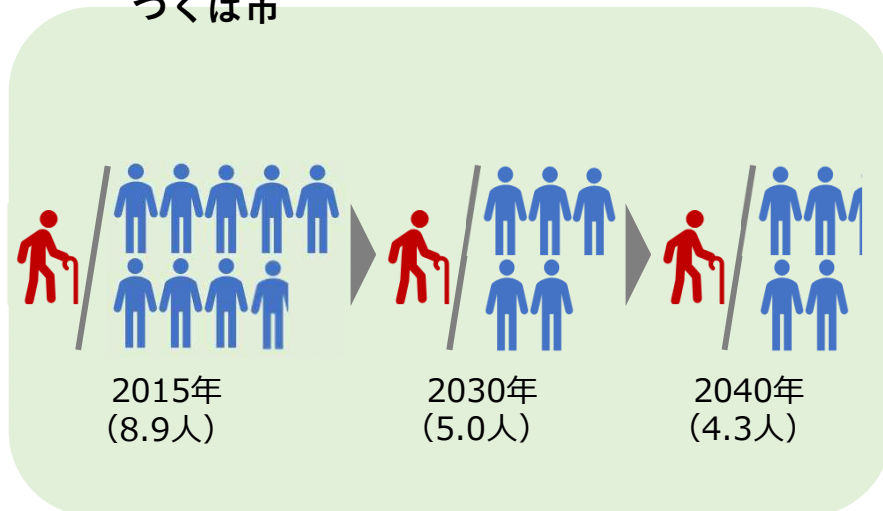


全国

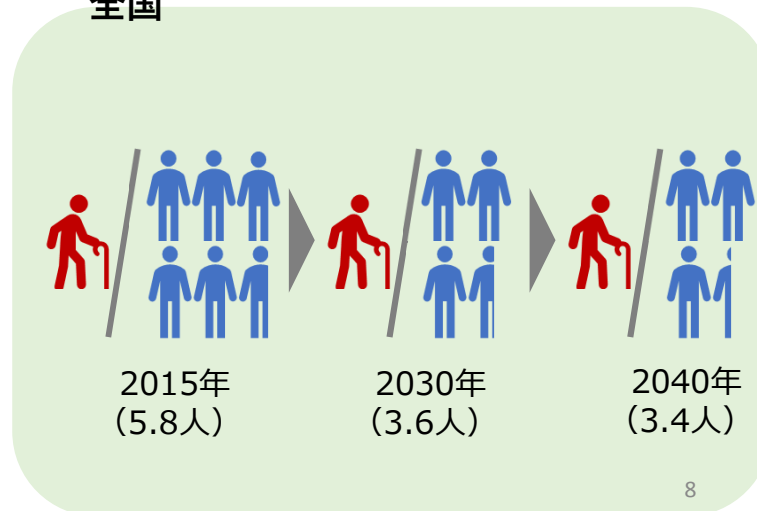


15-74歳と75歳以上の割合（15-74歳人口 ÷ 75歳以上人口）

つくば市



全国

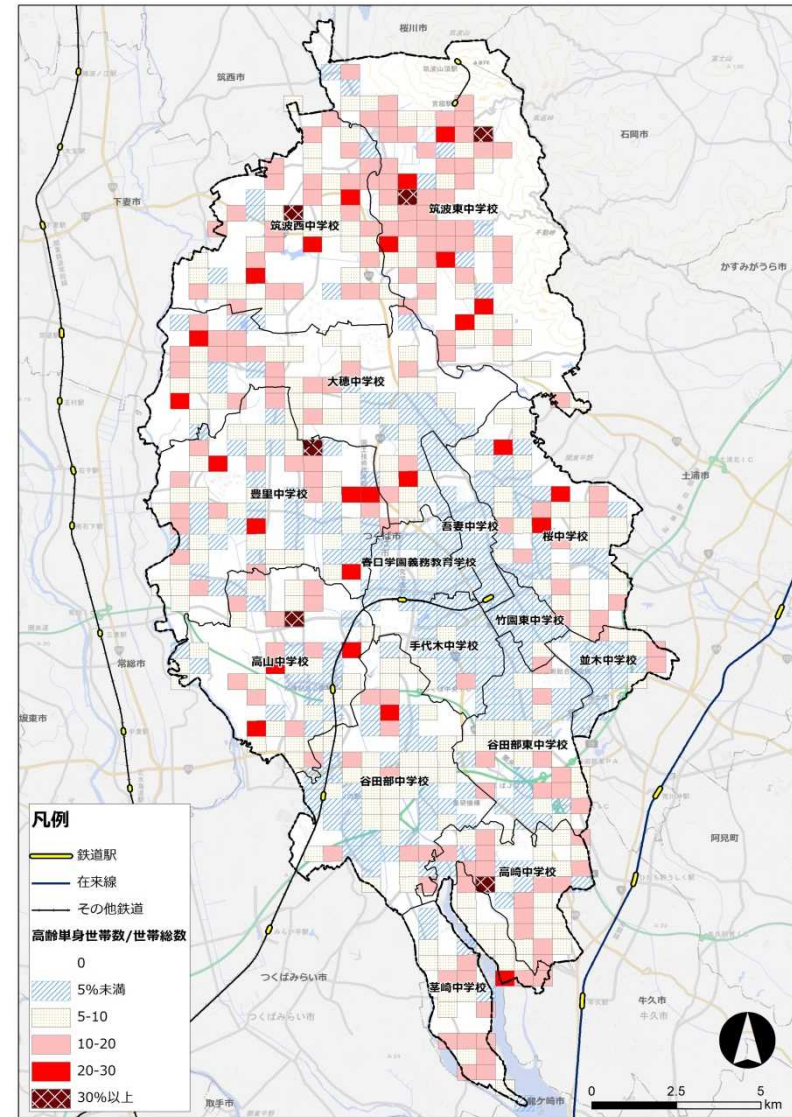
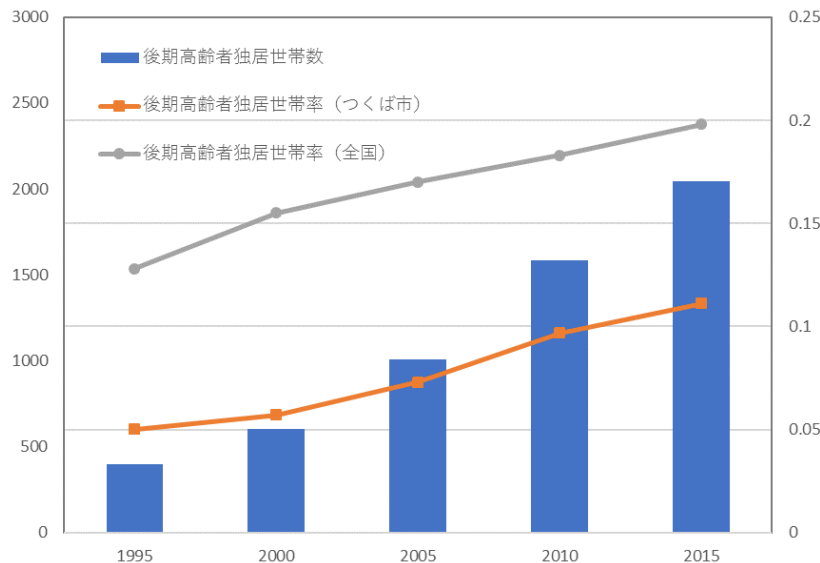


8

出典：社人研推計値より算出

単身高齢世帯の推移と分布

- 単身高齢世帯は増加傾向にあるが全国と比較してもその割合は低い状況にある。
- その分布は、特定の場所に限定されていないものの、郊外部にも多く分布しており、生活の孤立化や交流機会の喪失などが懸念される。
- 自動車免許の返納など、日常生活の足が無くなることなどへの対応の必要性が高まる。



9
高齢単身世帯割合、平成27年国勢調査

市民・中学生・高校生・大学生アンケート調査の実施概要

市民の将来や市の未来像等に関する意向等を把握するため、市民（無作為抽出）及び市内の高校に在学する2年次生徒、市内の大学・大学院に在学する学生に対しアンケート調査を実施する。なお、市内の中学校に在学する2年次生徒についても追加して実施する。

項目	市民	中学生	高校生	大学生
目的	未来構想の改定にあたり、市に対する現状評価や施策要望等を把握する。 また、個人や市の未来に対する希望やイメージ等を抽出する。	中学生意識調査の目的は、市民意識調査の目的に加え、移住・定住に関する検討材料とする。	高校生意識調査の目的は、市民意識調査の目的に加え、移住・定住に関する検討材料とする。	大学生意識調査の目的は、市民意識調査の目的に加え、移住・定住に関する検討材料とする。
対象	市民・18歳以上人口（無作為抽出）8地区均等配布	中学校在学の2年時生（市内19校） ・つくば市立16校 ・県立並木中等教育学校 ・県立つくば特別支援学校 ・茗溪学園中学校高等学校 から各校1クラスずつ	高校在学の2年時生（市内9校） ・県立竹園高等学校 ・県立筑波高等学校 ・県立つくば工科高等学校 ・県立荃崎高等学校 ・県立並木中等教育学校 ・県立つくば特別支援学校 ・茗溪学園中学校高等学校 ・つくば秀英高等学校 ・つくば松実高等学校	大学在学の全学年（市内3校） ・筑波大学 ・筑波技術大学 ・筑波学院大学
方法	郵送配布・郵送回収、希望者はWeb回答も可とする	校長連絡会議で依頼の上、市立中学校は庁内メール便で配布・回収。他3校は直接持込・回収。	校長連絡会議で依頼の上、各校に配布し、ホームルーム等で実施の上、市職員が各校を訪問して回収	大学のメーリングリスト、掲示板等で周知の上、Webで回答
配布数	2,000	760	1,350	—
想定回収率	50%	90%	90%	—
期間	平成30年11月19日（月）～12月3日（月）	平成30年11月26日（月）から2週間程度	平成30年11月19日（月）から2週間程度	平成30年11月15日（木）から2週間程度



つくば市の未来に対する思いをお聞かせください (アンケート調査ご協力をお願い)

つくば市では平成 27 年(2015 年)に「つくば市未来構想」を作り、「未来に向けて今できること」という考えの下、まちづくりに取り組んでいます。現在、その未来構想の改定を進めており、2030 年を目標とする新たな未来像や、今やるべき新たな取り組みなどを盛り込んだ計画作りを行っています。

そのため、市民の皆様から未来に対する不安や希望、目指すべき未来像やつくば市の取り組みについての満足度などを伺うため、アンケート調査を実施することとなりました。

なお、今回のアンケート調査は、住民基本台帳に記載された 18 歳以上(平成 30 年 10 月 1 日現在)の市民の皆様の中から、2,000 人を無作為に選ばせていただきました。

お忙しいところお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、本調査にご協力いただけますようお願い申し上げます。

平成 30 年 11 月 つくば市長 五十嵐 立青

《ご回答にあたってのお願い》

1. ご回答は、無記名方式で行います。ご回答いただきました内容は、すべて統計的に処理されますので、お名前等が公表されることは決してありません。
2. 調査票は、あて名のご本人様にご回答ください。
3. 設問はおおむね 17 問あり、回答に約 10 分かかります。
4. ご記入後は、同封の返信用封筒に入れて、12 月 3 日(月)までに切手を貼らずに郵便ポストに投かんしてください。
5. なお、当アンケートはこの用紙の他に、お手持ちの PC やスマートフォンからもご回答いただけます。どちらかの方法によりご回答ください。

https://s-kantan.jp/city-tsukuba-ibaraki-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=8732



〈問合せ先〉つくば市 企画経営課

TEL 029-883-1111 (代表) 内線 5916 / FAX 029-828-4708

〈調査委託先〉(株)建設技術研究所 東京本社都市部

TEL 03-3668-4493 / FAX 03-5695-0245

※ 返信用封筒の受取人あて先の横にある「バーコード」は、料金受取人払のため郵便局が使用するものです。個人を特定するためのものではありません。

問1 属性

問1-1 性別

あなたの性別について、あてはまる番号を選び、○印をつけてください。いずれにも当てはまらないと考える場合は○印をつけなくても構いません。

「1つ選び」を削除し、選択しない場合を記載

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問1-2 年齢

あなたの年齢について、あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | | | | |
|-------------|------------|------------|------------|
| 1. 18～19歳 | 2. 20～24歳 | 3. 25～29歳 | 4. 30～34歳 |
| 5. 35～39歳 | 6. 40～44歳 | 7. 45～49歳 | 8. 50～54歳 |
| 9. 55～59歳 | 10. 60～64歳 | 11. 65～69歳 | 12. 70～74歳 |
| 13. 75歳～79歳 | 14. 80歳以上 | | |

問1-3 市内居住年数

あなたのつくば市での居住年数について、あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | | | |
|------------|----------|------------|
| 1. 5年未満 | 2. 5年～9年 | 3. 10年～14年 |
| 4. 15年～24年 | 5. 25年以上 | |

問1-4 家族構成

あなたの家族構成について、あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | |
|------------------|
| 1. 夫婦だけ（1世代世帯） |
| 2. 親と子供（2世代世帯） |
| 3. 親と子供と孫（3世代世帯） |
| 4. その他の組み合わせの家族 |
| 5. 家族以外の人とだけ |
| 6. 一人暮らし |
| 7. その他（) |

問2 あなたと地域の未来について

あなた（市民）に関する質問を前に、つくば市（行政）に関する質問を後に移動

問2-1 あなたの未来に対する意識について伺います。
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

1. 不安を感じる
2. どちらかといえば不安を感じる
3. どちらかといえば不安を感じない
4. 不安を感じない
5. わからない

問2-2 問2-1で1~2を選択した方（自分の未来に不安を感じる、どちらかといえば不安を感じると答えた方）に伺います。

具体的にどのようなことに不安を感じますか。あてはまる番号を全て選び、○印をつけてください。

3つまでを全てに修正

1. 自分や家族の健康状況の悪化
2. 大地震などの自然災害の発生
3. 老後の収入や日々の生活環境の悪化
4. 教育サービスの水準の低下
5. リストラや賃金の悪化
6. 自身の経済状況の悪化
7. 自然や環境の破壊
8. 地域の商店や企業の倒産・衰退
9. 犯罪の増加
10. 子育て、教育に対する負担の増加
11. 地域コミュニティの衰退・消失
12. 道路などの生活インフラの老朽化
13. その他（)
14. わからない

問2-3 地域の未来に対する意識について伺います。

居住している地域の未来に対する不安について、あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

1. 不安を感じる
2. どちらかといえば不安を感じる
3. どちらかといえば不安を感じない
4. 不安を感じない
5. わからない

問2-4 問2-3で1~2を選択した方（地域の未来に不安を感じる、どちらかといえば不安を感じると答えた方）に伺います。

具体的にどのようなことに不安を感じますか。あてはまる番号を全て選び、○印をつけてください。

3つまでを全てに修正

1. 地域を支える担い手の不足
2. 地域の人と人のつながりの低下
3. 商店街などのまちの賑わいの喪失
4. 病院・介護施設の不足
5. 地域を支える産業の衰退
6. 就職する企業や働き口の不足
7. 公共施設の老朽化や行政サービスの低下
8. バス路線の統廃合やタクシー会社の撤退
9. 地域の伝統や文化の喪失
10. スポーツ、文化、娯楽などの余暇を楽しむ機会の減少
11. 子どもの遊び場や居場所の不足
12. その他（)
13. わからない

問3 つくば市の未来像について

問3-1 つくば市の未来に対する意識について伺います。

2030年ごろのつくば市の未来は、現在と比べて明るいと思いますか、それとも暗いと思いますか。あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

1. 明るいと思う
2. どちらかといえば明るいと思う
3. どちらかといえば暗いと思う
4. 暗いと思う
5. わからない

問3-2 つくば市が目指すべき社会像について伺います。

つくば市の未来について、どのような社会を目指していくことが望ましいと思いますか。あてはまる番号を全て選び、○印をつけてください。

1. 誰もが自分らしく活躍できるまち
2. 健康でいられる年齢が延び、福祉や医療が充実したまち
3. 教育の質が高く、生涯学び続けられるまち
4. 自然環境や資源を大切にすまち
5. 科学技術の活用により、様々な課題を解決するまち

6. 新たな産業が創出され、働き続けられるまち
7. 道路などの生活インフラが充実したまち
8. 災害や犯罪への対策がとられた安全・安心なまち
9. その他 ()
10. わからない

問3-3 科学技術の発展やグローバル化がもたらす未来像について伺います。

あなたは、2030年ごろの社会において、科学技術の発展やグローバル化がもたらす未来像について、どのようなことを期待しますか。あてはまる番号を全て選び、○印をつけてください。

1. 高齢者や障害者などの生活をロボットがサポートする
2. 外国語自動翻訳システムで言語の壁がなくなる
3. 一人一人に合った教育が受けられる
4. 海外留学や勤務、旅行する人が今より倍に増える
5. 外国人が日本に留学や勤務、旅行する人が今より倍に増える
6. バスやタクシーが自動で運転・配車される
7. 役所の手続きが全てインターネット上で行える
8. 現金を持たずに買物できる
9. 衣服や家などが健康状態を判断し、病気を未然に防ぐ
10. 自宅などで診察や医療が受けられる
11. 自家用車が不要となり公共交通や徒歩が中心となる
12. 物やスペースなどがシェアされる
13. ゲリラ豪雨など自然災害が予報で分かる
14. その他 ()
15. わからない

グローバル化に関する設問
を追加

問3-4 人口減少に対する意識について伺います。

つくば市の人口は現在の約23万人から増加し、2036年には25万9千人とピークを迎え、その後減少に転じると推計されています。あなたは、つくば市の人口が中長期的に減少していくことについてどう思いますか、あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

1. 人口減少は望ましくなく、増加するよう努力すべき →問3-5へ
2. 人口減少は望ましくなく、現在程度の人口を維持すべき →問3-5へ
3. 人口減少は望ましくなく、減少幅が小さくなるよう努力すべき →問3-5へ
4. 人口減少は望ましくないが、仕方がない →問3-5へ
5. 人口減少は望ましい →問3-6へ
6. 人口が減少してもしなくてもどちらでもよい →問3-6へ
7. わからない →問3-6へ

自然増に関する設問であることを強調

問3-5 問3-4で1~4を選択した方（人口減少が望ましくないと答えた方）に伺います。

人口減少の大きな要因が少子化です。少子化対策に関して、特に期待する政策はどのようなものでしょうか。あてはまる番号を全て選び、○印をつけてください。

1. 子育て・教育における経済的負担の軽減
2. 産科医などの出産環境整備
3. 保育所などの子育て環境整備
4. 命や家庭を大切にする価値観の醸成
5. 父親の育児参加の推進
6. 収入や雇用環境の改善
7. 不妊治療の支援
8. 養子・里親家庭の支援
9. 子どもの健康な成長支援
10. 高校や大学への進学支援
11. 若者の就職や自立支援
12. 出会いの場の創出や結婚支援
13. その他（

)

【ここからは、すべての方に伺います】

問3-6 働く年齢について伺います。

今後、日本全体の人口が減少し、個人の健康寿命が延びていく中、あなたは何歳まで働きたいと思いますか。あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

1. 60歳未満
2. 60～64歳
3. 65歳以上で健康に働けるまで
4. 年齢に限らず、経済的な余裕があると判断できるまで
5. 年齢に限らず、生涯何らかの仕事に携わりたい
6. その他（

)

問3-7 あなたや地域、つくば市の未来についてご意見などがございましたらお聞かせください。

未来についての自由意見を前に移動し、強調

問4 今後力を入れるべき取組について

今後、10年間で行政が取り組む事項について、現在の満足度と今後の重要度について伺います。

次の各項目に関する満足度と重要度を、それぞれの項目ごとに、あなたのお気持ちに最も近いものを1つずつ選び、○印をつけてください（項目は1～31まであり、全てについてお答えください。）

項	今後の重要度					現在の満足度				
	非常に重要	まあ重要	あまり重要ではない	まったく重要ではない	分からない	非常に満足	まあ満足	やや不満	非常に不満	分からない
1. 高齢者支援体制の整備	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
2. 障害者の地域生活支援	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
3. 生活困窮者福祉の推進	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
4. 健康づくりの推進	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
5. 子どもと大人の社会力育ての推進	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
6. 教育環境・教育条件の充実	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
7. 生涯学習の推進	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
8. 子育て環境の整備	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
9. 妊娠・出産環境の整備	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
10. スポーツ・文化芸術の振興	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
11. 文化財の保護・活用の推進	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
12. 市政への市民参加の推進	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
13. 男女共同参画社会の推進	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
14. 国際化の推進	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
15. 災害・犯罪に強いまちづくりの推進	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
16. 交通移動体系の整備	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
17. 居住環境や景観の整備	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
18. ITインフラ（無線LAN・フリーWi-Fi）の整備	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
19. 中心市街地、TX沿線地区の活性化	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
20. 既成市街地、既存集落の活性化	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
21. 地域コミュニティ活動への支援	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
22. 公共施設等の跡地利用や空き家対策の推進	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
23. 環境保全・地球温暖化対策の推進	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
24. エネルギー・資源の循環型社会への推進	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0

順番を入れ替え、重要度を前に、満足度を後にし、「分からない」を追加

項 目	今後の重要度					現在の満足度				
	非常に重要	まあ重要	あまり重要ではない	まったく重要ではない	分からない	非常に満足	まあ満足	やや不満	非常に不満	分からない
25. 地元企業の育成	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
26. 新たな産業の創出（ベンチャー企業育成等）	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
27. 農業の振興	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
28. 科学技術の振興（研究開発の支援、科学技術の活用・普及等）	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
29. 観光の振興	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
30. シティ・プロモーションの推進（魅力発信、企業誘致、移住定住促進等）	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
31. その他（ ）	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0

問5 自由意見

その他、つくば市の取組について、何かお気づきの点やご意見などがございましたらお聞かせください。

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。
同封の封筒に3つ折り程度にして封入し、切手を貼らずに投かんしてください。
（表紙の左端に折り目の目安があります。）



つくば市の未来に対する思いをお聞かせください (アンケート調査ご協力のお願い)

全ての漢字に
ルビ（ふりが
な）を挿入

皆さんはつくばや日本の社会はこれからどのように変わっていくと思いますか？

つくば市では平成27年（2015年）に「つくば市未来構想」を作り、「未来に向けて
今できること」という考えのもと、まちづくりに取り組んでいます。現在、その未来構想
の改定を進めており、2030年を目標とする新たな未来像や、今やるべき新たな取り
組みなどを盛り込んだ計画作りを行っています。

そのため、市内の高校に在学する方を対象に、将来希望する進路やつくば市にど
んなまちになって欲しいかなどについてのアンケートを実施することになりました。

これから、未来をともに作っていく皆さんのご協力をお願いします！

平成30年11月 つくば市長 五十嵐 立青

《ご回答にあたってのお願い》

- 質問には、「1つ」または「複数（いくつか）」を選んで、あてはまる番号に○印
をつける場合がありますので、質問に従って回答してください。
- 「その他」にあてはまる場合は、（ ）内に具体的な内容を記入してください。
- 回答が終わりましたら、先生の指示に従い提出してください。
- お名前やご連絡先を記入していただく必要はありません。
- 回答内容はすべて統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはありませんし、他の目的にも利用することはありません。

〈問合せ先〉つくば市 企画経営課

TEL 029-883-1111（代表）内線5916／FAX 029-828-4708

〈調査委託先〉(株)建設技術研究所 東京本社都市部

TEL 03-3668-0715 / FAX 03-5695-0245

つくば市未来構想って？

- 現在、つくば市では、まちづくりの方向性を示す「つくば市未来構想」の改定を進めています。
- 今回、お配りしたアンケートは、あなたの夢をお手伝いし、そのためにつくば市が目指すべき未来像について検討するために活用するものです。ぜひご協力ください。

つくば市未来構想 研究学園都市はすでに50年、そしてこれからの50年を見据えて100年のまちづくり！

つくば市は研究学園都市の建設やつくばエクスプレスの開業に伴い、定住や交流人口の増加が進み、県南地域の中核的都市として成長を続けています。

一方、日本全体が2008年から人口が減少し始め、つくば市においても2036年頃に総人口のピークを迎えた後、減少していくと予測されています。

つくばや日本を取り巻く社会情勢



21世紀半ばを見据えたまちづくり

次の世代につくばを引き継いでいくために

1. 人を育み、みんなで支えあうまち
2. 快適で安全・安心を実感できるまち
3. 環境にやさしく、次世代へつなぐまち
4. つくばの資源をいかし、世界へ貢献するまち



現在の未来構想はホームページでも見ることができます。ぜひご覧ください。

つくば市未来構想 → <http://www.city.tsukuba.lg.jp/shisei/joho/1005290/1005288.html>



2030年の社会はどうなっているの？

- 2030年の社会はどのようになっているのでしょうか。みなさんはどんな未来になって欲しいですか？

2030年のつくばや日本の社会・未来像（イメージ）



問1 あなたの進路について

問1-1 あなたの希望する進路は、次のうちどれですか。あてはまるものを1つ選び、番号に○印をつけてください。

- | | |
|------------------|-------------|
| 1. 就職したい（仕事をしたい） | 2. 大学へ進学したい |
| 3. 専門学校へ進学したい | 4. その他（ |

問1の枝分かれをやめて全員を対象に実施。

問1-2 あなたが仕事を決めるときに、特に大切にすることは何ですか。あてはまるものを3つ選び、番号に○印をつけてください。

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1. やりたい仕事であること | 2. 仕事場が東京に近いこと |
| 3. 仕事場が地元にあること | 4. 給料が高いこと |
| 5. 大きくて有名な会社や職場であること | 6. 将来成長しそうな会社や職場であること |
| 7. 休みが取りやすく、寮や食堂などが充実していること | 8. 家族や親戚から勧められた仕事であること |
| 9. 学校や先生から勧められた仕事であること | 10. ホームページやWEB掲示板で評判が良いこと |
| 11. その他（ | ） |

問1-3 あなたは将来どこで働きたいですか。あてはまるものをすべて選び、番号に○印をつけてください。

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1. つくば市内 | 2. 茨城県内 |
| 3. 東京圏（東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県） | 4. その他日本国内（ご自身の出身地） |
| 5. その他日本国内（ご自身の出身地以外） | 6. 海外 |
| 7. 未定・わからない | |

問1-4 あなたは、高校卒業後にどこに住む予定ですか。あてはまるものを1つ選び、番号に○印をつけてください。

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1. つくば市内 | 2. 茨城県内 |
| 3. 東京圏（東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県） | 4. その他日本国内（ご自身の出身地） |
| 5. その他日本国内（ご自身の出身地以外） | 6. 海外 |
| 7. 未定・わからない | |

問2 つくば市の住みやすさ等について

問2の単身時、結婚時の枝分かれをやめて全員を対象に実施。

問2-1 あなたは、将来、つくば市に住んでみたい、または住み続けたいと思いますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○印をつけてください。

1. 住みたい	}	→	問2-2へ進む
2. どちらかといえば住みたい			
3. どちらかといえば住みたくない	}	→	問2-3へ進む
4. 住みたくない			
5. わからない		→	問3-1へ進む

問2-2 問2-1で「1. 住みたい」または「2. どちらかといえば住みたい」とお答えの方にお聞きします。

あなたが、つくば市に住みたいと思う理由は何ですか。あてはまるものをすべて選び、番号に○印をつけてください。

1. 豊かな自然がある	2. 買物する所や遊ぶ所がある
3. 希望する仕事につける	4. バスや電車が使いやすい
5. 学校や習い事の環境が良い	6. 住環境が良い
7. 病院や障がい者支援施設などが充実している	8. 図書館や公園などが充実している
9. 安全に暮らせる	10. 家族が近くにいる
11. 住み慣れている	12. その他 (具体的に：)

→ 問3-1へ進む

問2-3 問2-1で「3. どちらかといえば住みたくない」または「4. 住みたくない」とお答えの方にお聞きします

あなたが、つくば市に住みたくないと思う理由は何ですか。あてはまるものをすべて選び、番号に○印をつけてください。

1. 自然が少ない	2. 買物する所や遊ぶ所がない
3. 希望する仕事ができない	4. バスや電車が使いづらい
5. 学校や習い事の環境が悪い	6. 住環境が悪い
7. 病院や障がい者支援施設などが不足している	8. 図書館や公園などが不足している
9. 安全に暮らせない	10. 家族と離れてしまう
11. 住み慣れていない	12. その他 (具体的に：)

→ 問3-1へ進む

問3 つくば市の未来像について

問 3-1 2030年ごろのつくば市は、今よりも明るい未来が待っていると思いますか、それとも暗い未来が待っていると思いますか。あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 明るいと思う | 2. どちらかといえば明るいと思う |
| 3. どちらかといえば暗いと思う | 4. 暗いと思う |
| 5. わからない | |

問 3-2 つくば市の未来について、どのような社会になって欲しいですか。あてはまる番号を3つまで選び、○印をつけてください。

- | |
|------------------------------|
| 1. 誰もが自分らしく活躍できるまち |
| 2. 健康でいられる年齢が延び、福祉や医療が充実したまち |
| 3. 教育の質が高く、生涯学び続けられるまち |
| 4. 自然環境や資源を大切にするまち |
| 5. 科学技術の活用により、様々な課題を解決するまち |
| 6. 新たな産業が生まれ、働き続けられるまち |
| 7. 道路などの生活インフラが充実したまち |
| 8. 災害や犯罪への対策がとられた安全・安心なまち |
| 9. その他 () |
| 10. わからない |

問3-3 科学技術の発展やグローバル化がもたらす未来像についてお聞きします。

あなたにとって、2030年ごろに実現して欲しい未来はどれですか。あてはまる番号を全て選び、○印をつけてください。

1. 高齢者や障害者などの生活をロボットがサポートする
2. 外国語自動翻訳システムで言語の壁がなくなる
3. 一人一人に合った教育が受けられる
4. 海外へ留学や勤務、旅行する人が今より倍に増える
5. 海外から日本に留学や勤務、旅行する人が今より倍に増える
6. バスやタクシーが自動で運転・配車される
7. 役所の手続きなどが全てインターネット上で手続きできる
8. 現金を持たずに買物できる
9. 衣服や家などのセンサーが健康状態を判断し、病気を未然に防ぐ
10. 自宅などで診察や医療が受けられる
11. 自家用車が不要となり公共交通や徒歩が中心となる
12. 物やスペースなどがシェアされる
13. ゲリラ豪雨など自然災害が予報で分かる
14. その他 ()
15. わからない

問4 自由意見

つくば市に対する要望や提案など、ご意見がありましたら自由に記入してください。

問5 最後に、あなたご自身のことについてお聞かせください。

問5-1 性別

あなたの性別について、あてはまる番号を選び、○印をつけてください。いずれにも当てはまらないと考える場合は○印をつけなくても構いません。

「1つ選んで」を削除し、いずれにも当てはまらない場合を追記。

1. 男性 2. 女性

問5-2 出身地

あなたの出身地について、記入してください（外国出身の方は国名のみご記入ください）。

(外国出身の方は国名のみご記入ください) () 国
() 都・道・府・県 () 区・市・町・村

問5-3 現在のお住まい

あなたの現在のお住まいについて、あてはまる地区を1つ選び、○印をつけてください。

1. 筑波地区 2. 大穂地区 3. 豊里地区 4. 谷田部地区
5. 桜地区 6. 荃崎地区 7. 研究学園地区※ 8. TX沿線地区※
9. つくば市外 () 区・市・町・村

※研究学園地区：春日、東新井、二の宮、小野川、松代、観音台、東、稲荷前、高野台、茗溪学園寮、天王台、天久保、吾妻、竹園、千現、並木、梅園、大穂、花畑、牧園、若葉

※TX沿線地区：学園の森、研究学園、学園南、春風台上野、春風台上境、島名香取台、島名諏訪、島名陣場、谷田部陣場、谷田部みどりの中央、真瀬みどりの、上萱丸みどりの、上萱丸みどりの中央、下萱丸みどりの、下萱丸みどりの中央、花島新田みどりの、花島新田みどりの中央、西栗山みどりの、西栗山みどりの中央、中野みどりの中央、飯田みどりの東、片田みどりの南、古館みどりの東、根崎みどりの東、上河原崎・中西地区、高山下河原崎、万博公園西島名

問5-4 居住年数

現在のお住まいに住んでどのくらいになりますか。あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

1. 1年未満 2. 1年以上5年未満
3. 5年以上10年未満 4. 10年以上

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。



つくば市の未来に対する思いをお聞かせください (アンケート調査ご協力のお願い)

皆さんはつくばや日本の社会はこれからどのように変わっていくと思いますか？

つくば市では平成27年(2015年)に「つくば市未来構想」を作り、「未来に向けて今できること」という考えのもと、まちづくりに取り組んでいます。現在、その未来構想の改定を進めており、2030年を目標とする新たな未来像や、今やるべき新たな取り組みなどを盛り込んだ計画作りを行っています。

そのため、市内の中学校に在学する方を対象に、将来希望する進路やつくば市にどんなまちになって欲しいかなどについてのアンケートを実施することになりました。

これから、未来をともに作っていく皆さんのご協力をお願いします！

平成30年11月 つくば市長 五十嵐 立青

《ご回答にあたってのお願い》

- 質問には、「1つ」または「複数(いくつか)」を選んで、あてはまる番号に○印をつける場合がありますので、質問に従って回答してください。
- 「その他」にあてはまる場合は、()内に具体的な内容を記入してください。
- 回答が終わりましたら、先生の指示に従い提出してください。
- お名前やご連絡先を記入していただく必要はありません。
- 回答内容はすべて統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはありませんし、他の目的にも利用することはありません。

〈問合せ先〉つくば市 企画経営課

TEL 029-883-1111 (代表) 内線5916 / FAX 029-828-4708

〈調査委託先〉(株)建設技術研究所 東京本社都市部

TEL 03-3668-0715 / FAX 03-5695-0245

問1 つくば市の住みやすさ等について

問1-1 あなたは、将来、つくば市に住んでみたい、または住み続けたいと思いますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○印をつけてください。

1. 住みたい	}	→	問1-2へ進む
2. どちらかといえば住みたい			
3. どちらかといえば住みたくない	}	→	問1-3へ進む
4. 住みたくない			
5. わからない	→		問2-1へ進む

問1-2 問1-1で「1. 住みたい」または「2. どちらかといえば住みたい」とお答えの方にお聞きします。

あなたが、つくば市に住みたいと思う理由は何ですか。あてはまるものをすべて選び、番号に○印をつけてください。

1. 豊かな自然がある	2. 買物する所や遊ぶ所がある
3. 希望する仕事につける	4. バスや電車が使いやすい
5. 学校や習い事の環境が良い	6. 住環境が良い
7. 病院や障がい者支援施設などが充実している	8. 図書館や公園などが充実している
9. 安全に暮らせる	10. 家族が近くにいる
11. 住み慣れている	12. その他 (具体的に：)

→ 問2-1へ進む

問1-3 問1-1で「3. どちらかといえば住みたくない」または「4. 住みたくない」とお答えの方にお聞きします

あなたが、つくば市に住みたくないと思う理由は何ですか。あてはまるものをすべて選び、番号に○印をつけてください。

1. 自然が少ない	2. 買物する所や遊ぶ所がない
3. 希望する仕事ができない	4. バスや電車が使いづらい
5. 学校や習い事の環境が悪い	6. 住環境が悪い
7. 病院や障がい者支援施設などが不足している	8. 図書館や公園などが不足している
9. 安全に暮らせない	10. 家族と離れてしまう
11. 住み慣れていない	12. その他 (具体的に：)

→ 問2-1へ進む

問2 つくば市の未来像について

問 2-1 2030年ごろのつくば市は、今よりも明るい未来が待っていると思いますか、それとも暗い未来が待っていると思いますか。あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 明るいと思う | 2. どちらかといえば明るいと思う |
| 3. どちらかといえば暗いと思う | 4. 暗いと思う |
| 5. わからない | |

問 2-2 つくば市の未来について、どのような社会になって欲しいですか。あてはまる番号を3つまで選び、○印をつけてください。

- | |
|------------------------------|
| 1. 誰もが自分らしく活躍できるまち |
| 2. 健康でいられる年齢が延び、福祉や医療が充実したまち |
| 3. 教育の質が高く、生涯学び続けられるまち |
| 4. 自然環境や資源を大切にするまち |
| 5. 科学技術の活用により、様々な課題を解決するまち |
| 6. 新たな産業が生まれ、働き続けられるまち |
| 7. 道路などの生活インフラが充実したまち |
| 8. 災害や犯罪への対策がとられた安全・安心なまち |
| 9. その他 () |
| 10. わからない |

問2-3 科学技術の発展やグローバル化がもたらす未来像についてお聞きします。

あなたにとって、2030年ごろに実現して欲しい未来はどれですか。あてはまる番号を全て選び、○印をつけてください。

1. 高齢者や障害者などの生活をロボットがサポートする
2. 外国語自動翻訳システムで言語の壁がなくなる
3. 一人一人に合った教育が受けられる
4. 海外へ留学や勤務、旅行する人が今より倍に増える
5. 海外から日本に留学や勤務、旅行する人が今より倍に増える
6. バスやタクシーが自動で運転・配車される
7. 役所の手続きなどが全てインターネット上で手続きできる
8. 現金を持たずに買物できる
9. 衣服や家などのセンサーが健康状態を判断し、病気を未然に防ぐ
10. 自宅などで診察や医療が受けられる
11. 自家用車が不要となり公共交通や徒歩が中心となる
12. 物やスペースなどがシェアされる
13. ゲリラ豪雨など自然災害が予報で分かる
14. その他 ()
15. わからない

問3 自由意見

つくば市に対する要望や提案など、ご意見がありましたら自由に記入してください。

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

個別施策の主要課題の抽出・整理と類型化

1 開催内容


□ 未来構想等個別施策の現状と課題の整理

つくば市未来構想・戦略プランに位置づけられている個別施策について、各部等（次長級）が作成した「個別施策評価調書」に基づき、個別施策の現状と課題等の情報を共有した。加えて、施策に関連する事務事業について、課題のもととなる社会的な背景やつくば市独特の状況等に加え、課題への対策をもとにした理想の状態について意見交換し、課題の根幹にある情報や主要・中長期的な課題を整理することを目的として実施した。

2 開催日時・場所

日時	回数	班分け	施策番号	個別施策	担当課
7月19日 (木) 15:00～ 17:00 全員協議会 室1	職員 WT⑦	1班	12	文化財保護の推進	文化財課
		2班	13	市民協働の推進	市民活動課
					道路管理課
		3班	4	生活困窮者福祉の推進	公園・施設課
					社会福祉課
4班	14	男女共同参画社会の推進	こども未来室		
5班	15	国際化の推進	男女共同参画室		
7月27日 (金) 15:00～ 17:00 職員研修室	職員 WT⑧	1班	8	教育環境の整備	国際交流室
		2班	19	住環境の整備	教育施設課
					健康教育課
		3班	5	健康づくりの推進	市民活動課
					都市計画課
4班	24	商工業の育成	沿線開発整備室		
5班	7		住宅政策課		
					環境保全課
					健康増進課
					国民健康保険課
					産業振興課
					スタートアップ推進室
					教育指導課



日時	回数	班分け	施策番号	個別施策	担当課
				つくばスタイル科の充実	総合教育研究所
8月8日 (水) 9:00～ 10:00 会議室 201	職員 WT⑨	1班	11	文化芸術の振興	文化芸術課
		2班	17	犯罪に強いまちづくりの推進	道路整備課 防犯交通安全課
		3班	21	低炭素化の推進	総合交通政策課 環境政策課
		4班	29	シティ・プロモーションの推進	広報戦略課
		5班	26	科学技術の振興	科学技術振興課
					
8月24日 (金) 9:00～ 11:00 会議室 202	職員 WT⑩	1班	6	小中一貫教育の充実	教育総務課 学務課 教育指導課 総合教育研究所
		2班	16	災害に強いまちづくりの推進	危機管理課 建築指導課 開発指導課 予防広報課 警防課 消防指令課 地域消防課
		3班	2	子育て環境の整備	健康増進課 幼児保育課 こども育成課
		4班	23	資源の保全・活用	農業政策課 廃棄物対策課
		5班	18	交通移動体系の整備	総合交通政策課 道路整備課
8月31日 (金) 9:00～ 11:00 会議室 203	職員 WT⑪	1班	9	教育現場の支援体制整備	教育総務課 教育相談センター 総合教育研究所 特別支援教育推進室 生涯学習推進課
		2班	28	観光の振興	産業振興課 観光推進課

日時	回数	班分け	施策番号	個別施策	担当課
		3班	1	高齢者支援体制の整備	ジオパーク室
					高齢福祉課
					いきいきプラザ
					健康増進課
		地域包括支援課			
4班	25	農業の振興	農業政策課		
5班	3	障害者の地域生活支援	障害福祉課		
9月6日 (木) 9:00~ 10:00 会議室 202	職員 WT⑫	1班	10	スポーツの振興	スポーツ振興課
		2班	20	つくば駅周辺地区の活性化	学園地区市街地振興室
		3班	30	行政改革の推進	人事課
					ワークライフバランス推進室
					総務課
		4班	22	環境意識の啓発	環境政策課
		5班	27	ロボットの街つくばの推進	科学技術振興課

3 当日プログラム（9時開始の場合）

	時間	狙い・目標	活動内容・問い	場の設定
1	9:00 (5分)	オープニング	・事務局説明 本日のゴールやプロセスの説明	
2	9:05 (5分)	構成員と担当課 の関係性を高める	・チェックイン 自己紹介やアイスブレイク（最近うれしかったこと等、テーマは毎回変える）	グループごとの島形
3	9:10 (5分)	課題の共有	・フリートーク 資料は事前に関連し、不明点を質問し、課題を共有する	
4	9:15 (25分)	原因の探索とその対応	・フリーディスカッション 「課題の根幹は何か？」 事業ごとに社会的な背景やつくば市独特の状況等を話し合う 「課題の解決に向けた理想の状態はどのようなものか？」 課題の対策をもとに、理想の状態を抽出する 「2030年にも継続している事業か？」 中長期的な事業であるか、または課題は何かを抽出する	書記が模造紙に記録
5	9:40 (10分)	個別施策の中長期的な課題の抽出	・マトリクス表 重要度-緊急度により分類 ・課題の絞り込み フリーディスカッションにより、個別施策における中長期的な課題を3程度に絞り込む	模造紙の活用
6	9:50 (10分)	各グループの報告	・内容の報告 絞り込んだ主要な課題について、問題点、背景、選んだ理由等を報告	
7	10:00	クロージング	・チェックアウト 今日感じたことを一言ずつ	各グループで実施

() 班ディスカッションシート

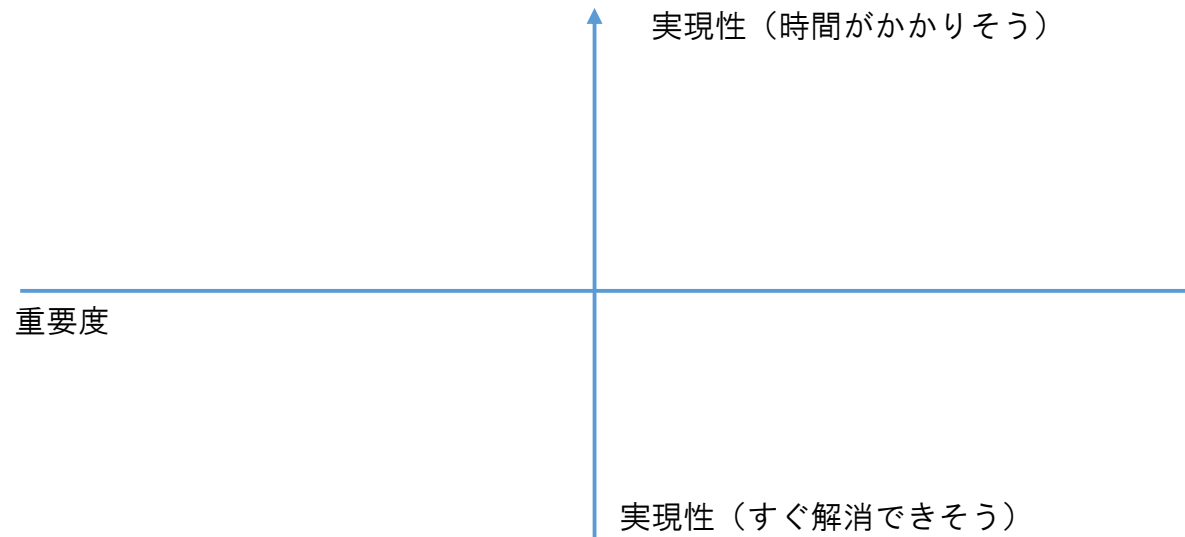
個別施策名

--

(1) 原因の探索

No.	施策・事業の課題	関連する事務事業名	施策・事業の背景・目的 (どういう背景で、何を目的に実施しているのか。Target。)	理想の状態 (目的が達成された状態。Goal。永遠に届かないかもしれないが目指さないといけない姿)	2030年の姿 (理想の状態に到達するための2030年のあるべき姿。または2030年にも継続していくものかどうか。)
	(個別施策評価調書を元に予め施策・事業の課題を記入)	(予め事業名を記入)	(予め施策・事業の目的を記入、背景は当日確認)	(当日検討、複数の事業でまとめてもよい)	(当日検討、複数の事業でまとめてもよい)
①					
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					

(2) 課題の分類



(3) 施策上の中長期的 (10~30年) な課題は何か

4 個別施策に関する主要な課題一覧

No.	個別施策	施策 No.	主要な課題	分野	横串 (キーワード1)	横串 (キーワード2)
1	高齢者支援体制の整備	I-1-1	孤独にならない社会作りのため、市民が集まれる“場”をつくること	健康・福祉	市民が集える場づくり	
2	高齢者支援体制の整備	I-1-1	介護に頼らない社会作りのため、要介護にならない健康づくりをすること	健康・福祉	介護に頼らない社会づくり	
3	高齢者支援体制の整備	I-1-1	安心して暮らせるまちづくりのため、SOSが出せるコミュニティをつくること	健康・福祉	SOSが出せるコミュニティ	
4	子育て環境の整備	I-1-2	子育てに関連する全ての不安がない状態が理想のため、「不安というニーズ」をキャッチしていくことが必要	健康・福祉	市民ニーズの把握	
5	障害者の地域生活支援	I-1-3	互いを理解するような環境をつくること	健康・福祉	相互理解	
6	障害者の地域生活支援	I-1-3	障害の有無にかかわらず住み慣れた地域でともに歩み暮らせるような社会を作ること	健康・福祉	助け合えるまちづくり	
7	生活困窮者福祉の推進	I-1-4	現在だけでなく未来の対象者を含めて探し出し、救うべき対象を漏れなく救えるようにすること	健康・福祉	対象となる人を漏れなく救う	
8	生活困窮者福祉の推進	I-1-4	救うべき対象の支援につなげるまでのアプローチの方法を確立すること	健康・福祉	支援につなげるアプローチ	
9	健康づくりの推進	I-1-5	市民に健康に対し興味関心を持ってもらうとともに、市民に健康に対し正しい知識を提供する	健康・福祉	市民の興味・関心の喚起	
10	小中一貫教育の充実	I-2-1	幼保から小学校、小学校から中学校への一貫性の推進	教育	施策の一貫性	
11	小中一貫教育の充実	I-2-1	小中一貫教育の中での環境の変化への対応(中一ギャップとリセットの機会)	教育	環境変化への対応	
12	小中一貫教育の充実	I-2-1	教員の教育スキルの向上と一定化	教育	教職員・職員の人材育成	
13	小中一貫教育の充実	I-2-1	スクールカウンセラーの配置のための環境整備(予算と人)	教育	教職員・職員の確保	
14	小中一貫教育の充実	I-2-1	社会力育成のための地元地域との連携(特に都市部)	教育	地域との連携	社会力育成
15	つくばスタイル科の充実	I-2-2	つくば次世代型スキルが広範にわたることや家庭環境の変化等により学校に求められる役割が多様化し人材確保が必要	教育	行政の役割の多様化	教職員・職員の確保

No.	個別施策	施策 No.	主要な課題	分野	横串 (キーワード1)	横串 (キーワード2)
16	つくばスタイル科の充実	I-2-2	プログラミング教育の必修化を見据え、様々な事情によりパソコンが家庭にない児童生徒も学校生活で日常的に利用できる環境の整備が必要	教育	IT 環境整備	
17	つくばスタイル科の充実	I-2-2	社会の変化や求められる人材像に合わせてカリキュラムを適宜見直していくことや多様な児童生徒の特性に合わせた柔軟なカリキュラムが必要	教育	変化するニーズへの対応	
18	教育環境の整備	I-2-3	人口増・児童増に対する対応として、人口推計などから必要教室数は算出しているものの、TX の開通などが主な要因の推計を超える急激な人口増に対応すること	教育	人口増への対応	必要な施設整備
19	教育環境の整備	I-2-3	維持コストとして、現状、修繕が必要になってから事後的に対応をしている状態となっているため、予防措置を講じることができるよう財政との連動を図る等対応が必要	教育	施設の適切な維持管理	
20	教育環境の整備	I-2-3	人口減・児童減に対する対応として、2030 年の生産年齢人口、2036 年の人口ピーク以降の減少に伴い、人口増に対応し増築をした施設に空きが生じることが予想されるため、余剰となる施設の有効な利活用の検討	教育	人口減への対応	施設の有効活用
21	教育環境の整備	I-2-3	増設や長寿命化への計画的な対応のための環境整備には資金が必要となり、財政面との連動が必須	教育	施設の適切な維持管理	
22	教育環境の整備	I-2-3	廃校や空き教室の利活用として、想定される人口減少局面に向けて、廃校や空き教室の利活用のスキームを整えておくこと	教育	人口減への対応	施設の有効活用
23	教育環境の整備	I-2-3	市が目指す教育の姿との連動として、教育施設は市の目指す教育を実現するための機能を有する状態をつくること	教育	施策と施設の一貫性	
24	教育現場の支援体制整備	I-2-4	家庭教育と学校教育の連携(親の社会教育力の向上)	教育	親の教育	
25	教育現場の支援体制整備	I-2-4	つくばの特徴を生かした教育実現のためのハードの整備	教育	IT 環境整備	
26	教育現場の支援体制整備	I-2-4	教員の質と量の向上と支援員の配置の充足(待遇改善等)	教育	教職員・職員の人材育成	教職員・職員の確保

No.	個別施策	施策 No.	主要な課題	分野	横串 (キーワード1)	横串 (キーワード2)
27	スポーツの振興	I-3-1	スポーツ施設の整備・修繕等の方針を定め、それを進めていく	スポーツ・文化・芸術	必要な施設整備	
28	スポーツの振興	I-3-1	普段スポーツに興味がない人へのアプローチ方法を検討する	スポーツ・文化・芸術	市民の興味・関心の喚起	
29	スポーツの振興	I-3-1	スポーツをしたい人への情報提供方法を充実させ、ターゲットに合ったイベントを企画する	スポーツ・文化・芸術	市民(ターゲット)への情報提供	
30	文化芸術の振興	I-3-2	日常生活に溶け込んだ文化芸術として、興味がある人はもちろん、興味がない人にも届くように広く情報発信し、文化芸術をなじみ深いものにする	スポーツ・文化・芸術	市民(不特定多数)への情報発信	
31	文化芸術の振興	I-3-2	他団体、他組織との協働として、現在は単発で公演を行っているが、行政民間問わずネットワークを構築していくことで、情報発信やイメージアップにつなげる	スポーツ・文化・芸術	ネットワークの構築	市民(不特定多数)への情報発信
32	文化芸術の振興	I-3-2	活動をしたい人の支援窓口の不存在を解消するため、市民が主体的に文化芸術を創造・表現できる環境の整備や支援制度の設立などプラットフォームを形成する必要がある	スポーツ・文化・芸術	チャレンジ支援	
33	文化芸術の振興	I-3-2	若者世代の参加促進として、文化芸術団体の参加者の高齢化がみられ、活動の先細りが懸念されるため、情報発信や教育との連携により、若者世代の参加促進が必要である	スポーツ・文化・芸術	若者世代の参加	市民(不特定多数)への情報発信
34	文化財保護の推進	I-3-3	文化財に関しては、温度・湿度管理ができる収蔵施設や人が集う中核となる施設の整備(博物館)が必要	スポーツ・文化・芸術	必要な施設整備	
35	文化財保護の推進	I-3-3	小田城跡・金田官衙遺跡保存事業に関しては、愛着を持つ人を増やして、地元の人自らが遺跡をPRするようなNPOが発足することが望まれる	スポーツ・文化・芸術	地域との連携	地域の人材活用
36	文化財保護の推進	I-3-3	文化財展示講座等事業と学校での伝統文化教育支援事業に関しては、愛着を持つ人を増やし、学習向け講座を行うボランティアの育成が必要	スポーツ・文化・芸術	ボランティアの育成	地域の人材活用
37	市民協働の推進	I-4-1	協働事業を市民の善意に頼るには限界があるため、新たなインセンティブの創出の検討	共生のまちづくり	新たな市民協働	

No.	個別施策	施策 No.	主要な課題	分野	横串 (キーワード1)	横串 (キーワード2)
38	市民協働の推進	I-4-1	区会加入率が低迷しているため、区会の在り方を再考し、区会活動が円滑に行えるよう住民の意識啓発及び課題解決に向けた支援を検討していくこと	共生のまちづくり	新たな市民協働	
39	市民協働の推進	I-4-1	周辺地区・学園地区・TX沿線地区でかなり環境が違うため、市内一律の考えではなく、地区の単位・方向性を検討した上で、地区ごとのアプローチを考える	共生のまちづくり	地域ごとの市民協働	
40	男女共同参画社会の推進	I-4-2	性差により不利益を受けている人すべてに手を差し出すこと	共生のまちづくり	対象となる人を漏れなく救う	
41	男女共同参画社会の推進	I-4-2	相談内容がセンシティブな部分であるため分析が困難であり、また、ターゲットとしている人に情報が伝わっていない	共生のまちづくり	対象者の分析	市民(ターゲット)への情報提供
42	男女共同参画社会の推進	I-4-2	行政の問題意識と市民との問題意識との差異がある	共生のまちづくり	問題意識の差異を埋める	
43	国際化の推進	I-4-3	交流都市などにつくば市のよさをアピールすること	共生のまちづくり	市民(不特定多数)への情報発信	
44	国際化の推進	I-4-3	教育環境のよさをアピール(バカロレア認定校の存在など)すること	共生のまちづくり	市民(不特定多数)への情報発信	
45	国際化の推進	I-4-3	国際交流協会を通じ研究所などに人材の豊富さをアピールすること	共生のまちづくり	市民(不特定多数)への情報発信	
46	国際化の推進	I-4-3	国際交流協会への加入のメリットをアピール(コミュニティや研究所、企業への紹介、仲介など)すること	共生のまちづくり	市民(不特定多数)への情報発信	
47	災害に強いまちづくりの推進	II-1-1	自助・共助を確立し、住民が自分たちの手でできることは自分たちでやってもらうこと	防災・防犯	自助・共助の確率	
48	災害に強いまちづくりの推進	II-1-1	そもそも、自助・共助の制度や仕組みが市民に浸透していないことから、災害の分野に限らず、行政全般の課題として、広報の手法の検討・改革が必要	防災・防犯	市民(不特定多数)への情報発信	
49	災害に強いまちづくりの推進	II-1-1	共助を確立するためには、個別施策名「市民協働の推進」の際にも中長期的な課題としてあげられた、「区会の在り方の再考」が必要	防災・防犯	新たな市民協働	

No.	個別施策	施策 No.	主要な課題	分野	横串 (キーワード1)	横串 (キーワード2)
50	犯罪に強いまちづくりの推進	Ⅱ-1-2	行政でやれる範囲が限られているため市民の満足度が低いこと	防災・防犯	行政でやれることの限界	
51	犯罪に強いまちづくりの推進	Ⅱ-1-2	市民の地域コミュニティ内での防犯活動が不可欠であるが、これまでとは違う方法で区会活動の活性化を図ることが重要	防災・防犯	新たな市民協働	
52	交通移動体系の整備	Ⅱ-2-1	高齢化、人口減少など地域の実情に合わせて、常にサービスの更新が必要	交通環境	人口減への対応	サービスの継続的な更新
53	交通移動体系の整備	Ⅱ-2-1	市民意識の改革に時間がかかること	交通環境	市民意識の醸成	
54	住環境の整備	Ⅱ-3-1	新しい住環境の創造・再生として、魅力ある環境を創造するためには、民間事業者の力も必要である。	居住・交流環境	民間事業者の能力活用	
55	住環境の整備	Ⅱ-3-1	住環境の維持・向上として、市と事業者や市民などが協力して、街の環境をつくる必要があるとあり、市民協働の推進と深く結びついている	居住・交流環境	新たな市民協働	
56	住環境の整備	Ⅱ-3-1	街を縮小していくことも視野に入れて考える必要がある。	居住・交流環境	スマートシュリンク	
57	住環境の整備	Ⅱ-3-1	増加する空き家の活用を制度から考えることが必要。	居住・交流環境	空き家の活用	
58	つくば駅周辺地区の活性化	Ⅱ-3-2	どのような地域にすべきか、長期的な視点で将来を見据えた計画的なまちづくりのためのゾーニングを含む具体的なビジョンが必要	居住・交流環境	計画的なまちづくり	
59	つくば駅周辺地区の活性化	Ⅱ-3-2	継続的な収益構造を構築し、魅力的な施設を誘致することが必要であり、そのためには、公務員の発想にはない、名プロデューサーが必要となる。	居住・交流環境	民間事業者の能力活用	
60	低炭素化の推進	Ⅲ-1-1	環境への意識が高い大人に成長させるため、子供たちへの教育が大事だが、教育の結果がでるのに時間がかかるまた、教育は定量評価ができないこと	低炭素化	子どものうちから意識を持たせる	
61	低炭素化の推進	Ⅲ-1-1	取組効果が直接的に個人や地域に還元されないことから、取組実行へとつながらないこと	低炭素化	取組効果の還元	

No.	個別施策	施策 No.	主要な課題	分野	横串 (キーワード1)	横串 (キーワード2)
62	環境意識の啓発	Ⅲ-2-1	取り組みの成果がすぐ感じられるものではないため、環境に対する意識の低い人が多いことから、無関心層へのアプローチ方法の検討が必要	低炭素化	市民の興味・関心の喚起	
63	環境意識の啓発	Ⅲ-2-1	心の余裕と環境に対する意識の高さはどうしても比例することから、皆の「当たり前」にする必要がある	低炭素化	心の余裕を持たせる	
64	資源の保全・活用	Ⅲ-2-2	農業従事者への意識醸成(既存施策の広報不足)	自然環境保全・活用	市民意識の醸成	
65	資源の保全・活用	Ⅲ-2-2	森林事業の重要性周知(観光との連携・森林セラピー・イノシシなど動物や水資源への影響)	自然環境保全・活用	市民(不特定多数)への情報発信	
66	資源の保全・活用	Ⅲ-2-2	リサイクル事業の重要周知(市民の理解協力が重要)	自然環境保全・活用	市民(不特定多数)への情報発信	
67	商工業の育成	Ⅳ-1-1	つくばで起業する際にリスクがあること	産業競争力	スタートアップ支援	
68	商工業の育成	Ⅳ-1-1	つくばは理系の就職先が多いが、文系の就職先が少ないこと	産業競争力	企業誘致	
69	農業の振興	Ⅳ-1-2	後継者不足の解消として、持続可能な農業の実現と耕作放棄地の解消が必要	産業競争力	後継者の育成	
70	農業の振興	Ⅳ-1-2	販路の確保として、地産地消の実現と儲かる農業の実現	産業競争力	地域との連携	
71	農業の振興	Ⅳ-1-2	ブランド力の向上(江戸崎のカボチャや鉾田のメロンのような確固たる地位の確立)として、儲かる農業の実現	産業競争力	ブランド力の向上	
72	科学技術の振興	Ⅳ-2-1	住民要望等の市民ニーズの見える化・共有がされていない	科学技術の活用	市民ニーズの可視化	
73	科学技術の振興	Ⅳ-2-1	・各研究機関の一部研究機能の移転など、研究学園都市の形骸化に対してつくばに集積する意義の見える化が急務(つくば市で起業するメリットの提供が充分ではない)	科学技術の活用	スタートアップ支援	
74	ロボットの街つくばの推進	Ⅳ-2-2	ロボットの開発及び社会実装にはコストがかかること	科学技術の活用	開発・社会実装コスト	
75	ロボットの街つくばの推進	Ⅳ-2-2	規制緩和には段階的な調整が必要であり、時間がかかること	科学技術の活用	規制緩和	

No.	個別施策	施策 No.	主要な課題	分野	横串 (キーワード1)	横串 (キーワード2)
76	ロボットの街づくば の推進	IV-2-2	リスク回避型思考の市民から理解を得るのが難しいこと	科学技術の 活用	市民意識の醸成	
77	観光の振興	IV-3-1	観光で経済を回していくこと	魅力発信	経済循環	
78	観光の振興	IV-3-1	観光を視点として教育、環境保全、人口増に寄与すること	魅力発信	施策間連携	
79	シティ・プロモーシ ョンの推進	IV-3-2	周辺自治体どうして人を取り合う状況になってしまっていること	魅力発信	広域連携	
80	シティ・プロモーシ ョンの推進	IV-3-2	広報担当が全ての情報を一手に担うにはつくば市は科目数 (扱う物事)が多すぎるしかしながら、外向きのプロモーションが 多く、各課での広報対応能力を上げる取組(内向きの取組)は なかなか出来ていないこと	魅力発信	教職員・職員の人 材育成	
81	行政改革の推進	IV-4-1	行政の課題として、『「事業」単位ではない「業務」単位でのコス ト把握』、『人員配置の弾力化、ソフトな人事』、『組織のスリム 化』がある	自立した行 政運営	コスト把握	人事・組織のスリ ム化
82	行政改革の推進	IV-4-1	企業視点の課題として、『企業が参入したいと思えるような「旨 味」のある PPP(Public Private Partnership)手法の導入』、 『「指定管理者制度」等の運用→公共施設がにぎわい指定管 理者が利益を上げられる仕組みづくり』がある	自立した行 政運営	民間事業者の能力 活用	
83	行政改革の推進	IV-4-1	市民の課題として、『SLMによる「市民ファースト」な行政と、IT 化による時間負担を減らした行政サービスの提供で、より高い 満足度を享受』がある	自立した行 政運営	市民ファーストな行 政	IT 環境整備

6 主要な課題の分類と横串・キーワード分析について

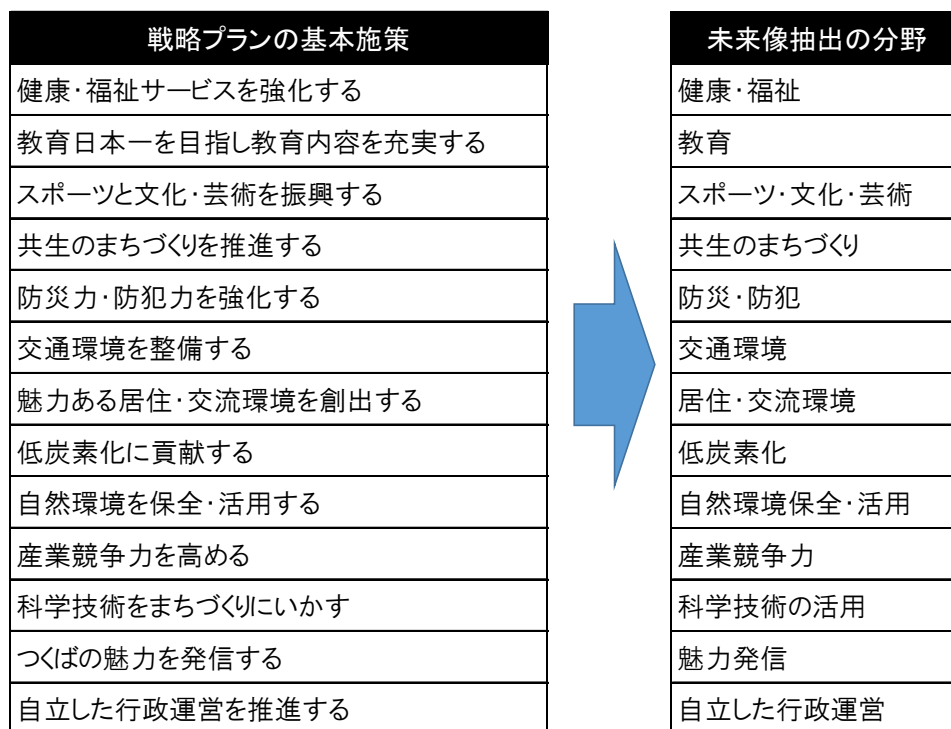
個別施策に関する担当課との意見交換会において、各施策の「理想の状態（あるべき姿）」や「施策上の中長期的（10～30年）な課題」について抽出を行った。これらについて一覧としてまとめるとともに、分類およびお分析を行い、つくば市全体としての中長期的な課題の傾向を明らかにする。特に共通する横串・キーワードが示唆する方向性について、2030年の未来像策定の関連材料として活用することを目的とする。

区分	共通する主なキーワード	項目数	分析・考察
提供等 市民への情報発信・	市民（不特定多数）への情報発信 市民意識の醸成 市民の興味・関心の喚起 市民（ターゲット）への情報提供	10 3 3 2	施策や事業を適切に発信・提供していくことの中長期的な課題を抱えていることが分かる。未来像の策定に当たり、適切な施策や事業に取り組んでいくとともに、それをいかに発信・情報提供していくかについて、検討していく必要がある。
地域連携・	新たな市民協働 地域との連携 地域の人材活用	5 3 2	施策や事業を展開していく上で地域との連携や地域の人材活用をさらに活発にしていくことが重要となるが、そのためにはこれまでの市民協働にとらわれない新たな市民協働について検討していく必要がある。
保・育成 教職員確	教職員・職員の確保 教職員・職員の人材育成	3 3	施策や事業を展開していく上で、人材育成やマンパワーの確保や効率化を図っていく必要がある。
力 民間活	民間事業者の能力活用	3	行政でできることには限界があることから、民間事業者と連携し、民間の活力を最大限用いる必要がある。
応 人口減対	人口減への対応	3	つくば市も2036年をピークとして人口減少社会へ転じる予測であることから、人口減少社会への対応を前提として検討する必要がある。
ア スタート	スタートアップ支援	2	企業や活動を始めようとする人に対して、スタートアップでつまづかないよう行政として可能な限りの支援を行っていく必要がある。
なく救 対象を漏れ	対象となる人を漏れなく救う	2	現状として対象者を把握し切れていないことが原因となって救うべき対象を漏らしてしまうことのないように、後手ではなく先手で対象を把握していく必要がある。
整備・管理 適切な施設	必要な施設整備 IT環境整備 施設の適切な維持管理 施設の有効活用	3 3 2 2	市民サービスのもととなる各種施設について、必要な施設整備や適切な維持管理、有効活用を検討していく必要がある。

施策分野別に課題の数をグルーピングしたものが下表である。

施策分野	課題数	分析・考察
教育	17	施策分野別の課題数を比較した場合、「教育」が最も多く、続いて「スポーツ・文化・芸術」「共生のまちづくり」が多い結果となった。課題数の多寡で単純に判断できるものではないが、中長期的に施策を推進していく上で特に配慮する必要があることが分かる。
スポーツ・文化・芸術	10	
共生のまちづくり	10	
健康・福祉	9	
科学技術の活用	5	
居住・交流環境	5	
産業競争力	5	
防災・防犯	5	
低炭素化	4	
魅力発信	4	
自然環境保全・活用	3	
自立した行政運営	3	
交通環境	2	
合計	82	

参考：分野について



未来像抽出のプロセス（時点修正）と戦略

1 未来像抽出プロセス（時点修正）

未来像の抽出は STEP 1～4 に分けて段階的に実施する。STEP 2 までで 20 年、30 年先を見据えた課題を抽出（社会情勢、市民ワークショップ、SDGs 等）し、職員により SWOT 分析を実施した（現在と将来の 2 種類の SWOT 分析）。続いて、主要施策の主要な課題を踏まえ、未来像を抽出するための要素やキーワードの分析を行っている。この結果に基づき STEP 3 以降で未来像の抽出を行う。

段階	実施	目標・作業	活動
STEP 1 ・ 関連データの収集・分析 ・ 主要施策の現状把握	6 月 ～ 11 月	①未来構想に関する各種データの整理及び共有(事務局・WT) ②個別施策の課題原因探索、緊急度・重要度ごとの課題分類、施策上の主要・中長期的な課題の抽出(WT)	●各種基礎調査等 ●中長期課題の整理
STEP 2 ・ 20 年、30 年先を見据えた課題を抽出（社会情勢、市民ワークショップ、SDGs 等）	10 月 11 月	③個別施策別の主要課題整理と類型化（事務局） ④職員 SWOT 分析(WT) ⑤市民 SWOT 分析をふまえた戦略整理(市民 WS) ⑥有識者委員との意見交換(WT)	●課題の類型化と分析 ●職員 SWOT 分析 ●市民 SWOT 分析と市民が考える未来像の抽出 ●審議会委員と意見交換会(WT) ・11/2 1 回目、11/7 2 回目、11/21 3 回目 ●市民・中学生・高校生・大学生アンケートの実施
STEP 3 ・ 20 年、30 年先を見据えた主要論点と対応方針	12 月	⑦市民等アンケートによる施策満足度や未来像等の意見集約(アンケート) ⑧得られた課題に対する方針の検討（実現可能性や効果発現期間の共有）(WT)	●未来像策定(WT) ・11/30 1 回目、12/7 2 回目、12/19 3 回目 ●特別職と意見交換(一回目)(WT) ・12 月中旬
STEP 4 ・ 2030 年の未来像の抽出	1 月		●特別職と意見交換(二回目)(WT) ・1 月中旬 ●庁内プレゼン(WT) ・1/16 第 5 回策定委員会 ●未来像調整(WT) ・1/18 4 回目、1/25 5 回目

STEP5 ・ 未来構想素案の策定		⑨ 2030 年の未来像の 具体化(WT)	● <u>審議会プレゼン</u> (WT) ・ 1/30 第4回審議会
	2月	⑩ 未来構想素案の作成 (WT・事務局)	● 未来像再調整(WT) ・ 1/31 6回目、・ 2/7 7回目
	3月		● 未来構想素案作成(事) ・ 2月中 ● <u>素案庁内発表</u> (WT・事) ・ 2/22 第6回策定委員会 ● <u>素案審議会発表</u> (WT・事) ・ 3/1 第5回審議会 ● <u>素案の再調整</u> (WT・事) ・ 3月中

2 SWOT 分析で抽出された各戦略と現施策の主要な課題の分類

(1) SWOT 分析

SWOT 分析は、現在と将来の 2 種類で実施し、フォアキャスト（現在から未来の姿を戦略化）とバックキャスト（将来の姿から戦略化）を実施。

現在 SWOT	S(強み)	W(弱み)
<ul style="list-style-type: none"> □ 現時点から当面講じるこ とが考えられる戦略 □ 機会と脅威はWTの意見を 時系列に合わせて再分類 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が増加傾向にある ・開発できる土地がたくさんあり 首都圏に比べ地価が安い ・筑波大があり若年層流入 ・大学発ベンチャー・創業が盛 ん ・市民が多国籍で、色々な才能 を持った市民が多い ・筑波大、研究所により科学の 街のブランドが確立されている ・研究所が多く最新技術にふれ られる場がある ・交通アクセスが良い(成田・羽 田・茨城空港、TX、圏央道) ・筑波山等の自然が多い ・公園(自然)がたくさんある ・ジオパークに認定されている ・教育環境が整っており他市か らの人口流入がある ・子育て支援が充実している ・高速道路等の IC があり物流拠 点になりやすい。 ・大学病院等大きな病院が多い ・平野が多く自然災害が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・新住民のコミュニティ弱い ・面積が広くコンパクトが困難 ・合併前の地域等で、一体化が 図りにくい ・中心部と周辺部の生活水準や 考え方の差が大きい ・筑波山以外の全国的観光資 源や特産物があまりない ・公共交通が弱く車がないと生 活が不便 ・市内中心部の渋滞がはげしい ・保育所が不足しており待機児 童数が県内 1 位 ・核たる産業がない ・農業の跡継ぎ不足が深刻化 ・大きな商業施設が閉店しつく ば駅周辺が低迷、小型商店が 弱いイメージ ・出産可能施設が不足 ・娯楽施設が少ない ・広報力がなく情報発信が弱い ・東京まで通勤するには遠い
<p>O(機会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TX 沿線人口の増加 ・子育て世代人口の増加 ・市街地整備によるつくば駅周 辺の活性化 ・筑波大学発の企業の増加 ・新技術を活用したまちづくり ・圏央道 4 車線化に伴う交通量 の増加に伴う交通の広域化 ・常磐道・圏央道整備に伴う物 流拠点化 ・オリンピック、国体などの開催 	<p>【成長戦略】強み×機会 強みで機会を活かした成長戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 開発可能な土地×道路網整 備→企業誘致 ○ 研究所×子育て→つくばで生 まれつくばで働く ○ 筑波大学×スタートアップ支援 →人口流出防止 ○ ベンチャー×新技術→科学技 術で市民生活に恩恵を ○ 研究者(OB 含む)×ベンチャ ー起業→つくば発ブランド 	<p>【克服戦略】機会→弱み 機会に乗り弱みを克服する戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子育て世代人口の増加×確た る産業不足→定住促進 ○ 農業跡継ぎ不足×新技術→ 農業生産性の向上・新規就農 者支援 ○ 圏央道・常磐道整備×働く場 不足→産業集積による活性化
<p>T(脅威)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進行や介護費の増 加 ・保育所不足 ・災害の頻発化 ・つくば駅周辺の衰退 ・空き家の増加 ・周辺地域など郊外部の過疎化 ・耕作放棄地の増加 ・インフラや市内施設の老朽化 ・既存集落の過疎化 	<p>【克服戦略2】脅威←強み 強みで脅威を克服する戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 公園がたくさんある×災害の頻 発化→防災公園化による安 全・安心な暮らし ○ 若年層×耕作放棄地→農家 体験機会の提供 ○ 人口流入×インフラ老朽化→ 施設更新・都市構造の明確化 	<p>【回避戦略】弱み×脅威 弱みを克服し最悪の事態を回避</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 商店の撤退・娯楽施設が少な い×駅周辺の衰退→人が集ま る空間づくり、駅周辺商業誘致 ○ 農業衰退×人口減少・少子高 齢化→商品開発や農業の大 規模化、新規就農者の獲得 ○ 地域コミュニティの弱さ×高 齢化→中心部と周辺部の交流機 会の創出

<p>将来 SWOT</p> <p>□ 将来（2030年頃）講じることが考えられる戦略</p> <p>□ 機会と脅威はWTの意見を時系列に合わせて再分類</p>	<p>S(強み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発できる土地がたくさんあり首都圏に比べ地価が安い ・筑波大、若年層の流入、大学発ベンチャーが多く創業盛ん ・市民が多国籍で、色々な才能を持った市民が多い ・筑波大、研究所により科学の街のブランドが確立されている ・研究所が多く最新技術にふれられる場がある ・交通アクセスが良い(成田・羽田・茨城空港、TX、圏央道) ・筑波山等の自然が多い ・公園(自然)がたくさんある ・ジオパークに認定されている ・教育環境が整っており他市からの人口流入がある ・子育て支援が充実している ・高速道路等のICがあり物流拠点になりやすい。 ・大学病院等大きな病院が多い ・平野が多く自然災害が少ない 	<p>W(弱み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新住民のコミュニティ弱い ・面積が広くコンパクトにしない ・合併前の地域等で、一体化が図りにくい ・中心部と周辺部の生活水準や考え方の差が大きい ・筑波山以外の全国的観光資源や特産物があまりない ・公共交通が弱く車がないと生活が不便 ・市内中心部の渋滞がはげしい ・保育所が不足しており待機児童数が県内1位 ・核たる産業がない ・農業の跡継ぎ不足が深刻化 ・大きな商業施設が閉店しつづれば駅周辺が低迷、小型商店が弱いイメージ ・出産できる施設の不足 ・娯楽施設が少ない ・広報力がなく情報発信が弱い ・東京まで通勤するには遠い
<p>O(機会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気な高齢者の増加 ・外国人増加に伴う国際化進展 ・TXの延伸 ・働き方の多様化(遠隔就業) ・筑波大学発の企業の増加 ・新技術を活用したまちづくり ・茨城県のIT施策の浸透 ・筑波大がAI・自動運転推進 ・AIモビリティの整備促進 ・窓口サービスを自宅で可能 ・ワインがつくばの名産になり全国に普及 ・ICT活用で利便性向上 ・バス・タクシーの自動化 ・SDGsの取り組みが実現 	<p>【成長戦略】強み×機会</p> <p>強みで機会を活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な才能を持つ市民×元気な高齢者の増加→地域主体のまちづくり ○科学の街×AI・自動運転→新技術の社会・生活への実装 ○筑波山・ジオパーク×ICT活用→観光地開発 ○ジオパーク×ワイン特区→新たな特産品の開発・浸透 ○外国人研究者や在住外国人×高い教育→グローバル人材育成 ○平野が多く災害に強い×SDGs→持続可能な都市経営 	<p>【克服戦略】機会→弱み</p> <p>機会に乗じて弱みを克服</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自動運転特区や公共交通にかわる近未来技術実装 ○ベンチャー・ICTの発展×弱いコミュニティ→新たな区会制度、区会運営会社の設立、高齢者チャットネットワーク ○元気な高齢者の増加×農業跡継ぎ不足→リタイア世代の新規就農支援 ○ICT・新技術×農業跡継ぎ不足→IT農産物の特産品化
<p>T(脅威)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働人口減少 ・TX沿線の新住民の高齢化 ・電子社会としてのリスク増大 ・情報格差 ・地球温暖化をはじめ災害激化 ・医療・介護の必要な人の増加 ・未婚化 ・廃墟増加 ・コミュニティ崩壊 	<p>【克服戦略2】脅威←強み</p> <p>強みで脅威を克服</p> <ul style="list-style-type: none"> ○災害激化×平野が多く災害に強い→防災施策の集中投資 ○コミュニティ崩壊×優れた教育環境や子育て支援充実による人口流入→新たなコミュニティのあり方 ○医療・介護の必要な人の増加×大病院など医療体制の充実→健康長寿の取り組み 	<p>【回避戦略】弱み×脅威</p> <p>弱みを克服し最悪の事態を回避</p> <ul style="list-style-type: none"> ○弱い広報力×情報格差→各世帯へのタブレット支給など新たな情報収集ツールの創出 ○未婚化×農業後継者不足→儲かる農業の確立 ○中心部の渋滞×地球温暖化→公共交通利用・中心部への車乗り入れ禁止

未来構想改定の骨子と 2030 年の未来の方向性

1 未来構想改定の骨子について

未来像の抽出にあたり、現未来構想の構成とそれぞれの項目の期間について整理を行う。

(1) 未来の都市像とまちづくりの理念の統合

第 1 回審議会において全体の構成図を示したとおり、現未来構想の「未来の都市像」と「まちづくりの理念」を統合し、新未来構想では「まちづくりの理念」に統一する。未来の都市像については 21 世紀半ばを目標としていることから抽象度が高く、具体的な都市像がイメージしにくいことから、つくば市の SDGs の基本的な考え方である「持続可能都市ビジョン」等とも整合をはかりつつ「まちづくりの理念」としてまとめる。

(2) 2030 年の未来像は基本施策と同等レベルに設定

2030 年の未来像については、現戦略プランの基本施策と同等レベルに設定し、SDGs 未来都市計画に定める C I V I C により未来の方向性を分類する。

【現】未来構想等

未 来 構 想	未来の都市像 ⇒21世紀半ば
	住んでみたい 住み続けたいまち つくば ～人と自然と科学が育む スマート・ガーデンシティ ～
構 成	まちづくりの理念 ⇒21世紀半ば
	I 人を育み、みんなで支えあうまち II 快適で安全・安心を実感できるまち III 環境にやさしく、次世代へつなぐまち IV つくばの資源をいかし、世界へ貢献するまち
戦 略 プ ラ ン	基本施策 ⇒21世紀半ば
	健康・福祉サービスを強化する スポーツと文化・芸術を振興する 共生のまちづくりを推進する 防災力・防犯力を強化する ...等 計13の基本施策
ラ ン	個別施策 ⇒21世紀半ば
	高齢者支援体制の整備 子育て環境の整備 障害者の地域生活支援 生活困窮者福祉の推進 ...等 計30の個別施策

【改定後】未来構想等

未 来 構 想	まちづくりの理念 ⇒21世紀半ば
	包摂都市 共創都市 人材都市 科学技術都市 (持続可能都市ビジョンをもとに項目を精査し、必要に応じて追加予定)
構 成	2030年の未来像 ⇒2030年
	《CIVICで未来の方向性を分類》 1 こどもの未来(Child) 2 包摂的な社会(Inclusive) 3 価値の創造と継承(Value) 4 誰もが使いやすいインフラ(Infrastructure) (ユニバーサルインフラ) 5 循環と環境保全(Circulate)
戦 略 プ ラ ン	施策 ⇒2030年
	《平成31年度に策定》 縦串の施策(従来の個別施策レベル) 横串の施策(施策間を横断するもの)

2 2030年の未来の方向性について

2030年の未来の方向性については、現未来構想等の理念や基本・個別施策と連動・対応するように整理を行う。

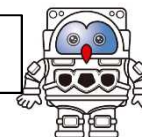
現未来構想のまちづくりの理念

個別施策

(参考) つくば市SDGs未来都市計画

<p>I 人を育み、みんなで支えあうまち</p> <p>少子・高齢化の進行や社会情勢の変動に伴い、子どもを生み育てる環境の変化や世帯構成の多様化による地域コミュニティの希薄化など、地域社会においても変化が起きつつあります。</p> <p>このような中、子育てや教育、健康・福祉など、個人や家庭における課題に対しても、社会や地域で互いに支え合うことができる環境が必要であり、思いやりにあふれ、やすらぎが感じられる社会が求められています。</p> <p>このような観点からつくば市は、教育日本一を目指した学校教育をはじめ、生涯学習の充実、スポーツの推進、文化・芸術の振興、健康・福祉の増進、地域コミュニティの活性化等に積極的に取り組み、未来を担う子どもや、地域社会を担う人材、世界で活躍するグローバルな人材が育ち、暮らしの様々な場面で互いに支え合うことができるまちを目指します。</p>	<p>子育て環境の整備</p> <p>小中一貫教育の充実</p> <p>つくばスタイル科の充実</p> <p>教育環境の整備</p> <p>教育現場の支援体制整備</p> <p>高齢者支援体制の整備</p> <p>障害者の地域生活支援</p> <p>生活困窮者福祉の推進</p> <p>健康づくりの推進</p> <p>スポーツの振興</p> <p>市民協働の推進</p> <p>男女共同参画社会の推進</p> <p>国際化の推進</p>
<p>II 快適で安全・安心を実感できるまち</p> <p>東日本大震災や竜巻などの大規模な自然災害は、その発生自体を回避することは困難ですが、災害に対する備えを万全にするなど、災害に強く、安全に安心して暮らせる地域であることが、住みやすさの前提となります。</p> <p>また、道路や街並み、公園、上下水道、学校など、これまで整備してきた都市基盤は、市民の暮らしを支え、安らぎを与える重要な役割を担っています。</p> <p>このような観点から、つくば市は、自助・共助・公助の連携により防災力・防犯力を高めるとともに、都市基盤が整い、緑あふれるゆとりある空間等、快適で安全・安心を実感できるまちを目指します。</p>	<p>災害に強いまちづくりの推進</p> <p>犯罪に強いまちづくりの推進</p> <p>交通移動体系の整備</p> <p>住環境の整備</p> <p>つくば駅周辺地区の活性化</p>
<p>III 環境にやさしく、次世代へつなぐまち</p> <p>地球温暖化対策やエネルギー対策に加え、身近な生活環境の保全是、未来の暮らしに影響を与える重要な課題です。</p> <p>そのため、豊かな自然や科学技術をいかしたエネルギーの活用に加え、筑波山や里山、河川などに包まれた田園地域と都市の調和を図るとともに、持続可能な地球環境の実現に向けこれまで以上に取り組んでいく必要があります。</p> <p>このような観点から、つくば市は、先人たちから受け継いできた豊かな自然環境の保全是はじめ、環境問題に積極的に対応し、暮らしやすいまちを次の世代へとつなぐことを目指します。</p>	<p>低炭素化の推進</p> <p>環境意識の啓発</p> <p>資源の保全・活用</p>
<p>IV つくばの資源をいかし、世界へ貢献するまち</p> <p>つくば市は、豊かな自然環境、歴史と文化、国際性そして世界の先端を行く研究・教育機関の集積など、他に類を見ない多様な資源があります。</p> <p>また、「筑波研究学園都市」として、つくば市は、世界的な視野に立って、様々な主体と連携を図り、世界的課題を解決していく重要な役割が求められています。</p> <p>つくば市は、多様な資源を活用し、地域の産業を発展させるとともに、新産業創出に取り組み、地域の活力を生み出し、我が国及び世界へ貢献することがつくばの未来をひらくという観点から、世界のイノベーションをリードするグローバル拠点都市として、世界が集い、世界に羽ばたくまちを目指します。</p>	<p>文化芸術の振興</p> <p>文化財保護の推進</p> <p>商工業の育成</p> <p>農業の振興</p> <p>科学技術の振興</p> <p>ロボットの街つくばの推進</p> <p>観光の振興</p> <p>シティ・プロモーションの推進</p> <p>行政改革の推進</p>

<p>1 こどもの未来(Child)</p> <p>持続可能なまちづくりに最も重要な要素が「人」である。公正・公平、人権、平和等の普遍的な価値を尊重し、他者、社会、自然環境との関係性を認識し、持続可能な地域と世界を構築するために自ら働きかけ変革を起こす人材が育つまちを実現する。</p> <p>そのために、まちの未来を担うこともたちの成長を地域が一体となって支え、時代を越えて地域の課題解決や活性化に貢献する人材を輩出するための取組を推進する。</p>
<p>2 包摂的な社会(Inclusive)</p> <p>年齢、性別、地域、国籍等によらず、人間一人ひとりの安全と尊厳が守られ、つくばに集うすべての人が自分らしく生き、幸せが溢れるまちを実現する。</p> <p>そのために、限られた資源の集中的・効率的な利用により「多極ネットワーク型の持続可能でコンパクトな都市」を目指しながら、市内の各地域において、独自の魅力を引き出し、住みよく活気ある地域づくりを進め、市民がいきいきと生活する包摂的なまちづくりを推進する。</p>
<p>4 誰もが使いやすいインフラ(ユニバーサルインフラ)(Infrastructure)</p> <p>「車がなくてもどこにでも行けるまち」を実現し、誰もが安全で快適に移動できることで、人々の交流が生まれ、まち全体に活力が溢れる社会を実現する。</p> <p>そのために、持続可能な公共交通ネットワークの構築や、自転車利用・歩行環境の向上を図り、誰もが使いやすく便利なユニバーサルインフラの整備を推進する。</p>
<p>5 循環と環境保全(Circulate)</p> <p>名峰筑波山をはじめとする恵み豊かな自然環境の保全を始め、地域や地球社会が直面している環境問題に対し、市民一人一人が取るべき行動を考え、実行するまちを実現する。</p> <p>そのために、「環境モデル都市」としての取組で築き上げた地域コミュニティや、環境に関する専門家及び高い環境意識を持った市民と共に、循環型社会と環境保全の取組を推進する。</p>
<p>3 価値の創造と継承(Value)</p> <p>恵み豊かな自然、最先端の科学技術、世界に開かれた多様性などのつくばの資産を、先人たちへの敬意と感謝をもって、未来の世代に継承し発展させる。</p> <p>そのために、地域産業の競争力向上や、社会のニーズに順応したサービスの創出による地域の活力の創出や、まちの高付加価値化を図る。特に、科学技術の集積と地域内外のパートナーシップをいかし、地域課題の解決や市民生活の向上に資する取組を推進することで、社会・環境課題解決型の持続的な地域イノベーションによる価値の創造と継承を実現する。</p>



① 未来の方向性をCIVICで分類し、CIVICごとにWTを5班で編成

- ・11/30(金)WTにおいて、本人の希望に添ってCIVICごとにメンバーを5班に編成

② 班ごとに未来像を策定

- ・各班ごとに2~4程度の未来像を策定。合計15程度となることを想定。
- ・未来像の抽象度・具体度は現在の基本施策を参考とする。

③ 審議会委員とWTとの意見交換会の成果を反映

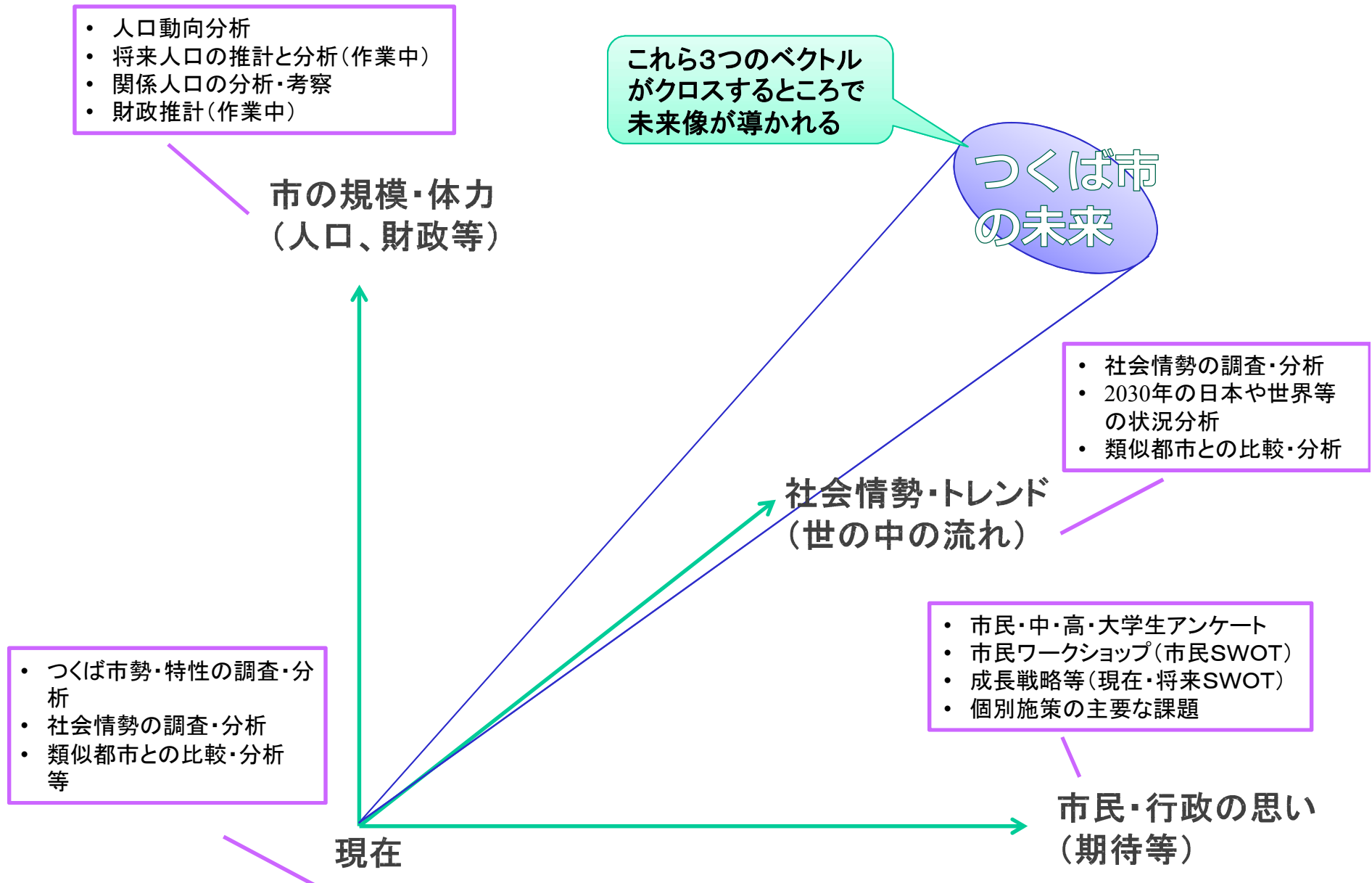
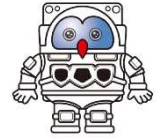
- ・審議会委員とWTとの意見交換会の成果を受けて、審議会委員の提案内容等について可能な限り未来像に反映させる。

④ 第4回審議会において未来像の案をプレゼン

- ・1/30(水)第4回審議会においてWTメンバーが各案についてプレゼンを行う。

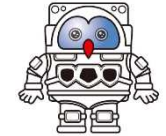


2030年の未来の方向性の明示





出産・子育てに社会全体で取組む



施策の分野	未来の方向性
-------	--------

健康・福祉	1 こどもの未来(Child)
-------	-----------------

未来像の提案イメージで、このシートを作成し、審議会等でプレゼンする

■ 2030年に実現する未来（2030年に目指す未来像・理想の状態）
 ・ストーリー仕立てで簡潔に書く。

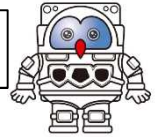
■ 背景・目的（どういう背景で、何を目的に実施するのか）
 ・これまでに実施した個別施策の意見交換会やWT構成員が個々人で分析する内容、SWOT分析で導いた戦略等をもとに組み立て。

■ 戦略（どういう戦略で未来像を具体化するのか）
 ・達成方法等については戦略プラン策定で詳細な議論を行うが、戦略の方向性や概略を示す。

■ 主要な課題（未来像を目指す上で、行く手を阻んでいるもの）
 ・未来像を達成するために、現時点で考えられる構造的な課題や変革と必要とするものを想定する。達成方法等については戦略プラン策定で詳細な議論を行うが、未来構想では主要な課題の把握でとどめる。

■ 数値目標（2030年までに達成するもの）
 名称：○●の普及状況
 数値：2018年●%→2030年■%
 根拠：△の達成により、毎年度★%ずつ普及度を向上させる

■ 関連個別施策（現個別施策で包含するもの）
 ・子育て環境の整備
 ・つくばスタイル科の充実
 ・教育環境の整備
 ・教育現場の支援体制整備



《意見交換に向けて》

つくば市の未来に向けたまちづくりの理念として、「持続可能なまち」という普遍的なまちの姿を掲げていますが、具体的にはどのような都市・まちを目指していくべきでしょうか。

委員の皆様の御意見をお聞かせください。

(関連資料)



持続可能都市ビジョン（抜粋）

- 「誰一人取り残さない」包摂の精神のもと、年齢、性別、地域、国籍などによらず、人間一人ひとりの安全が守られ、地域の隅々まで福祉がいきわたり、つくばに集うすべての人が自分らしく生き、幸せが溢れるまち。
- 公正・公平、人権、平和などの普遍的な価値を尊重し、他者、社会、自然環境との関係性を認識し、持続可能な地域と世界を構築するために自ら働きかけ変革を起こす人材が育つまち。
- 科学技術の進歩が市民の日々の生活に恩恵を与えるよう、その限界を認識しながらも可能性を追求する対話を通して先駆的に活かし、人類共通の課題の解決に貢献するまち。
- 市政の透明性と説明責任を重視し、市民、行政、議会、地域団体、大学・研究機関、企業などが一体となって持続可能な取り組みを進め、世界に新たな未来像を提示するまち。

(関連資料)

つくば市政にSDGs（持続可能な開発目標）の 理念を反映するための取組を求める決議（抜粋）



～SDGsでは、発展途上国の貧困解消のためには、世界的な気候変動や海、水の問題など包括的な問題を解決することが大切であり、途上国だけでなく、先進国、民間企業、NGO、自治体、個人などすべての関係者が対象となる問題解消の枠組みを構築したことが特徴であると言える。SDGsは、法的拘束力はないものの、17の包括的な目標と169のターゲットがあり、その下に230の指標がある三層構造となっている。

日本政府は、SDGs関連として、9億ドルの支援と30億ドルの取組、日本円にして合計約4,000億円を投資すると表明しており、これまでの取組を改めてSDGsの枠組みに整理するなど、その重要性を世界に明確に発言している。

つくば市としてもSDGsに関する勉強会やフォーラムの開催を通して、SDGsの理念がつくば市の持続可能なまちのあり方と一致することを確認してきた。今後は、SDGsを活用し、包摂的な社会の実現や持続可能なまちづくりを進める人材の育成、科学技術を取り入れた課題解決等に関する取組を市民、議会、行政等が丸となって行うことが必要である。これらのことから、つくば市には、今後、SDGsの理念をつくば市政に反映するための取組を進めることを求める。

以上決議する。

平成30年3月16日
つくば市議会

(関連資料)

SDGs 未来都市



- 経済・社会・環境の3側面における新しい価値創出を通じて、持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市として、29の自治体が選定された。



SDGs未来都市選定証交付式
(平成30年6月15日総理官邸にて)

つくば市が提案する 《CIVIC事業》

- ① Child : こどもの未来
- ② Inclusive : 包摂的な社会
- ③ Value : 価値の創造と継承
- ④ Infrastructure : ユニバーサルインフラ
- ⑤ Circulate : 循環と環境保全

関係人口に関するWeb アンケート（案）

1 関係人口の定義とつくば市未来構想での位置づけ

(1) 関係人口の定義

関係人口については、総務省で以下のように定義している。

関係人口とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々を指す言葉である。

地方圏において人口減少・高齢化により地域づくりの担い手不足という課題に直面しているが、地域によっては若者を中心に、変化を生み出す人材が地域に入り始めており、「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されている。

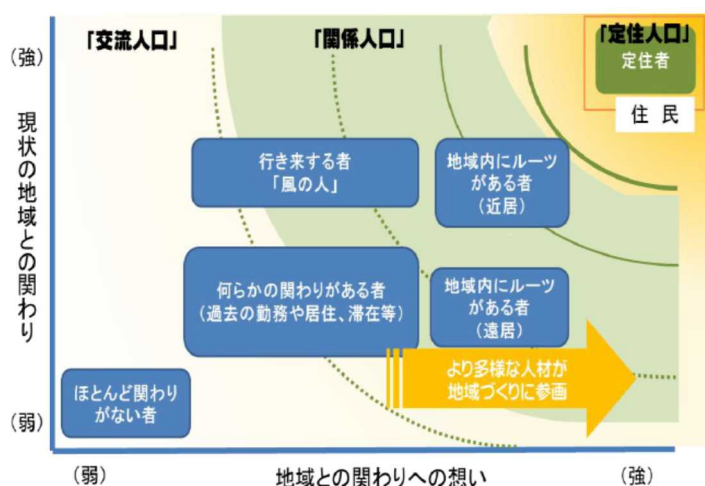


図1 「関係人口」のイメージ

関係人口には、その地域にルーツがある者として、近隣の市町村に居住する「近居の者」と遠隔の市町村に居住する「遠居の者」、また、ルーツがない者としては、過去にその地域での勤務や居住、滞在の経験等を持つ「何らかの関わりがある者」のほか、ビジネスや余暇活動、地域ボランティア等をきっかけにその地域と行き来するいわば「風の人」が存在するとされる。

以上から、つくば市における関係人口は、具体的には次のような人々を示すと考えられる。なお、つくば市は近年、つくばエクスプレスや圏央道の開通により、都心や近隣都県から比較的アクセスのしやすい環境が整い、遠居であってもつくば市と多く関わりを持つことが可能であるため、つくば市の関係人口を考える際には、近居と遠居を区別

しないものとする。

- ① 市外在住（近居及び遠居）であるが、つくば市にルーツがある人々
- ② 過去につくば市に勤務・居住・滞在したことのある人々
- ③ ビジネスや余暇活動、地域ボランティア等をきっかけにつくば市を行き来する人々

(2) 未来構想における関係人口の位置付け

現在のつくば市未来構想では関係人口に関する記述はないが、持続可能なまちを実現していく上では、定住者や交流人口の他に、つくば市と様々な形で関わりをもつ関係人口の考えを取り入れ、まちの活性化や移住・定住等の施策の推進に活用していくことが必要であると考えられる。

2 アンケートの実施方法

(1) 関係人口アンケートの目的

つくば市のまちづくりの総合的な指針となる未来構想の改定において、持続可能なまちを実現していくために、「関係人口」を増やす施策や、魅力向上のための施策の立案に必要な基礎情報を収集する。

(2) アンケートの実施方法

本アンケートは、市外在住の方が調査対象となるため、効率的な調査手段としてWebアンケートを実施する。Webアンケートのモニターとして登録している方のうち、本アンケートの調査対象者である「TX沿線の都市及びつくば市近隣都市在住の方」に回答を依頼し、結果の分析を行う。

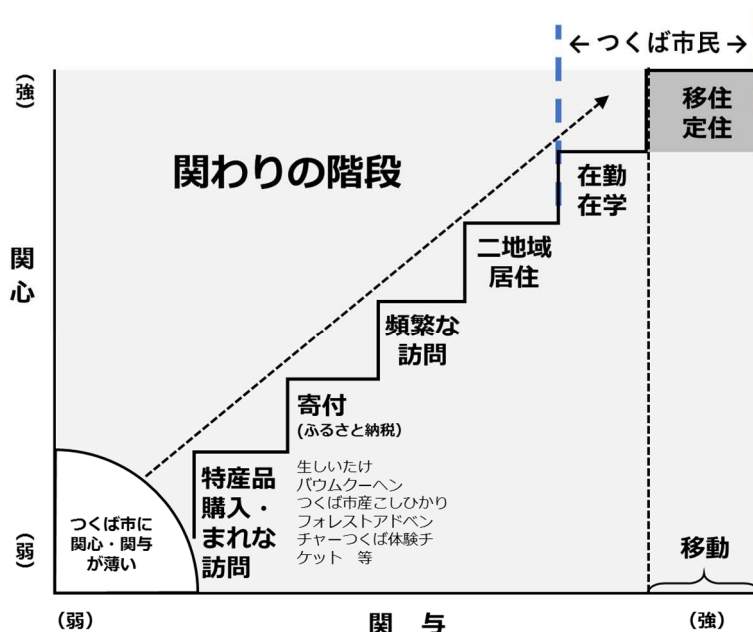


図2 「関係人口」の関わり方の段階のイメージ
(参考：国土交通省資料)

表 Web アンケートの調査概要および設問概要

属性	居住地、業種、性別、年代	
対象	TX 沿線の都市および近隣都市を対象に、2,000 通を以下の割り付けで実施することを想定。(括弧内は市町村区別の割り付け数) ・茨城県：552 通 守谷市 (50)、つくばみらい市 (37)、常総市 (47)、下妻市 (32)、筑西市 (74)、桜川市 (27)、石岡市 (57)、土浦市 (105)、牛久市 (63)、龍ヶ崎市 (60) ・千葉県：436 通 柏市 (307)、流山市 (129) ・埼玉県：166 通 三郷市 (102)、八潮市 (64) ・東京都：846 通 足立区 (512)、荒川区 (155)、台東区 (138)、千代田区 (41)	
設問番号	設問内容	設問のねらい
問 1	つくば市との関わりの有無	つくば市への訪問、滞在等の把握
問 2～3	つくば市への訪問頻度・訪問目的	関係の度合いと目的の把握
問 4	つくば市の魅力について	関係人口から見たつくばの魅力の把握
問 5	つくば市のイメージについて	近隣住民からみたつくば市の把握
問 6	つくば市の特徴的な取組み、物産について	つくば市での取組み、特徴に関する認知度の把握
問 7	ふるさと納税について	つくば市へのふるさと納税者の把握
問 8	訪れたいと思うまちについて	無関係な人口をつくば市に呼び込むために必要な要素の把握
問 9	住んでみたいと思うまちについて	移住・二地域居住推進に向けた必要な取組みの把握
問 10	つくば市の未来像について	望まれる将来像の把握

3 Web アンケート設問案

問1 あなたとつくば市の関わりについてお伺いします。あてはまる番号を一つ選び、○印をつけてください。

1. 過去につくば市に勤務・居住・滞在・通学していたことがある
2. 仕事や通学、観光、買い物、レジャー、地域ボランティア等をきっかけにつくば市を定期的に行き来する
3. 仕事や通学、観光、買い物、レジャー、地域ボランティア等をきっかけにつくば市を不定期に行き来する
4. つくば市を訪れたことはない

【ここからは、問1で1～3を選択した方に伺います。】

問2 あなたは、最近1年の間にどのくらいの頻度でつくば市を訪れていますか。あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

1. 週に3日以上
2. 週に1回程度
3. 月に1・2回程度
4. 年に数回程度
5. 1度だけ訪れたことがある

問3 つくば市へはどのような目的で訪れましたか（単なる通過を除く）。あてはまる番号をすべて選び、○印をつけてください。

1. 観光地や観光施設への来訪
2. 仕事（通勤や、通勤以外の出張等の仕事関係）
3. 通学
4. 催し物・イベントへの参加（まつりやマラソンへの参加等）
5. 食事や買い物
6. スポーツ・レジャー
7. 公共施設（図書館や公園等）の利用
8. 研究機関等の見学・訪問
9. 医療機関や福祉施設の利用
10. 実家や親戚宅への訪問
11. つくば市内の鉄道駅（つくば駅・研究学園駅・万博記念公園駅・みどりの駅）やバスの利用
12. 高速道路の入口、出口の利用（高速道路上での通過を除く）
13. その他（ ）

6. 災害や犯罪に強いまち	4	3	2	1	0
7. 交通の利便性がよいまち	4	3	2	1	0
8. 居住環境が整ったまち	4	3	2	1	0
9. 環境に優しいまち	4	3	2	1	0
10. 緑などの自然が豊かなまち	4	3	2	1	0
11. 産業が盛んなまち	4	3	2	1	0
12. 科学のまち	4	3	2	1	0
13. 魅力が常に発信されているまち	4	3	2	1	0
14. 行政により先進的な取り組みがされているまち	4	3	2	1	0

問6 次のつくば市の特徴的な場所、イベント、特産品等について、ご存じのものに○印を、買ったことのあるものもしくはいったことのある場所、参加したことのあるイベントに◎印をつけてください。

1. 筑波山
2. フォレストアドベンチャーつくば
3. つくば霞ヶ浦りんりんロード
4. 筑波山地域ジオパーク
5. 史跡（平沢官衙遺跡、小田城跡など）
6. 自然体験施設（豊里ゆかりの森、筑波ふれあいの里、荃崎こもれび六斗の森など）
7. 農産物・特産品（北条米、ブルーベリー、福来みかんなど）
8. 物産品（つくば産品を使った菓子や酒などの加工食品）
9. まつり（まつりつくば、筑波山梅まつり、つくばフェスティバルなど）
10. つくばエキスポセンター
11. 市内各研究機関（JAXA 宇宙センター、産業技術総合研究所など）
12. セグウェイ体験ツアー
13. 上記のいずれも知らない

問7 つくば市では、問6であげた特徴的な施設の利用や特産物等を返礼品として「ふるさと納税」を受け入れています。ふるさと納税について、あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

1. つくば市へ「ふるさと納税」をしたことがある
2. つくば市以外へ「ふるさと納税」をしたことがある
3. 「ふるさと納税」をしたことがないが興味がある
4. 「ふるさと納税」をしたことがなく興味もない
5. 「ふるさと納税」ができない

